

# 疾病、傷害及び死因統計分類提要（2010年版） 第1巻 総論・新旧対照表（事務局仮訳）

※WHO 勧告文及び改正案の文中における、追加、変更等は、下線により、又、削除は取り消線によって示している。

No.	現行	改正案	WHO勧告（原文）
1	<p><b>目次</b> 4.2.2 「因果関係がほとんどない」の解釈</p>	<p><b>目次</b> 4.2.2 <u>「因果関係がほとんどない」の解釈</u> 死因統計の原死因の選択における認められる因果関係と認められない因果関係</p>	<p><b>Table of contents</b> 4.2.2 <u>Interpretation of “highly improbable” Accepted and rejected sequences for the selection of underlying cause of death for mortality statistics</u></p>
2	5a 勧告	5.14a 勧告	5a. Recommendations 138a
3	<p><b>3.1.3 病態に対する二つのコード</b> 「剣印および星印」システム</p> <p>剣印（+）および星印（*）システムは、統計表章のための選択的な分類を提供するが、ICD の原則は、剣印コードが一次コードであって、常に使用しなければならないコードであるということである。もし他の表章方法もまた必要とされる場合には、「追加して」使用するための星印コードを使用する準備をしなければならない。コーディングには、星印コードは決して単独で使用してはならない。剣印コードを取り入れている統計は、疾病および死亡のデータの表章および医学的ケアのその他の側面についての伝統的な分類に従っている。</p>	<p><b>3.1.3 病態に対する二つのコード</b> 「剣印および星印」システム</p> <p>剣印（+）および星印（*）システムは、統計表章のための選択的な分類を提供するが、ICD の原則は、剣印コードが一次コードであって、常に使用しなければならないコードであるということである。もし他の表章方法もまた必要とされる場合には、「追加して」使用するための星印コードを使用する準備をしなければならない。コーディングには、星印コードは決して単独で使用してはならない。ただし、<u>疾病コーディングにおいては、疾患の発現が医療の焦点である場合、剣印と星印の順を逆転させてもよい。</u> 剣印コードを取り入れている統計は、<u>疾病および死亡のデータの表章および医学的ケアのその他の側面についての伝統的な分類に従っている。</u></p>	<p><b>3.1.3 Two codes for certain conditions</b> <i>The “dagger and asterisk” system</i> .....</p> <p>While the dagger and asterisk system provides alternative classifications for the presentation of statistics, it is a principle of the ICD that the dagger code is the primary code and must always be used. <del>Provision should be made for the asterisk code to be used in addition if the alternative method of presentation may also be required.</del> For coding, the asterisk code must never be used alone. <u>However, for morbidity coding, the dagger and asterisk sequence may be reversed when the manifestation of a disease is the primary focus of care.</u> Statistics incorporating the dagger codes conform with the traditional classification for presenting data on mortality <del>and morbidity</del> and other aspects of medical care.</p>
4	<p><b>3.1.4 内容例示表で使用されている取り決め</b></p> <p>「他に分類されないもの&lt;NEC&gt;」 「他に分類されないもの」という語句は、3 桁分類項目のタイトルで使用された場合、掲載されている病態のある特定の変異型が、分類のその他の箇所に現れるかもしれないという警告として働いている。たとえば： J16 その他の感染病原体による肺炎、他に分類されないもの この分類項目は、J16.0 クラミジア肺炎および J16.8 その他の明示された感染病原体による肺炎を含んでいる。多くのその他の項目が、明示された感染病原体による肺炎のために、第 X 章（たとえば、J10-J15）およびその他の章（たとえば、P23.-先天性肺炎）に用意されている。J18 肺炎、病原体不詳は、感染病原体が記載されていない肺炎を受け入れるために作られている。</p>	<p><b>3.1.4 内容例示表で使用されている取り決め</b></p> <p>「他に分類されないもの&lt;NEC&gt;」 「他に分類されないもの」という語句は、3 桁分類項目のタイトルで使用された場合、掲載されている病態のある特定の変異型が、分類のその他の箇所に現れるかもしれないという警告として働いている。たとえば： J16 その他の感染病原体による肺炎、他に分類されないもの この分類項目は、J16.0 クラミジア肺炎および J16.8 その他の明示された感染病原体による肺炎を含んでいる。多くのその他の項目が、明示された感染病原体による肺炎のために、第 X 章（たとえば、<u>J09J10-J15</u>）およびその他の章（たとえば、P23.-先天性肺炎）に用意されている。J18 肺炎、病原体不詳は、感染病原体が記載されていない肺炎を受け入れるために作られている。</p>	<p><b>3.1.4 Conventions used in the tabular list</b></p> <p><i>“Not elsewhere classified”</i> The words “not elsewhere classified”, when used in a three-character category title, serve as a warning that certain specified variants of the listed conditions may appear in other parts of the classification. For example: J16 Pneumonia due to other infectious organisms, not elsewhere classified This category includes J16.0 Chlamydial pneumonia and J16.8 Pneumonia due to other specified infectious organisms. Many other categories are provided in Chapter X (for example, <u>J09-J15</u>) and other chapters (for example, P23.- Congenital pneumonia) for pneumonias due to specified infectious organisms. J18 Pneumonia, organism unspecified, accommodates pneumonias for which the infectious agent is not stated.</p>
5	<b>4.1.5 原死因選択のルール</b>	<b>4.1.5 <u>起点となる先行原因原死因</u>選択のルール</b>	<b>4.1.5 Rules for selection of the originating antecedent cause</b>

No.	現行	改正案	WHO勧告 (原文)
6	<p><b>4.1.7 一般原則と選択ルールの例示</b></p> <p>一般原則</p> <p>死亡診断書に複数の病態が記載されている場合は、I欄の最下欄に単独で記載された病態が、その上欄に記載されたすべての病態を引き起こす可能性がある場合に限り、その病態を選ぶ。</p> <p>例 8: I (a) 脳出血 (b) 高血圧 (症) (c) 慢性腎盂腎炎 (d) 前立腺腺腫</p> <p>前立腺腺腫 (N40) を選ぶ。</p>	<p><b>4.1.7 一般原則と選択ルールの例示</b></p> <p>一般原則</p> <p>死亡診断書に複数の病態が記載されている場合は、I欄の最下欄に単独で記載された病態が、その上欄に記載されたすべての病態を引き起こす可能性がある場合に限り、その病態を選ぶ。</p> <p>例 8: I (a) 脳出血 (b) 高血圧 (症) (c) 慢性腎盂腎炎 (d) 前立腺腺腫</p> <p>前立腺腺腫 (N40D29.1) を選ぶ。</p>	<p><b>4.1.7 Examples of the General Principle and selection rules</b></p> <p><i>General Principle</i></p> <p><b>When more than one condition is entered on the certificate, select the condition entered alone on the lowest used line of Part I only if it could have given rise to all the conditions entered above it.</b></p> <p><i>Example 8:</i> I (a) Cerebral haemorrhage (b) Hypertension (c) Chronic pyelonephritis (d) Prostatic adenoma</p> <p>Select prostatic adenoma (N40D29.1).</p>
7	<p><b>4.1.7 一般原則と選択ルールの例示</b></p> <p>ルール 3</p>	<p><b>4.1.7 一般原則と選択ルールの例示</b></p> <p>ルール 3</p> <p><u>心不全 (I50.-) および心疾患, 詳細不明 (I51.9) は、他の心臓の病態の明らかな結果と考えるべきである。</u></p> <p><u>肺水腫 (J81) は、心疾患 (肺性心疾患を含む)、肺実質に影響のある病態 (肺感染症、誤嚥および吸入、呼吸窮迫症候群、高地、毒素循環等)、体液過剰を起こす病態 (腎不全、低アルブミン血症等)、肺循環に影響のある先天奇形 (肺静脈の先天性狭窄等) の明らかな結果と考えるべきである。</u></p>	<p><b>4.1.7 Examples of the General Principle and selection rules</b></p> <p><i>Rule 3</i></p> <p><u>Heart failure (I50.-) and unspecified heart disease (I51.9) should be considered an obvious consequence of other heart conditions.</u></p> <p>Pulmonary edema (J81) should be considered an obvious consequence of heart disease (including pulmonary heart disease); of conditions affecting the lung parenchyma, such as lung infections, aspiration and inhalation, respiratory distress syndrome, high altitude, and circulating toxins; of conditions causing fluid overload, such as renal failure and hypoalbuminemia; and of congenital anomalies affecting the pulmonary circulation, such as congenital stenosis of pulmonary veins.</p>
8	<p><b>4.1.7 一般原則と選択ルールの例示</b></p> <p>ルール 3</p> <p>J12-J18 にある各種肺炎は、免疫機能を低下させる病態の結果として生じたと考えるべきである。J18.0 と J18.2-J18.9 項目の肺炎は明らかに次の疾患によって生じたと考えられる。すなわち、悪性腫瘍や栄養失調 (症) といった消耗性疾患、脳出血や脳塞栓症といった麻痺を起こす疾患、また、呼吸器疾患や、伝染病、重症な損傷があげられる。J18.0 および J18.2-J18.9、J69.0 と J69.8 項目の肺炎は嚥下機能に影響を与える疾患が原因となっていると考えるべきである。</p>	<p><b>4.1.7 一般原則と選択ルールの例示</b></p> <p>ルール 3</p> <p><u>大葉性肺炎, 詳細不明 (J18.1) は、アルコール使用による依存症候群 (F10.2) の明らかな結果と考えるべきである。J12-J18 にある各種肺炎は、免疫機能を低下させる病態の結果として生じたと考えるべきである。J15.0-15.6、J15.8-J15.9、J16.8、J18.0 と J18.2-J18.9 項目の肺炎は次の疾患の明らかな結果と考えるべきである。すなわち、悪性腫瘍や栄養失調 (症) といった消耗性疾患、脳出血や脳塞栓症といった麻痺を起こす疾患、また、呼吸器疾患や、伝染病、重症な損傷があげられる。J15.0-15.6、J15.8-J15.9、J16.8、J18.0 および J18.2-J18.9、J69.0 と J69.8 項目の肺炎は、嚥下機能に影響を与える疾患の明らかな</u></p>	<p><b>4.1.7 Examples of the General Principle and selection rules</b></p> <p><i>Rule 3</i></p> <p><u>Lobar pneumonia, unspecified (J18.1) should be considered an obvious consequence of dependence syndrome due to use of alcohol (F10.2). Any pneumonia in J12-J18 should be considered an obvious consequence of conditions that impair the immune system. Pneumonia in J15.0-15.6, J15.8-J15.9, J16.8, J18.0 and J18.2-J18.9 should be considered an obvious consequence of wasting diseases (such as malignant neoplasm and malnutrition) and diseases causing paralysis (such as cerebral haemorrhage or thrombosis), as well as serious respiratory conditions, communicable diseases, and serious injuries. Pneumonia in J15.0-15.6, J15.8-J15.9, J16.8, J18.0 and J18.2-J18.9, J69.0, and J69.8 should also be considered an obvious consequence of conditions that affect the process of swallowing. Pneumonia in J18.- (except lobar pneumonia) reported with immobility or reduced mobility should be coded to J18.2.</u></p>

No.	現行	改正案	WHO勧告 (原文)
		<p>結果と考えるべきである。J18.0.-の肺炎（大葉性肺炎を除く）が不動症または可動性の減少とともに記載された場合は、J18.2 にコードするべきである。</p> <p>J12-J18 にある各種肺炎は、免疫機能を低下させる病態の結果として生じたと考えるべきである。J18.0 と J18.2-J18.9 項目の肺炎は明らかに次の疾患によって生じたと考えられる。すなわち、悪性腫瘍や栄養失調（症）といった消耗性疾患、脳出血や脳塞栓症といった麻痺を起こす疾患、また、呼吸器疾患や、伝染病、重症な損傷があげられる。J18.0 および J18.2-J18.9、J69.0 と J69.8 項目の肺炎は嚥下機能に影響を与える疾患が原因となっていると考えるべきである。</p>	
9	<p>「塞栓症」という記載または診断を受けた疾病は、静脈血栓症、静脈炎、血栓性静脈炎、弁膜性心疾患、分娩またはその他の手術によって、直接生じたと考えられる。ただし、どこで血栓が形成され、その血栓がどこに飛んで塞栓となったかをはっきり明記していなければならない。静脈血栓症または血栓性静脈炎は肺塞栓症の原因となりうる。左心系（僧房弁や大動脈弁）で作られた血栓、または心房細動による血栓は体内循環の動脈塞栓症の原因となりうる。同様に、右心系の弁（三尖弁や肺動脈弁）周囲に形成される血栓は、肺（動脈）塞栓の原因となりうる。また、左心系の血栓は心臓の中隔欠損症を通過して右心系に通過する場合がある。</p>	<p>その他の一般的な続発性の病態（肺塞栓症、褥瘡性潰瘍、膀胱炎等）は、次の疾患の明らかな結果と考えるべきである。すなわち、悪性腫瘍や栄養失調（症）といった消耗性疾患、脳出血や脳塞栓症といった麻痺を起こす疾患、また、伝染病や重症な損傷があげられる。ただし、そのような続発性の病態は、呼吸器疾患の明らかな結果と考えるべきではない。</p> <p>「塞栓症」という記載または診断を受けた疾病は、静脈血栓症、静脈炎、血栓性静脈炎、弁膜性心疾患、分娩またはその他の手術によって、直接生じたと考えられる。ただし、どこで血栓が形成され、その血栓がどこに飛んで塞栓となったかをはっきり明記していなければならない。静脈血栓症または血栓性静脈炎は肺塞栓症の原因となりうる。左心系（僧房弁や大動脈弁）で作られた血栓、または心房細動による血栓は体内循環の動脈塞栓症の原因となりうる。同様に、右心系の弁（三尖弁や肺動脈弁）周囲に形成される血栓は、肺（動脈）塞栓の原因となりうる。また、左心系の血栓は心臓の中隔欠損症を通過して右心系に通過する場合がある。</p>	<p><u>Other common secondary conditions (such as pulmonary embolism, decubitus ulcer, and cystitis) should be considered an obvious consequence of wasting diseases (such as malignant neoplasms and malnutrition) and diseases causing paralysis (such as cerebral haemorrhage or thrombosis) as well as communicable diseases, and serious injuries. However, such secondary conditions should not be considered an obvious consequence of respiratory conditions.</u></p>
10		<p>アシドーシス (E87.2) ; その他の明示された代謝障害 (E88.8) ; その他の単ニューロパチ&lt;シ&gt;- (G58.-) ; 多発 (性) ニューロパチ&lt;シ&gt;- , 詳細不明 (G62.9) ; 末梢神経系のその他の障害 (G64) ; その他の原発性筋障害 (G71.8) において他に記載のない筋萎縮、自律神経系の障害, 詳細不明 (G90.9) 、神経痛および神経炎, 詳細不明 (M79.2) ; 虹彩毛様体炎 (H20.9) ; 白内障, 詳細不明 (H26.9) ; 網脈絡膜の炎症, 詳細不明 (H30.9) ; 網膜血管閉塞症 (H34) ; 背景網膜症および網膜血管変化 (H35.0) ; その他の増殖性網膜症 (H35.2) ; 網膜出血 (H35.6) ; 網膜障害, 詳細不明 (H35.9) ; 末梢血管疾患, 詳細不明 (I73.9) ; (四) 肢の動脈のアテローム&lt;じゅく&lt;粥&gt;状&gt;硬化 (症) (I70.2) ; 関節炎, 詳細不明 (M13.9) ; ネフロ-ゼ症候群 (N03- N05) ; 慢性腎臓病, 詳細不明 (N18.9 N18.-) ; 詳細不明の腎不全 (N19) ; 詳細不明の萎縮腎 (N26) ; 腎および尿管の障害, 詳細不明 (N28.9) における腎疾患、ならびに持続性たんぱく&lt;蛋白&gt;尿, 詳細不明 (N39.1) ; え&lt;壊&gt;疽, 他に分類されないもの</p>	<p><u>Acidosis (E87.2); Other specified metabolic disorders (E88.8); Other mononeuropathies (G58.-); Polyneuropathy, unspecified (G62.9); Other disorders of peripheral nervous system (G64); amyotrophy not otherwise specified in Other primary disorders of muscles (G71.8). Disorder of autonomic nervous system, unspecified (G90.9), and Neuralgia and neuritis, unspecified (M79.2); Iridocyclitis (H20.9); Cataract, unspecified (H26.9); Chorioretinal inflammation, unspecified (H30.9); Retinal vascular occlusions (H34); Background retinopathy and retinal vascular changes (H35.0); Other proliferative retinopathy (H35.2); Retinal haemorrhage (H35.6); Retinal disorder, unspecified (H35.9); Peripheral vascular disease, unspecified (I73.9); Atherosclerosis of arteries of extremities (I70.2); Arthritis, unspecified (M13.9); Nephrotic syndrome (N03-N05); Chronic kidney disease, (N18.-); Unspecified kidney failure (N19); Unspecified contracted kidney (N26); renal disease in Disorder of kidney and ureter, unspecified (N28.9) and Persistent proteinuria, unspecified (N39.1); Gangrene, not elsewhere classified (R02); Coma, unspecified (R40.2); and Other specified abnormal findings of blood chemistry (R79.8) for acetonemia, azotemia, and related conditions should be considered an obvious consequence of Diabetes mellitus (E10-E14).</u></p>

No.	現行	改正案	WHO勧告 (原文)
		(R02) ; 昏睡, 詳細不明 (R40.2) ; およびその他の明示された血液化学的異常所見 (R79.8) でアセトン血症、高窒素血症、および関連する病態に関連するものについては、糖尿病 (E10-E14) の明らかな結果と考えるべきである。	

Code(s)	Description	Conditional Response	Qualifier
E86	Volume depletion		
G81-G83	Other paralytic syndromes		
I26.0-I26.9	Pulmonary embolism		
I74.2-I74.4	Arterial embolism and thrombosis of extremities		
I80.1-I80.3	Phlebitis and thrombophlebitis of lower extremities		
I80.9	Phlebitis and thrombophlebitis of unspecified site		
I82.9	Embolism and thrombosis of unspecified vein		
K55.0	Acute vascular disorder of intestine	M	The condition in K55.0 must be specified as an embolism
K56.4	Other impaction of intestine		
K59.0	Constipation		
L89	Decubitus ulcer		
N10-N12	Tubulo-interstitial nephritis	M	Diseases causing paralysis or inability to control bladder
N17, N19	<del>Renal failure</del> Kidney disease, acute or unspecified		
N28.0	Ischaemia and infarction of kidney	M	The condition in N28.0 must be specified as an embolism of the renal artery
N30.0-N30.2	Cystitis, acute, interstitial and other chronic	M	Diseases causing paralysis or inability to control bladder
N30.9	Cystitis, unspecified	M	Diseases causing paralysis or inability to control bladder
N31	Neuromuscular dysfunction of bladder, not elsewhere classified		
N34.0-N34.2	Urethritis	M	Diseases causing paralysis or inability to control bladder
N35.1-N35.9	Urethral stricture (non-traumatic)	M	Diseases causing paralysis or inability to control bladder

Code(s)	Description	Conditional Response	Qualifier
N39.0	Urinary tract infection, site not specified	M	Diseases causing paralysis or inability to control bladder

コード	記載	条件的対応	条件
E86	体液量減少 (症)		
G81-G83	その他の麻痺症候群		
I26.0-I26.9	肺塞栓症		
I74.2-I74.4	(四) 肢の動脈の塞栓症および血栓症		
I80.1-I80.3	下肢の静脈炎および血栓 (性) 静脈炎		
I80.9	部位不明の静脈炎および血栓 (性) 静脈炎		
I82.9	部位不明の静脈の塞栓症および血栓症		
K55.0	腸の急性血行障害	M	K55.0 の病態が塞栓症であることの記載がなければならぬ
K56.4	その他の腸かん<嵌>頓		
K59.0	便秘		
L89	じょく<褥>瘡性潰瘍		
N10-N12	尿細管間質性腎炎	M	麻痺または膀胱の制御不能を起こす疾患
N17, N19	腎臓病、急性または詳細不明		
N28.0	腎虚血および腎梗塞	M	N28.0 の病態が腎動脈の塞栓症であることの記載がなければならぬ

N30.0- N 0.2	膀胱炎、急性、間質性、その他の慢性	M	麻痺または膀胱の制御 不能を起こす疾患
N30.9	膀胱炎, 詳細不明	M	麻痺または膀胱の制御 不能を起こす疾患
N31	神経因性膀胱（機能障害）、他に分類されな いもの		
N34.0- N34.2	尿道炎	M	麻痺または膀胱の制御 不能を起こす疾患
N35.1- N35.9	尿道狭窄（非外傷性）	M	麻痺または膀胱の制御 不能を起こす疾患
N39.0	尿路感染症、部位不明	M	麻痺または膀胱の制御 不能を起こす疾患



No.	現行	改正案	WHO勧告 (原文)
11	腎炎症候群は、猩紅熱やレンサ球菌性の咽頭痛といったレンサ球菌感染症によって生じたと考えられる。急性腎不全が、尿路感染症の発症前から存在していたという証拠がなければ、尿路感染症によって生じたと考える。	腎炎症候群は、猩紅熱やレンサ球菌性の咽頭炎といったレンサ球菌感染症の結果と推定できるによって生じたと考えられる。  急性腎不全が、尿路感染症の発症前から存在していたという証拠がなければ、尿路感染症の明らかな結果と推定すべきであるによって生じたと考える。	Nephritic syndrome may be assumed to be a consequence of any streptococcal infection (scarlet fever, streptococcal sore throat, etc).  <u>Acute renal failure should be assumed as an obvious consequence of a urinary tract infection, provided that there is no indication that the renal failure was present before the urinary tract infection.</u>
12	脱水は、腸管感染症の影響によるものと考えられる。	脱水は、腸管感染症の影響によるもの明らかな結果と考えられるべきである。  新生児原発性無気肺 (P28.0) は、先天的な腎臓の病態 (Q60, Q61.0-Q61.1, Q61.3-Q61.9, Q62.1, Q62.3, Q62.4) 、前期破水 (P01.1) 、および羊水過少症 (P01.2) の直接影響によるものと推定すべきである。  前期破水または羊水過少症により影響を受けた胎児および新生児 (P01.1-P01.2) は、先天的な腎臓の病態 (Q60, Q61.0-Q61.1, Q61.3-Q61.9, Q62.1, Q62.3, Q62.4) の直接影響によるものと推定すべきである。	Dehydration <del>may be</del> <u>should be considered assumed to be a</u> an obvious consequence of any intestinal infectious disease.  <u>Primary atelectasis of newborn (P28.0) should be considered an obvious consequence of congenital kidney conditions (Q60, Q61.0-Q61.1, Q61.3-Q61.9, Q62.1, Q62.3, Q62.4), premature rupture of membranes (P01.1), and oligohydramnios (P01.2).</u>  <u>Fetus and newborn affected by premature rupture of membranes or oligohydramnios (P01.1-P01.2) should be assumed to be a direct consequence of congenital kidney conditions (Q60, Q61.0-Q61.1, Q61.3-Q61.9, Q62.1, Q62.3, Q62.4).</u>
13	ある臓器についての手術は、死亡診断書のどこかに記載された同じ臓器のすべての外科的病態 (悪性新生物または損傷のような病態) の直接影響と考えるべきである。	ある器官臓器についての手術は、死亡診断書のどこかに記載された同じ器官臓器のすべての外科的病態 (悪性腫瘍新生物または損傷のような病態) の直接影響によるものと考えられるべきである。  出血は、抗凝固薬の中毒または過剰量の明らかな結果と考えるべきである。ただし、中毒または過剰量の記載がない場合は、出血が、抗凝固療法の明らかな結果と考えるべきではない。胃出血は、ステロイド、アスピリンおよび非ステロイド性抗炎症薬 (NSAID)の明らかな結果と考えるべきである。  精神遅滞は、P00-P04 (母体側要因ならびに妊娠および分娩の合併症により影響を受けた胎児および新生児) 、P05 (胎児発育遅延<成長遅滞>および胎児栄養失調 (症) ) 、P07 (妊娠期間短縮および低出生体重に関連する障害、他に分類されないもの) 、P10 (出産損傷による頭蓋内裂傷および出血) 、P11.0 (出産損傷による脳浮腫) 、P11.1 (出産損傷によるその他の明示された脳傷害) 、P11.2 (出産損傷による詳細不明の脳傷害) 、P11.9 (中枢神経系の出産損傷、詳細不明) 、P15.9 (出産損傷、詳細不明) 、P20 (子宮内低酸素症) 、P21 (出生時仮死) 、P35 (先天性ウイルス疾患) 、P37 (その他の先天性感染症および寄生虫病) 、P52 (胎児および新生児の頭蓋内非外傷性出血) 、P57 (核黄疸) 、P90 (新生児のけいれん<痙攣>) および P91 (新生児の脳のその他の機能障害) における、周産期の病態の明らかな結果と考えるべきである。	An operation on a given organ should be considered a direct consequence of any surgical condition (such as malignant tumour or injury) of the same organ reported anywhere on the certificate.  <u>Haemorrhage should be considered an obvious consequence of anticoagulant poisoning or overdose. However, haemorrhage should not be considered an obvious consequence of anticoagulant therapy without mention of poisoning or overdose. Gastric haemorrhage should be considered an obvious consequence of steroid, aspirin, and nonsteroidal anti-inflammatory drugs (NSAIDs).</u>  <u>Mental retardation should be considered an obvious consequence of perinatal conditions in P00-P04 (Fetus and newborn affected by maternal factors and by complications of pregnancy, labour and delivery), P05 (Slow fetal growth and fetal malnutrition), P07 (Disorders related to short gestation and low birth weight, not elsewhere classified), P10 (Intracranial laceration and haemorrhage due to birth injury), P11.0 (Cerebral oedema due to birth injury), P11.1 (Other specified brain damage due to birth injury), P11.2 (Unspecified brain damage due to birth injury), P11.9 (Birth injury to central nervous system, unspecified), P15.9 (Birth injury, unspecified), P20 (Intrauterine hypoxia), P21 (Birth asphyxia), P35 (Congenital viral diseases), P37 (Other congenital infectious and parasitic diseases), P52 (Intracranial nontraumatic haemorrhage of fetus and newborn), P57 (Kernicterus), P90 (Convulsions of newborn) and P91 (Other disturbances of cerebral status of newborn).]</u>
14	4.1.9 修正ルール	4.1.9 修正ルール	4.1.9 The modification rules  Rule A. Senility and other ill-defined conditions

No.	現行	改正案	WHO勧告 (原文)
	<p>ルール A 老衰およびその他の診断名不明確の病態</p> <p>選ばれた死因が不明確である場合や、死亡診断書に記載する上で他に分類される病態である場合には、その不明確な診断名が記載されなかったものとして、死因を選びなおす。ただし、その病態によってコード番号が変わる場合は、その病態を考慮する。次の内容は、不明確な診断名がついた病態と考えられる。: I46.9 心停止 (詳細不明); I95.9 低血圧 (詳細不明); I99 循環器疾患 (その他および詳細不明) J96.0 急性呼吸不全; J96.9 呼吸不全 (詳細不明); P28.5 新生児の呼吸不全; R00-R94 および R96-R99 (症状、徴候、および異常臨床所見、異常検査所見で、他に分類されないもの)。ただし、R95 (乳幼児突然死症候群) は含まれない。</p>	<p>ルール A 老衰およびその他の診断名不明確の病態</p> <p>選ばれた死因が不明確である場合や、死亡診断書に記載する上で他に分類される病態である場合には、その不明確な診断名が記載されなかったものとして、死因を選びなおす。ただし、その病態によってコード番号が変わる場合は、その病態を考慮する。次の内容は、不明確な診断名がついた病態と考えられる。: I46.1 (心臓性突然死&lt;急死&gt;と記載されたもの; I46.9 心停止(、詳細不明); I95.9 低血圧、(詳細不明); I99 循環器疾患、(その他および詳細不明)J96.0 急性呼吸不全; J96.9 呼吸不全、(詳細不明); P28.5 新生児の呼吸不全; R00-R94 および R96-R99 (症状、徴候、および異常臨床所見、異常検査所見で、他に分類されないもの)。ただし、R95 (乳幼児突然死症候群) は含まれない。</p> <p>死亡診断書に記載されている他のすべての病態が診断名不明確の病態または軽微な病態である場合は、死因を選びなおすことはしない。<u>つまり、このような場合にはルール A は適用されない。</u></p>	<p>Where the selected cause is ill-defined and a condition classified elsewhere is reported on the certificate, reselect the cause of death as if the ill-defined condition had not been reported, except to take account of that condition it if modifies the coding. The following conditions are regarded as ill-defined: <u>I46.1 (Sudden cardiac death, so described); I46.9 (Cardiac arrest, unspecified); I95.9 Hypotension, unspecified); I99 (Other and unspecified disorders of circulatory system); J96.0 (Acute respiratory failure); J96.9 (Respiratory failure, unspecified); P28.5 (Respiratory failure of newborn); R00-R94 or R96-R99 (Symptoms, signs and abnormal clinical and laboratory findings, not elsewhere classified).</u> Note that R95 (Sudden infant death) is not regarded as ill-defined.</p> <p><u>If all other conditions reported on the certificate are ill-defined or trivial, the cause of death should not be reselected. That is, Rule A does not apply.</u></p>
15	<p><b>4.1.9 修正ルール</b></p> <p>ルール B 軽微な病態</p> <p>選ばれた死因が、それ自身では死因になりそうもない軽微な病態で、同時にもっと重篤な病態が記載されている場合には、その軽微の病態が記載されなかったものとして、原死因を選びなおす (ただし、不明確な病態や軽微な病態は除く)。もし軽微な病態を治療して副作用が生じ、その結果死亡したとしたら、副作用を死因として選ぶ。</p>	<p><b>4.1.9 修正ルール</b></p> <p>ルール B 軽微な病態</p> <p>選ばれた死因が、それ自身では死因になりそうもない軽微な病態で (付録 10.1 参照)、同時にもっと重篤な病態が記載されている場合には、その軽微の病態が記載されなかったものとして、原死因を選びなおす (ただし、不明確な病態や軽微な病態は除く)。もし軽微な病態を治療して副作用が生じ、その結果死亡したとしたら、副作用を死因として選ぶ。</p>	<p><b>4.1.9 The modification rules</b></p> <p><b>Rule B. Trivial conditions</b></p> <p>Where the selected cause is a trivial condition unlikely to cause death (see <a href="#">Appendix 7.1</a>) and a more serious condition (any condition except an ill-defined or another trivial condition) is reported, reselect the underlying cause... ..of the trivial condition, select the adverse reaction.</p>
16	<p><b>4.1.10 修正ルールの例</b></p> <p>ルール A 老衰およびその他の診断名不明確の病態</p> <p>選ばれた死因が、R95(乳幼児突然死症候群)を除く第XVIII章(症状、徴候および異常臨床所見・異常検査所見で他に分類されないもの)に分類され、R00-R94またはR96-R99以外に分類される病態が死亡診断書に記載された場合は、第XVIII章に分類される病態が記載されなかったものとして死因を選びなおす。ただし、その病態がコーディングを修飾している場合は、その病態を考慮する。</p>	<p><b>4.1.10 修正ルールの例</b></p> <p>ルール A 老衰およびその他の診断名不明確の病態</p> <p>選ばれた死因が、<del>R95(乳幼児突然死症候群)を除く第XVIII章(症状、徴候および異常臨床所見・異常検査所見で他に分類されないもの)</del>に分類され、<del>R00-R94またはR96-R99以外に分類される病態が死亡診断書に記載された場合は、第XVIII章に分類される病態が記載されなかったもの</del>ととも不明確である場合や、死亡診断書に記載する上で他に分類される病態である場合には、その診断名不明確な病態が記載されなかったものとして、死因を選びなおす。ただし、その病態がコーディングを修飾している場合は、その病態を考慮する。次の内容は、不明確な診断名がついた病態と考えられる。: I46.1 (心臓性突然死&lt;急死&gt;と記載されたもの); I46.9 心停止,詳細不明; I95.9 低血圧,詳細不明; I99 循環器疾患,その他および詳細不明; J96.0 急性呼吸不全; J96.9 呼吸不全,詳細不明; P28.5 新生児の呼吸不全; R00-R94 およびR96-R99 (症状、徴候、および異常臨床所見、異常検査所見で、他に分類されないもの)。ただし、R95 (乳幼児突然死症候群) は含まれない。</p>	<p><b>4.1.10 Examples of the modification rules</b></p> <p><b>Rule A. Senility and other ill-defined conditions</b></p> <p>Where the selected cause is ill-defined and a condition classified elsewhere is reported on the certificate, reselect the cause of death as if the ill-defined condition had not been reported, except to take account of that condition it if modifies the coding. The following conditions are regarded as ill-defined: <u>I46.1 (Sudden cardiac death, so described); I46.9 (Cardiac arrest, unspecified); I95.9 (Hypotension, unspecified); I99 (Other and unspecified disorders of circulatory system); J96.0 (Acute respiratory failure); J96.9 (Respiratory failure, unspecified); P28.5 (Respiratory failure of newborn); R00-R94 and R96-R99 (Symptoms, signs and abnormal clinical and laboratory findings, not elsewhere classified).</u> Note that R95 (Sudden infant death syndrome) is not regarded as ill-defined.</p> <p><u>If all other conditions reported on the certificate are ill-defined or trivial, the cause of death should not be reselected. That is, Rule A does not apply.</u></p>

No.	現行	改正案	WHO勧告 (原文)
		<p>死亡診断書に記載されている他のすべての病態が診断名不明確の病態または軽微な病態である場合は、死因を選びなおすことはしない。 つまり、このような場合にはルールAは適用されない。</p>	
17	<p><b>4.1.10 修正ルールの例</b></p> <p>ルールB 軽微な病態</p> <p>(A) 選ばれた死因が、それ自身では死因になりそうもない軽微な病態であり、さらに重篤な病態（不明確または他の軽微な病態を除く病態）が記載されている場合は、その軽微な病態が記載されなかったものとして、原死因を選びなおす。</p>	<p><b>4.1.10 修正ルールの例</b></p> <p>ルールB 軽微な病態</p> <p>(A) 選ばれた死因が、それ自身では死因になりそうもない軽微な病態であり（付録 10.1 参照）、さらに重篤な病態（不明確または他の軽微な病態を除く病態）が記載されている場合は、その軽微な病態が記載されなかったものとして、原死因を選びなおす。</p>	<p><b>4.1.10 Examples of the modification rules</b></p> <p><b>Rule B. Trivial conditions</b></p> <p>(A) Where the selected cause is a trivial condition unlikely to cause death (see Appendix 7.1) and a more serious condition (any condition except an ill-defined or another trivial condition) is reported, reselect the underlying cause as if the trivial condition had not been reported.</p>
18	<p><b>4.1.10 修正ルールの例</b></p> <p>ルールC 連鎖 (Linkage)</p> <p>例 55 : I (a) ニューモシスチス・カリニ肺炎 (b) HIV</p> <p>B 20.6 の HIV にコードする。一般原則により、ニューモシスチス・カリニ肺炎を伴った HIV 疾患にコードする。</p> <p>例 56 : I (a) 呼吸不全 (b) HIV</p> <p>B 24 にコードする。呼吸不全は不明確な病態であり、B20—B23 のどの分類項目にも適用しない。</p>	<p><b>4.1.10 修正ルールの例</b></p> <p>ルールC 連鎖 (Linkage)</p> <p>例 55 : I (a) ニューモシスチス・カリニ[jirovecii]肺炎 (b) HIV</p> <p>B 20.6 の HIV にコードする。一般原則により、ニューモシスチス・カリニ[jirovecii]肺炎を伴った HIV 疾患にコードする。</p> <p>例 56 : I (a) 呼吸不全 (b) HIV</p> <p>B 24 にコードする。呼吸不全は不明確な病態であり、B20—B23 のどの分類項目にも適用しない。</p>	<p><b>4.1.10 Examples of the modification rules</b></p> <p><b>Rule C. Linkage</b></p> <p>Example 55: I (a) Pneumocystis carinii [jirovecii] pneumonia (b) HIV</p> <p>links 80 Code to B20.6. HIV, selected by the General Principle, with Pneumocystis carinii [jirovecii] pneumonia.</p>
19	<p><b>4.1.10 修正ルールの例</b></p> <p>ルールD 特異性 (原死因の明確化)</p> <p>例 62 : I (a) 心膜炎 (b) 尿毒症および肺炎</p> <p>尿毒症性心膜炎 (N18.8) にコードする。ルール1により尿毒症が選ばれる (例 14 参照) が、これは心膜炎を修飾する。</p>	<p><b>4.1.10 修正ルールの例</b></p> <p>ルールD 特異性 (原死因の明確化)</p> <p>例 62 : I (a) 心膜炎 (b) 尿毒症および肺炎</p> <p>尿毒症性心膜炎 (N18.58) にコードする。ルール1により尿毒症が選ばれる (例 14 参照) が、これは心膜炎を修飾する。</p>	<p><b>4.1.10 Examples of the modification rules</b></p> <p><b>Rule D. Specificity</b></p> <p>Example 60: I (a) Pericarditis (b) Uraemia and pneumonia</p> <p>Code to uraemic pericarditis (N18.8 5). Uraemia, selected by Rule I (see Example 14), modifies the pericarditis.</p>
20		<p>C97 独立した (原発性) 多発部位の悪性新生物</p> <p><u>原死因コーディングには使用しない。多発性であるが独立した悪性腫瘍が死亡証明書に記載される場合、選択ルールおよび修正ルールを通常の方法で適用することによって原死因を選ぶ。「4.2.7 節 悪性新生物」も参照。</u></p>	<p><b>4.1.11 Notes for use in underlying cause mortality coding</b></p> <p>B95-B97 Bacterial, viral and other infectious agents Not to be used for underlying cause mortality coding.</p> <p>C97 <u>Malignant neoplasms of independent (primary) multiple sites</u> Not to be used for underlying cause mortality coding. When</p>



No.	現行	改正案	WHO勧告 (原文)
	D50—D89 ...	D50—D89 ...	multiple but independent malignant neoplasms are reported on the death certificate, select the underlying cause by applying the Selection and Modification Rules in the normal way. See also section 4.2.7, Malignant neoplasms.
21	4.1.11 原死因コーディングのための注	<p>4.1.11 原死因コーディングのための注</p> <p><u>E10—E14 糖尿病</u>        下記の起点となる先行原因として記載された場合:  <u>E87.2 (アシドーシス)、4 桁細分類項目.1 を伴う E10—E14 にコードする。</u>  <u>E88.8 (その他の明示された代謝障害)、4 桁細分類項目.1 を伴う E10—E14 にコードする。</u>  <u>G58.- (その他の単ニューロパチ&lt;シ&gt;ー)、4 桁細分類項目.4 を伴う E10—E14 にコードする。</u>  <u>G62.9 (多発(性)ニューロパチ&lt;シ&gt;ー, 詳細不明)、4 桁細分類項目.4 を伴う E10—E14 にコードする。</u>  <u>G64 (末梢神経系のその他の障害)、4 桁細分類項目.4 を伴う E10—E14 にコードする。</u>  <u>G70.9 (神経筋障害, 詳細不明)、4 桁細分類項目.4 を伴う E10—E14 にコードする。</u>  <u>G71.8 (その他の原発性筋障害)、4 桁細分類項目.4 を伴う E10—E14 にコードする。</u>  <u>G90.9 (自律神経系の障害, 詳細不明)、4 桁細分類項目.4 を伴う E10—E14 にコードする。</u>  <u>H20.9 (虹彩毛様体炎)、4 桁細分類項目.3 を伴う E10—E14 にコードする。</u>  <u>H26.9 (白内障, 詳細不明)、4 桁細分類項目.3 を伴う E10—E14 にコードする。</u>  <u>H30.9 (網脈絡膜の炎症, 詳細不明)、4 桁細分類項目.3 を伴う E10—E14 にコードする。</u>  <u>H34 (網膜血管閉塞症)、4 桁細分類項目.3 を伴う E10—E14 にコードする。</u>  <u>H35.0 (背景網膜症および網膜血管変化)、4 桁細分類項目.3 を伴う E10—E14 にコードする。</u>  <u>H35.2 (その他の増殖性網膜症)、4 桁細分類項目.3 を伴う E10—E14 にコードする。</u>  <u>H35.6 (網膜出血)、4 桁細分類項目.3 を伴う E10—E14 にコードする。</u>  <u>H35.9 (網膜障害, 詳細不明)、4 桁細分類項目.3 を伴う E10—E14 にコードする。</u>  <u>H49.9 (麻痺性斜視, 詳細不明)、4 桁細分類項目.3 を伴う E10—E14 にコードする。</u>  <u>H54 (盲&lt;失明&gt;および低視力)、4 桁細分類項目.3 を伴う E10—E14 にコードする。</u>  <u>I73.9 (末梢血管疾患, 詳細不明)、4 桁細分類項目.5 を</u></p>	<p>4.1.11 Notes for use in underlying cause mortality coding</p> <p><b><u>E10-E14</u></b> <u>Diabetes mellitus</u>  <i>when reported as the originating antecedent cause of:</i></p> <p><u>E87.2 (Acidosis), code E10-E14 with fourth character .1</u>  <u>E88.8 (Other specified metabolic disorders), code E10-E14 with fourth character .1</u>  <u>G58.- (Other mononeuropathies), code E10-E14 with fourth character .4</u>  <u>G62.9 (Polyneuropathy, unspecified), code E10-E14 with fourth character .4</u>  <u>G64 (Other disorders of peripheral nervous system), code E10-E14 with fourth character .4</u>  <u>G70.9 (Myoneural disorder, unspecified), code E10-E14 with fourth character .4</u>  <u>G71.8 (Other primary disorders of muscles), code E10-E14 with fourth character .4</u>  <u>G90.9 (Disorder of autonomic nervous system, unspecified), code E10-E14 with fourth character .4</u>  <u>H20.9 (Iridocyclitis), code E10-E14 with fourth character .3</u>  <u>H26.9 (Cataract, unspecified), code E10-E14 with fourth character .3</u>  <u>H30.9 (Chorioretinal inflammation, unspecified), code E10-E14 with fourth character .3</u>  <u>H34 (Retinal vascular occlusions), code E10-E14 with fourth character .3</u>  <u>H35.0 (Background retinopathy and retinal vascular changes), code E10-E14 with fourth character .3</u>  <u>H35.2 (Other proliferative retinopathy), code E10-E14 with fourth character .3</u>  <u>H35.6 (Retinal haemorrhage), code E10-E14 with fourth character .3</u>  <u>H35.9 (Retinal disorder, unspecified), code E10-E14 with fourth character .3</u>  <u>H49.9 (Paralytic strabismus, unspecified), code E10-E14 with fourth character .3</u>  <u>H54 (Blindness and low vision), code E10-E14 with fourth character .3</u>  <u>I70.2 (Atherosclerosis of arteries of extremities), code E10-E14 with fourth character .5</u>  <u>I73.9 (Peripheral vascular disease, unspecified), code E10-E14 with fourth character .5</u>  <u>I99 (Other and unspecified disorders of circulatory system), if angiopathy, code E10-E14 with fourth character .5</u>  <u>L30.9 (Dermatitis, unspecified), code E10-E14 with fourth character .6</u>  <u>L92.1 (Necrobiosis lipoidica, not elsewhere classified), code E10-E14 with fourth character .6</u>  <u>M13.9 (Arthritis, unspecified), code E10-E14 with fourth</u></p>

No.	現行	改正案	WHO勧告 (原文)
		<p>伴う E10-E14 にコードする。</p> <p>I70.2 ( (四) 肢の動脈のアテローム&lt;じゅく&lt;粥&gt;状&gt;硬化 (症) )、4 桁細分類項目.5 を伴う E10-E14 にコードする。</p> <p>I99 (循環器系のその他および詳細不明の障害)、血管障害の場合、4 桁細分類項目.5 を伴う E10-E14 にコードする。</p> <p>L30.9 (皮膚炎, 詳細不明)、4 桁細分類項目.6 を伴う E10-E14 にコードする。</p> <p>L92.1 (リポイド類え&lt;壊&gt;死症、他に分類されないもの)、4 桁細分類項目.6 を伴う E10-E14 にコードする。</p> <p>M13.9 (関節炎, 詳細不明)、4 桁細分類項目.6 を伴う E10-E14 にコードする。</p> <p>M79.2 (神経痛および神経炎, 詳細不明)、4 桁細分類項目.6 を伴う E10-E14 にコードする。</p> <p>M89.9 (骨障害, 詳細不明)、4 桁細分類項目.6 を伴う E10-E14 にコードする。</p> <p>N03-N05 (ネフローゼ症候群)、4 桁細分類項目.2 を伴う E10-E14 にコードする。</p> <p>N18.- (慢性腎臓病, 詳細不明)、4 桁細分類項目.2 を伴う E10-E14 にコードする。</p> <p>N19 (詳細不明の腎不全)、4 桁細分類項目.2 を伴う E10-E14 にコードする。</p> <p>N26 (詳細不明の萎縮腎)、4 桁細分類項目.2 を伴う E10-E14 にコードする。</p> <p>N28.9 (腎および尿管の障害)、4 桁細分類項目.2 を伴う E10-E14 にコードする。</p> <p>N39.0 (尿路感染症, 部位不明)、4 桁細分類項目.6 を伴う E10-E14 にコードする。</p> <p>N39.1 (持続性たんぱく&lt;蛋白&gt;尿, 詳細不明)、4 桁細分類項目.2 を伴う E10-E14 にコードする。</p> <p>R02 (え&lt;壊&gt;疽, 他に分類されないもの)、4 桁細分類項目.5 を伴う E10-E14 にコードする。</p> <p>R40.2 (昏睡, 詳細不明)、4 桁細分類項目.0 を伴う E10-E14 にコードする。</p> <p>R79.8 (その他の明示された血液化学的異常所見)、アセトン血症、高窒素血症、および関連する病態の場合、4 桁細分類項目.1 を伴う E10-E14 にコードする。</p> <p>上記の組み合わせのいずれかの場合、4 桁細分類項目.7 を伴う E10-E14 にコードする。</p>	<p>character .6</p> <p>M79.2 (Neuralgia and neuritis, unspecified), code <b>E10-E14</b> with fourth character .4</p> <p>M89.9 (Disorder of bone, unspecified), code <b>E10-E14</b> with fourth character .6</p> <p>N03-N05(Nephrotic syndrome), code <b>E10-E14</b> with fourth character .2</p> <p>N18.- (Chronic kidney disease), code <b>E10-E14</b> with fourth character .2</p> <p>N19 (Unspecified kidney failure), code <b>E10-E14</b> with fourth character .2</p> <p>N26 (Unspecified contracted kidney), code <b>E10-E14</b> with fourth character .2</p> <p>N28.9 (Disorder of kidney and ureter, unspecified), code <b>E10-E14</b> with fourth character .2</p> <p>N39.0 (Urinary tract infection, site not specified), code <b>E10-E14</b> with fourth character .6</p> <p>N39.1 (Persistent proteinuria, unspecified), code <b>E10-E14</b> with fourth character .2</p> <p>R02 (Gangrene, not elsewhere classified), code <b>E10-E14</b> with fourth character .5</p> <p>R40.2 (Coma, unspecified), code <b>E10-E14</b> with fourth character .0</p> <p>R79.8 (Other specified abnormal findings of blood chemistry), if acetonemia, azotemia, and related conditions, code <b>E10-E14</b> with fourth character .1</p> <p>Any of above in combination, code <b>E10-E14</b> with fourth character .7</p>
22	<p>F 10.- アルコール使用による精神および行動の障害 下記の記載を伴うもの： E 24.4 (アルコール性クッシング&lt;Cushing&gt;症候群)、E 24.4 にコードする。</p>	<p>F 10.- アルコール使用による精神および行動の障害 下記の記載を伴うもの： E 24.4 (アルコール性クッシング&lt;Cushing&gt;症候群)、E 24.4 にコードする。</p>	<p><b>4.1.11 Notes for use in underlying cause mortality coding</b></p> <p>F10.- Mental and behavioural disorders due to use of alcohol with mention of: ...</p>

No.	現行	改正案	WHO勧告(原文)
	<p>...</p> <p>K76.9 (肝疾患、詳細不明)、K70.9にコードする。 K85 (急性膵炎)、K85にコードする。 K86.0 (アルコール性慢性膵炎)、K86.0にコードする。</p>	<p>...</p> <p>K76.9 (肝疾患、詳細不明)、K70.9にコードする。 <del>K85 (急性膵炎)、K85にコードする。</del> K85.2 (アルコール性急性膵炎)、K85.2にコードする。 K86.0 (アルコール性慢性膵炎)、K86.0にコードする。</p>	<p>K76.9 (Liver disease, unspecified), code <b>K70.9</b> ... <del>K85.2 (Alcohol-induced acute pancreatitis), code <b>K85.2</b></del> ... K86.0 (Alcohol-induced chronic pancreatitis), code <b>K86.0</b></p>
23	<p>F10.- アルコール使用による精神および行動の障害 下記の記載を伴うもの： E24.4 (アルコール性クッシング&lt;Cushing&gt;症候群)、E24.4にコードする。</p> <p>...</p>	<p>F10.- アルコール使用による精神および行動の障害 下記の記載を伴うもの： E24.4 (アルコール性クッシング&lt;Cushing&gt;症候群)、E24.4にコードする。</p> <p>...</p> <p><u>F10.0 アルコール使用による急性中毒</u> 下記の記載を伴うもの： <u>F10.2 (アルコール使用による依存症候群)、F10.2にコードする。</u></p>	<p><b>4.1.11 Notes for use in underlying cause mortality coding</b></p> <p>F10.- Mental and behavioural disorders due to use of alcohol <i>with mention of:</i> E24.4 (Alcohol-induced Cushing's syndrome), code E24.4 ... <u>F10.0 Acute intoxication due to use of alcohol</u> <i>with mention of:</i> <u>F10.2 (Dependence syndrome due to use of alcohol), code F10.2</u> F10.2 Dependence syndrome due to use of alcohol <i>with mention of:</i> F10.4, F10.6, F10.7 Withdrawal state with delirium, Amnesic syndrome, Residual and late-onset psychotic disorder, code F10.4, F10.6, F10.7</p>
24	<p>F17.- タバコ使用による精神および行動の障害 下記の起点となる先行原因として記載された場合： C34.- (気管支および肺の悪性新生物)、C34.-にコードする。 I20-I25 (虚血性心疾患)、I20-I25にコードする。 J40-J47 (慢性下気道疾患)、J40-J47にコードする。</p>	<p>F17.- タバコ使用による精神および行動の障害 下記の起点となる先行原因として記載された場合： <del>C34.- (気管支および肺の悪性新生物)、C34.-にコードする。</del> <del>I20-I25 (虚血性心疾患)、I20-I25にコードする。</del> <del>J40-J47 (慢性下気道疾患)、J40-J47にコードする。</del> <u>結果として生じた身体的病態がわかっている場合は使用しない。</u></p>	<p><b>4.1.11 Notes for use in underlying cause mortality coding</b></p> <p>F17.- Mental and behavioural disorders due to use of tobacco <i>when reported as the originating antecedent cause of:</i> <del>C34.- (Malignant neoplasm of bronchus and lung), code <b>C34.-</b></del> <del>I20-I25 (Ischaemic heart disease), code <b>I20-I25</b></del> <del>J40-J47 (Chronic lower respiratory disease), code <b>J40-J47</b></del> <u>Not to be used if the resultant physical condition is known</u></p>
25	<p><b>4.1.11 原死因コーディングのための注</b></p> <p>I10 本態性(原発性&lt;一次性&gt;)高血圧(症) 下記の記載を伴うもの： N05.- (詳細不明の腎炎症候群)、N05.-にコードする。 N18.- (慢性腎不全)、I12.-にコードする。 N19 (詳細不明の腎不全)、I12.-にコードする。</p>	<p><b>4.1.11 原死因コーディングのための注</b></p> <p>I10 本態性(原発性&lt;一次性&gt;)高血圧(症) 下記の記載を伴うもの： N05.- (詳細不明の腎炎症候群)、N05.-にコードする。 N18.- (慢性腎不全腎臓病)、I12.-にコードする。 N19 (詳細不明の腎不全)、I12.-にコードする。</p>	<p><b>4.1.11 Notes for use in underlying cause mortality coding</b></p> <p>I10 Essential (primary) hypertension <i>with mention of:</i> N05.- (Unspecified nephritic syndrome), code <b>N05.-</b> N18.- (Chronic <del>renal failure</del> kidney disease), code <b>I12.-</b> N19 (Unspecified renal failure), code <b>I12.-</b></p>
26	<p>I11.- 高血圧性心疾患 下記の記載を伴うもの： I20-I25 (虚血性心疾患)、I20-I25にコードする。 N18.- (慢性腎不全)、I13.-にコードする。</p>	<p>I11.- 高血圧性心疾患 下記の記載を伴うもの： I20-I25 (虚血性心疾患)、I20-I25にコードする。 N18.- (慢性腎不全腎臓病)、I13.-にコードする。</p>	<p>I11.- Hypertensive heart disease <i>with mention of:</i> I20-I25 (Ischaemic heart disease), code <b>I20-I25</b> N18.- (Chronic <del>renal failure</del> kidney disease), code <b>I13.-</b> N19 (Unspecified renal failure), code <b>I13.-</b></p>

No.	現行	改正案	WHO勧告 (原文)
	<p>N19 (詳細不明の腎不全)、 I 13.-にコードする。</p> <p>N26 (詳細不明の萎縮腎)、 I 13.-にコードする。</p>	<p>N19 (詳細不明の腎不全)、 I 13.-にコードする。</p> <p>N26 (詳細不明の萎縮腎)、 I 13.-にコードする。</p>	
27	<p><b>4.1.11 原死因コーディングのための注</b></p> <p>I 15.- 二次性&lt;続発性&gt;高血圧 (症) 原死因コーディングには使用しない。もし、原因が記載されていないならば、その他の診断名不明確および原因不明の死亡 (R99) にコードする。</p>	<p><b>4.1.11 原死因コーディングのための注</b></p> <p><del>I 15. 二次性&lt;続発性&gt;高血圧 (症) 原死因コーディングには使用しない。もし、原因が記載されていないならば、その他の診断名不明確および原因不明の死亡 (R99) にコードする。</del></p> <p><u>I15.0 腎血管性高血圧 (症)</u> ルール3の適用により先行病態がわかっているか、推測できる場合は使用しない。先行病態がわかっていないか、推測できない場合は、I15.0にコードする。</p> <p><u>I15.1 その他の腎障害による二次性&lt;続発性&gt;高血圧 (症)</u> ルール3の適用により先行病態がわかっているか、推測できる場合は使用しない。先行病態がわかっていないか、推測できない場合は、N28.9にコードする。</p> <p><u>I15.2 内分泌障害による二次性&lt;続発性&gt;高血圧 (症)</u> ルール3の適用により先行病態がわかっているか、推測できる場合は使用しない。先行病態がわかっていないか、推測できない場合は、E34.9にコードする。</p> <p><u>I15.8 その他の二次性&lt;続発性&gt;高血圧 (症)</u> ルール3の適用により先行病態がわかっているか、推測できる場合は使用しない。先行病態がわかっていないか、推測できない場合は、I15.8にコードする。</p> <p><u>I15.9 二次性&lt;続発性&gt;高血圧 (症)、詳細不明</u> ルール3の適用により先行病態がわかっているか、推測できる場合は使用しない。先行病態がわかっていないか、推測できない場合は、I15.9にコードする。</p>	<p><b>4.1.11 Notes for use in underlying cause mortality coding</b></p> <p><u>I15. Secondary hypertension</u>  Not to be used for underlying cause mortality coding. If the cause is not stated, code to Other ill defined and unspecified causes of mortality (R99).</p> <p><b>I15.0 Renovascular hypertension</b>  Not to be used if the antecedent condition is known or can be inferred by an application of Rule 3. If the antecedent condition is not known or cannot be inferred, code to I15.0.</p> <p><u>I15.1 Hypertension secondary to other renal disorders</u>  Not to be used if the antecedent condition is known or can be inferred by an application of Rule 3. If the antecedent condition is not known or cannot be inferred, code to N28.9.</p> <p><u>I15.2 Hypertension secondary to endocrine disorders</u>  Not to be used if the antecedent condition is known or can be inferred by an application of Rule 3. If the antecedent condition is not known or cannot be inferred, code to E34.9.</p> <p><u>I15.8 Other secondary hypertension</u>  Not to be used if the antecedent condition is known or can be inferred by an application of Rule 3. If the antecedent condition is not known or cannot be inferred, code to I15.8.</p> <p><u>I15.9 Secondary hypertension, unspecified</u>  Not to be used if the antecedent condition is known or can be inferred by an application of Rule 3. If the antecedent condition is not known or cannot be inferred, code to I15.9.</p>
28	<p><b>4.1.11 原死因コーディングのための注</b></p> <p>I24.0 冠 (状) (動脈) 血栓症、心筋梗塞に至らなかったもの 原死因コーディングには使用しない。死因としては心筋梗塞の発生が推定され、I21.-または I22.-に分類するのが適当である。</p> <p>I27.9 肺性心疾患, 詳細不明</p>	<p><b>4.1.11 原死因コーディングのための注</b></p> <p>I24.0 冠 (状) (動脈) 血栓症、心筋梗塞に至らなかったもの 原死因コーディングには使用しない。死因としては心筋梗塞の発生が推定され、I21.-または I22.-に分類するのが適当である。</p> <p><u>I25.2 陳旧性心筋梗塞</u></p>	<p><b>4.1.11 Notes for use in underlying cause mortality coding</b></p> <p>I24.0 Coronary thrombosis not resulting in myocardial infarction  Not to be used for underlying cause mortality coding. For mortality the occurrence of myocardial infarction is assumed and assignment made to I21.- or I22.- as appropriate</p>



No.	現行	改正案	WHO勧告 (原文)
	<p>下記の記載を伴うもの： M41.- ( (脊柱) 側弯 (症) )、<u>I27.1</u> にコードする。</p>	<p>原死因コーディングには使用しない。もし、原因が記載されていないならば、その他の型の慢性虚血性心疾患 (I25.8) にコードする。</p> <p>I27.9 肺性心疾患, 詳細不明 下記の記載を伴うもの： M41.- ( (脊柱) 側弯 (症) )、<u>I27.1</u> にコードする。</p>	<p>I25.2 Old myocardial infarction</p> <p>Not to be used for underlying cause mortality coding. If the cause is not stated, code to Other forms of chronic ischaemic heart disease (I25.8)</p> <p>I27.9 Pulmonary heart disease, unspecified</p> <p>with mention of:</p> <p>M41.- (Scoliosis), code <b>I27.1</b></p>
29	<p>I67.2 脳動脈のアテローム&lt;じゅく&lt;粥&gt;状&gt;動脈硬化 (症) 下記の記載を伴うもの： I60-I66 (脳出血、脳梗塞および脳卒中、脳実質外動脈および脳動脈の閉塞および狭窄)、<u>I60-I64</u> にコードする。 下記における病態の起点となる先行原因として記載された場合： F03 (詳細不明の認知症)、<u>F01.-</u>にコードする。 G20 (パーキンソン&lt;Parkinson&gt;病)、<u>G20</u> にコードする。</p>	<p>I67.2 脳動脈のアテローム&lt;じゅく&lt;粥&gt;状&gt;動脈硬化 (症) 下記の記載を伴うもの： I60-I66 (脳出血、脳梗塞および脳卒中、脳実質外動脈および脳動脈の閉塞および狭窄)、<u>I60-I64</u> にコードする。 下記における病態の起点となる先行原因として記載された場合： F03 (詳細不明の認知症)、<u>F01.-</u>にコードする。 G20 (パーキンソン&lt;Parkinson&gt;病)、<u>G20G21.4</u> にコードする。 G21.9 (続発性パーキンソン&lt;Parkinson&gt;症候群, 詳細不明)、<u>G21.4</u> にコードする。</p>	<p><b>4.1.11 Notes for use in underlying cause mortality coding</b></p> <p>I67.2 Cerebral atherosclerosis</p> <p>with mention of: I60-I66 (Cerebral haemorrhage, cerebral infarction or stroke, occlusion and stenosis of precerebral and cerebral arteries), code <b>I60-I64</b>.</p> <p>When reported as the originating antecedent cause of conditions in: F03 (Unspecified dementia), code <b>F01.-</b> G20 (Parkinson's disease), code <del>G20</del> <b>G21.4</b> <u>G21.9 (Secondary parkinsonism, unspecified), code G21.4</u></p>
30	<p>I70.9 全身性および詳細不明のアテローム&lt;じゅく&lt;粥&gt;状&gt;動脈硬化 (症) 下記の記載を伴うもの： R02 (え&lt;壊&gt;疸、他に分類されないもの)、<u>I70.2</u> にコードする。 下記における病態の起点となる先行原因として記載された場合： F01 (血管性認知症)、<u>F01.-</u>にコードする。 F03 (詳細不明の認知症)、<u>F01.-</u>にコードする。 G20 (パーキンソン&lt;Parkinson&gt;病)、<u>G20</u> にコードする。</p>	<p>I70.9 全身性および詳細不明のアテローム&lt;じゅく&lt;粥&gt;状&gt;動脈硬化 (症) 下記の記載を伴うもの： R02 (え&lt;壊&gt;疸、他に分類されないもの)、<u>I70.2</u> にコードする。 下記における病態の起点となる先行原因として記載された場合： F01 (血管性認知症)、<u>F01.-</u>にコードする。 F03 (詳細不明の認知症)、<u>F01.-</u>にコードする。 G20 (パーキンソン&lt;Parkinson&gt;病)、<u>G20G21.4</u> にコードする。 G21.9 (続発性パーキンソン&lt;Parkinson&gt;症候群, 詳細不明)、<u>G21.4</u> にコードする。</p>	<p>I70.9 Generalised and unspecified atherosclerosis</p> <p>With mention of: R02 (Gangrene, not elsewhere classified), code <b>I70.2</b></p> <p>When reported as the originating antecedent cause of: F01 (Vascular dementia), code <b>F01.-</b> F03 (Unspecified dementia), code <b>F01.-</b> G20 (Parkinson's disease), code <del>G20</del> <b>G21.4</b> <u>G21.9 (Secondary parkinsonism, unspecified), code G21.4</u></p>
31	<p>J 06.- 多部位および部位不明の急性上気道感染症 下記の起点となる先行原因として記載された場合： G03.8 (髄膜炎)、<u>G03.8</u> にコードする。 G06.0 (頭蓋内膿瘍および肉芽腫)、<u>G06.0</u> にコードする。 H65-H66 (中耳炎)、<u>H65-H66</u> にコードする。 H70.- (乳 (様) 突 (起) 炎および関連病態)、<u>H70.-</u>にコードする。</p>	<p>J 06.- 多部位および部位不明の急性上気道感染症 下記の起点となる先行原因として記載された場合： G03.8 (髄膜炎)、<u>G03.8</u> にコードする。 G06.0 (頭蓋内膿瘍および肉芽腫)、<u>G06.0</u> にコードする。 H65-H66 (中耳炎)、<u>H65-H66</u> にコードする。 H70.- (乳 (様) 突 (起) 炎および関連病態)、<u>H70.-</u>にコードする。</p>	<p><b>4.1.11 Notes for use in underlying cause mortality coding</b></p> <p>J00 Acute nasopharyngitis [common cold] J06.- Acute upper respiratory infections of multiple and unspecified sites</p> <p>when reported as the originating antecedent cause of: G03.8 (Meningitis), code <b>G03.8</b> G06.0 (Intracranial abscess and granuloma), code <b>G06.0</b></p>

No.	現行	改正案	WHO勧告(原文)
	<p>J10-J18 (インフルエンザおよび肺炎)、<u>J10-J18</u> にコードする。</p> <p>J20-J21 (気管支炎および細気管支炎)、<u>J20-J21</u> にコードする。</p> <p>J40-J42 (詳細不明および慢性気管支炎)、<u>J40-J42</u> にコードする。</p> <p>J44.- (その他の慢性閉塞性肺疾患)、<u>J44.-</u>にコードする。</p> <p>N00.- (急性腎炎症候群)、<u>N00.-</u>にコードする。</p>	<p><del>J10</del>J09-J18 (インフルエンザおよび肺炎)、<u>J10-J18</u> にコードする。</p> <p>J20-J21 (気管支炎および細気管支炎)、<u>J20-J21</u> にコードする。</p> <p>J40-J42 (詳細不明および慢性気管支炎)、<u>J40-J42</u> にコードする。</p> <p>J44.- (その他の慢性閉塞性肺疾患)、<u>J44.-</u>にコードする。</p> <p>N00.- (急性腎炎症候群)、<u>N00.-</u>にコードする。</p>	<p>H65-H66 (Otitis media), code <b>H65-H66</b></p> <p>H70.- (Mastoiditis and related conditions), code <b>H70.-</b></p> <p><del>J09</del>J10-J18 (Influenza and pneumonia), code <u>J09</u> <b>J10-J18</b></p> <p>J20-J21 (Bronchitis and bronchiolitis), code <b>J20-J21</b></p> <p>J40-J42 (Unspecified and chronic bronchitis), code <b>J40-J42</b></p> <p>J44.- (Other chronic obstructive pulmonary disease), code <b>J44.-</b></p> <p>N00.- (Acute nephritic syndrome), code <b>N00.-</b></p>
32	<p><b>4.1.11 原死因コーディングのための注</b></p> <p>J06.- 多部位および部位不明の急性上気道感染症</p> <p>...</p> <p>J20.- 急性気管支炎</p>	<p><b>4.1.11 原死因コーディングのための注</b></p> <p>J06.- 多部位および部位不明の急性上気道感染症</p> <p>...</p> <p><u>J18.- 肺炎, 病原体不詳</u></p> <p>下記の記載を伴うもの: <u>R26.3 (不動態)、J18.2 にコードする。</u></p> <p>J20.- 急性気管支炎</p>	<p><b>4.1.11 Notes for use in underlying cause mortality coding</b></p> <p>J06.- Acute upper respiratory infections of multiple and unspecified sites</p> <p>...</p> <p><u>J18.- Pneumonia, organism unspecified</u></p> <p>With mention of: <u>R26.3 (Immobility), code to J18.2</u></p> <p>J20.- Acute bronchitis</p>
33	<p><b>4.1.11 原死因コーディングのための注</b></p> <p>J43.- 肺気腫</p> <p>...</p> <p>J45.- 喘息</p>	<p><b>4.1.11 原死因コーディングのための注</b></p> <p>J43.- 肺気腫</p> <p>...</p> <p><u>J44.8-J44.9 その他および詳細不明の慢性閉塞性肺疾患</u></p> <p>下記の記載を伴うもの: <u>J12-J18 (肺炎)、J44.0 にコードする。</u> <u>J20-J22 (その他の急性下気道感染症)、J44.0 にコードする。</u></p> <p>J45.- 喘息</p>	<p><b>4.1.11 Notes for use in underlying cause mortality coding</b></p> <p>J43.- Emphysema</p> <p>...</p> <p><u>J44.8-J44.9 Other and unspecified chronic obstructive pulmonary disease</u></p> <p>With mention of: <u>J12-J18 (Pneumonia), code J44.0</u> <u>J20-J22 (Other acute lower respiratory infections), code J44.0</u></p> <p>J45.- Asthma</p>
34	<p><b>4.1.11 原死因コーディングのための注</b></p> <p>K72 肝不全、他に分類されないもの 下記の記載を伴うもの: F10.- (アルコール使用による精神および行動の障害)、<u>K70.4</u> にコードする。</p> <p>K73 慢性肝炎、他に分類されないもの 下記の記載を伴うもの: F10.- (アルコール使用による精神および行動の障害)、<u>K70.1</u> にコードする。</p> <p>K74.0 肝線維症 下記の記載を伴うもの: F10.- (アルコール使用による精神および行動の障害)、<u>K70.2</u> にコードする。</p> <p>K74.1 肝硬化症 下記の記載を伴うもの: F10.- (アルコール使用による精神および行動の障</p>	<p><b>4.1.11 原死因コーディングのための注</b></p> <p><u>K71 中毒性肝疾患</u></p> <p>下記の記載を伴うもの:: <u>T51.- (アルコールの毒作用)、K70.-にコードする。</u></p> <p>K72 肝不全、他に分類されないもの 下記の記載を伴うもの: F10.- (アルコール使用による精神および行動の障害)、<u>K70.4</u> にコードする。</p> <p>K73 慢性肝炎、他に分類されないもの 下記の記載を伴うもの: F10.- (アルコール使用による精神および行動の障害)、<u>K70.1</u> にコードする。</p> <p>K74.0 肝線維症 下記の記載を伴うもの: F10.- (アルコール使用による精神および行動の障害)、<u>K70.2</u> にコードする。</p>	<p><b>4.1.11 Notes for underlying cause mortality coding</b></p> <p><u>K71 Toxic liver disease</u></p> <p>with mention of: <u>T51.- (Toxic effect of alcohol), code K70.-</u></p> <p>K72 Hepatic failure, not elsewhere classified</p> <p>with mention of: F10.- (Mental and behavioural disorders due to use of alcohol), code K70.4 <u>T51.- (Toxic effect of alcohol), code K70.4</u></p> <p>K73 Chronic hepatitis, not elsewhere classified</p> <p>with mention of: F10.- (Mental and behavioural disorders due to use of alcohol), code K70.1 <u>T51.- (Toxic effect of alcohol), code K70.1</u></p> <p>K74.0 Hepatic fibrosis</p>

No.	現行	改正案	WHO勧告 (原文)
	<p>害)、 K70.2 にコードする。</p> <p>K74.2 肝硬化症を伴う肝線維症 下記の記載を伴うもの： F10.- (アルコール使用による精神および行動の障 害)、 K70.2 にコードする。</p> <p>K74.6 その他および詳細不明の肝硬変 下記の記載を伴うもの： F10.- (アルコール使用による精神および行動の障 害)、 K70.3 にコードする。</p> <p>K75.9 炎症性肝疾患、 詳細不明 下記の記載を伴うもの： F10.- (アルコール使用による精神および行動の障 害)、 K70.1 にコードする。</p> <p>K76.0 脂肪肝&lt;肝の脂肪化&gt;、 他に分類されないもの 下記の記載を伴うもの： F10.- (アルコール使用による精神および行動の障 害)、 K70.0 にコードする。</p> <p>K76.9 肝疾患、 詳細不明 下記の記載を伴うもの： F10.- (アルコール使用による精神および行動の障 害)、 K70.9 にコードする。</p>	<p>T51.- (アルコールの毒作用)、 K70.2 にコードする。</p> <p>K74.1 肝硬化症 下記の記載を伴うもの： F10.- (アルコール使用による精神および行動の障 害)、 K70.2 にコードする。</p> <p>T51.- (アルコールの毒作用)、 K70.2 にコードする。</p> <p>K74.2 肝硬化症を伴う肝線維症 下記の記載を伴うもの： F10.- (アルコール使用による精神および行動の障 害)、 K70.2 にコードする。</p> <p>T51.- (アルコールの毒作用)、 K70.2 にコードする。</p> <p>K74.6 その他および詳細不明の肝硬変 下記の記載を伴うもの： F10.- (アルコール使用による精神および行動の障 害)、 K70.3 にコードする。</p> <p>T51.- (アルコールの毒作用)、 K70.3 にコードする。</p> <p>K75.9 炎症性肝疾患、 詳細不明 下記の記載を伴うもの： F10.- (アルコール使用による精神および行動の障 害)、 K70.1 にコードする。</p> <p>T51.- (アルコールの毒作用)、 K70.1 にコードする。</p> <p>K76.0 脂肪肝&lt;肝の脂肪化&gt;、 他に分類されないもの 下記の記載を伴うもの： F10.- (アルコール使用による精神および行動の障 害)、 K70.0 にコードする。</p> <p>T51.- (アルコールの毒作用)、 K70.0 にコードする。</p> <p>K76.9 肝疾患、 詳細不明 下記の記載を伴うもの： F10.- (アルコール使用による精神および行動の障 害)、 K70.9 にコードする。</p> <p>T51.- (アルコールの毒作用)、 K70.9 にコードする。</p>	<p><i>with mention of:</i> F10.- (Mental and behavioural disorders due to use of alcohol), code K70.2 <u>T51.- (Toxic effect of alcohol), code K70.2</u></p> <p>K74.1 Hepatic sclerosis</p> <p><i>with mention of:</i> F10.- (Mental and behavioural disorders due to use of alcohol), code K70.2 <u>T51.- (Toxic effect of alcohol), code K70.2</u></p> <p>K74.2 Hepatic fibrosis with hepatic sclerosis</p> <p><i>with mention of:</i> F10.- (Mental and behavioural disorders due to use of alcohol), code K70.2 <u>T51.- (Toxic effect of alcohol), code K70.2</u></p> <p>K74.6 Other and unspecified cirrhosis of liver</p> <p><i>with mention of:</i> F10.- (Mental and behavioural disorders due to use of alcohol), code K70.3 <u>T51.- (Toxic effect of alcohol), code K70.3</u></p> <p>K75.9 Inflammatory liver disease, unspecified</p> <p><i>with mention of:</i> F10.- (Mental and behavioural disorders due to use of alcohol), code K70.1 <u>T51.- (Toxic effect of alcohol), code K70.1</u></p> <p>K76.0 Fatty (change) of liver, not elsewhere classified</p> <p><i>with mention of:</i> F10.- (Mental and behavioural disorders due to use of alcohol), code K70.0 <u>T51.- (Toxic effect of alcohol), code K70.0</u></p> <p>K76.9 Liver disease, unspecified</p> <p><i>with mention of:</i> F10.- (Mental and behavioural disorders due to use of alcohol), code K70.9 <u>T51.- (Toxic effect of alcohol), code K70.9</u></p>
35	<p>K91.- 消化器系の処置後障害、 他に分類されないもの 原死因コーディングには使用しない。 手術、 4.2.6 節参 照。</p>	<p>K85.9 急性膵炎、 詳細不明 下記の記載を伴うもの： F10.- (アルコール使用による精神および行動の障 害)、 K85.2 にコードする。</p> <p>K91.- 消化器系の処置後障害、 他に分類されないもの 原死因コーディングには使用しない。 手術、 4.2.6 節参 照。</p>	<p><b>4.1.11 Notes for use in underlying cause mortality coding</b></p> <p><u>K85.9 Acute pancreatitis, unspecified</u> <i>with mention of:</i> ... <u>F10.- (Mental and behavioural disorders due to use of alcohol), code K85.2</u></p>

No.	現行	改正案	WHO勧告 (原文)																																																																																								
36	N00.- 急性ネフローゼ症候群 下記の起点となる先行原因として記載された場合: N03.- (慢性ネフローゼ症候群)、 <u>N03.-</u> にコードする。 N18.- 慢性腎不全	N00.- 急性ネフローゼ症候群 下記の起点となる先行原因として記載された場合: N03.- (慢性ネフローゼ症候群)、 <u>N03.-</u> にコードする。 N18.- <u>慢性腎不全腎臓病</u>	N00.- Acute nephritic syndrome <i>when reported as the originating antecedent cause of:</i> N03.- (Chronic nephritic syndrome), code <u>N03.-</u> N18.- Chronic <del>renal failure</del> <u>kidney disease</u>																																																																																								
37	<b>4.1.11 原死因コーディングのための注</b>  P07.- 妊娠期間短縮および低出産体重に関連した障害, 他に分類されないもの P08.- 遷延妊娠および高出産体重児に関連した障害 もし、周産期死亡のその他の原因が記載されていれば、使用しない。	<b>4.1.11 原死因コーディングのための注</b>  P07.- 妊娠期間短縮および低出産体重に関連した障害, 他に分類されないもの P08.- 遷延妊娠および高出産体重児に関連した障害 もし、周産期死亡のその他の原因が記載されていれば、使用しない。記載された周産期死亡のその他の原因が新生児の呼吸不全 (P28.5) のみの場合はこれを適用しない。	<b>4.1.11 Notes for use in underlying cause mortality coding</b>  P07.- Disorders related to short gestation and low birth weight, not elsewhere classified P08.- Disorders related to long gestation and high birth weight Not to be used if any other cause of perinatal mortality is reported. <u>This does not apply if the only other cause of perinatal mortality reported is respiratory failure of newborn (P28.5).</u>																																																																																								
38	<b>4.1.11 原死因コーディングのための注</b> P 72.2 – P 74 ... R69.- 原因不明および詳細不明の疾病	<b>4.1.11 原死因コーディングのための注</b> P 72.2 – P 74 ... R57.2 敗血症性ショック R65.0 臓器不全を伴わない感染源の全身性炎症性反応症候群 R65.1 臓器不全を伴う感染源の全身性炎症性反応症候群 <u>原死因コーディングには使用しない。原因となる感染症 (A00-B99) にコードする。原因となる感染症が記載されていない場合は、敗血症, 詳細不明 (A41.9) にコードする。</u> R69.- 原因不明および詳細不明の疾病	<b>4.1.11 Notes for use in underlying cause mortality coding</b>  ... perinatal period, unspecified ( <b>P96.9</b> )  <u>R57.2 Septic shock</u> <u>R65.0 Systemic inflammatory response syndrome of infectious origin without organ failure</u> <u>R65.1 Systemic inflammatory response syndrome of infectious origin with organ failure</u>  <u>Not to be used for underlying cause mortality coding. Code to the originating infectious disease (A00-B99). If no originating infectious disease is mentioned, code to unspecified sepsis (A41.9).</u>  R69.- Unknown and unspecified causes of morbidity																																																																																								
39	<table border="1"> <thead> <tr> <th>第1欄 選ばれた原因 Selected-</th> <th>第2欄 付記された病態 With mention-</th> <th>第3欄 引き起こされた病態 As cause of</th> <th>第4欄 連鎖コード Resulting link-</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>D50-D59</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>E86</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	第1欄 選ばれた原因 Selected-	第2欄 付記された病態 With mention-	第3欄 引き起こされた病態 As cause of	第4欄 連鎖コード Resulting link-	D50-D59				E86				<table border="1"> <thead> <tr> <th>第1欄 選ばれた原因 Selected-</th> <th>第2欄</th> <th>第3欄 引き起こされた病態 As cause of</th> <th>第4欄 連鎖コード Resulting link-</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>D50-D59</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>E10-E14</td> <td></td> <td>E87.2</td> <td>E10-14 (E1x.1)</td> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <td>E88.8</td> <td>E10-14 (E1x.1)</td> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <td>G58</td> <td>E10-14 (E1x.4)</td> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <td>G62.9</td> <td>E10-14 (E1x.4)</td> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <td>G64</td> <td>E10-14 (E1x.4)</td> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <td>G70.9</td> <td>E10-14 (E1x.4)</td> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <td>G71.8</td> <td>E10-14 (E1x.4)</td> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <td>G90.9</td> <td>E10-14 (E1x.4)</td> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <td>H20.9</td> <td>E10-14 (E1x.3)</td> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <td>H26.9</td> <td>E10-14 (E1x.3)</td> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <td>H30.9</td> <td>E10-14 (E1x.3)</td> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <td>H34</td> <td>E10-14 (E1x.3)</td> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <td>H35.0</td> <td>E10-14 (E1x.3)</td> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <td>H35.2</td> <td>E10-14 (E1x.3)</td> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <td>H35.6</td> <td>E10-14 (E1x.3)</td> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <td>H35.9</td> <td>E10-14 (E1x.3)</td> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <td>H49.9</td> <td>E10-14 (E1x.3)</td> </tr> </tbody> </table>	第1欄 選ばれた原因 Selected-	第2欄	第3欄 引き起こされた病態 As cause of	第4欄 連鎖コード Resulting link-	D50-D59				E10-E14		E87.2	E10-14 (E1x.1)			E88.8	E10-14 (E1x.1)			G58	E10-14 (E1x.4)			G62.9	E10-14 (E1x.4)			G64	E10-14 (E1x.4)			G70.9	E10-14 (E1x.4)			G71.8	E10-14 (E1x.4)			G90.9	E10-14 (E1x.4)			H20.9	E10-14 (E1x.3)			H26.9	E10-14 (E1x.3)			H30.9	E10-14 (E1x.3)			H34	E10-14 (E1x.3)			H35.0	E10-14 (E1x.3)			H35.2	E10-14 (E1x.3)			H35.6	E10-14 (E1x.3)			H35.9	E10-14 (E1x.3)			H49.9	E10-14 (E1x.3)	<b>4.1.12 Summary of linkages by code number</b>  <b>Table 1. Summary of linkages by code number</b>  Selected cause With mention of: As cause of: Resulting linked code  E10-E14 E87.2 E10-14 (E1x.1) E88.8 E10-14 (E1x.1) G58 E10-14 (E1x.4) G62.9 E10-14 (E1x.4) G64 E10-14 (E1x.4) G70.9 E10-14 (E1x.4) G71.8 E10-14 (E1x.4) G90.9 E10-14 (E1x.4) H20.9 E10-14 (E1x.3) H26.9 E10-14 (E1x.3) H30.9 E10-14 (E1x.3) H34 E10-14 (E1x.3) H35.0 E10-14 (E1x.3) H35.2 E10-14 (E1x.3) H35.6 E10-14 (E1x.3) H35.9 E10-14 (E1x.3) H49.9 E10-14 (E1x.3)
第1欄 選ばれた原因 Selected-	第2欄 付記された病態 With mention-	第3欄 引き起こされた病態 As cause of	第4欄 連鎖コード Resulting link-																																																																																								
D50-D59																																																																																											
E86																																																																																											
第1欄 選ばれた原因 Selected-	第2欄	第3欄 引き起こされた病態 As cause of	第4欄 連鎖コード Resulting link-																																																																																								
D50-D59																																																																																											
E10-E14		E87.2	E10-14 (E1x.1)																																																																																								
		E88.8	E10-14 (E1x.1)																																																																																								
		G58	E10-14 (E1x.4)																																																																																								
		G62.9	E10-14 (E1x.4)																																																																																								
		G64	E10-14 (E1x.4)																																																																																								
		G70.9	E10-14 (E1x.4)																																																																																								
		G71.8	E10-14 (E1x.4)																																																																																								
		G90.9	E10-14 (E1x.4)																																																																																								
		H20.9	E10-14 (E1x.3)																																																																																								
		H26.9	E10-14 (E1x.3)																																																																																								
		H30.9	E10-14 (E1x.3)																																																																																								
		H34	E10-14 (E1x.3)																																																																																								
		H35.0	E10-14 (E1x.3)																																																																																								
		H35.2	E10-14 (E1x.3)																																																																																								
		H35.6	E10-14 (E1x.3)																																																																																								
		H35.9	E10-14 (E1x.3)																																																																																								
		H49.9	E10-14 (E1x.3)																																																																																								



No.	現行	改正案	WHO勧告 (原文)																																																																																																																											
		<table border="1"> <tr><td></td><td></td><td>H54</td><td>E10-14 (E1x.3)</td></tr> <tr><td></td><td></td><td>I70.2</td><td>E10-14 (E1x.5)</td></tr> <tr><td></td><td></td><td>I73.9</td><td>E10-14 (E1x.5)</td></tr> <tr><td></td><td></td><td>L30.9</td><td>E10-14 (E1x.6)</td></tr> <tr><td></td><td></td><td>L92.1</td><td>E10-14 (E1x.6)</td></tr> <tr><td></td><td></td><td>M13.9</td><td>E10-14 (E1x.6)</td></tr> <tr><td></td><td></td><td>M79.2</td><td>E10-14 (E1x.4)</td></tr> <tr><td></td><td></td><td>M89.9</td><td>E10-14 (E1x.6)</td></tr> <tr><td></td><td></td><td>N03- N05</td><td>E10-14 (E1x.2)</td></tr> <tr><td></td><td></td><td>N18.-</td><td>E10-14 (E1x.2)</td></tr> <tr><td></td><td></td><td>N19</td><td>E10-14 (E1x.2)</td></tr> <tr><td></td><td></td><td>N26</td><td>E10-14 (E1x.2)</td></tr> <tr><td></td><td></td><td>N28.9</td><td>E10-14 (E1x.2)</td></tr> <tr><td></td><td></td><td>N39.0</td><td>E10-14 (E1x.6)</td></tr> <tr><td></td><td></td><td>N39.1</td><td>E10-14 (E1x.2)</td></tr> <tr><td></td><td></td><td>R02</td><td>E10-14 (E1x.5)</td></tr> <tr><td></td><td></td><td>R40.2</td><td>E10-14 (E1x.0)</td></tr> <tr><td>E86</td><td></td><td></td><td></td></tr> </table>			H54	E10-14 (E1x.3)			I70.2	E10-14 (E1x.5)			I73.9	E10-14 (E1x.5)			L30.9	E10-14 (E1x.6)			L92.1	E10-14 (E1x.6)			M13.9	E10-14 (E1x.6)			M79.2	E10-14 (E1x.4)			M89.9	E10-14 (E1x.6)			N03- N05	E10-14 (E1x.2)			N18.-	E10-14 (E1x.2)			N19	E10-14 (E1x.2)			N26	E10-14 (E1x.2)			N28.9	E10-14 (E1x.2)			N39.0	E10-14 (E1x.6)			N39.1	E10-14 (E1x.2)			R02	E10-14 (E1x.5)			R40.2	E10-14 (E1x.0)	E86				<table border="1"> <tr><td></td><td>H54</td><td>E10-14 (E1x.3)</td></tr> <tr><td></td><td>I73.9</td><td>E10-14 (E1x.5)</td></tr> <tr><td></td><td>I70.2</td><td>E10-14 (E1x.5)</td></tr> <tr><td></td><td>L30.9</td><td>E10-14 (E1x.6)</td></tr> <tr><td></td><td>L92.1</td><td>E10-14 (E1x.6)</td></tr> <tr><td></td><td>M13.9</td><td>E10-14 (E1x.6)</td></tr> <tr><td></td><td>M79.2</td><td>E10-14 (E1x.4)</td></tr> <tr><td></td><td>M89.9</td><td>E10-14 (E1x.6)</td></tr> <tr><td></td><td>N03- N05</td><td>E10-14 (E1x.2)</td></tr> <tr><td></td><td>N18.- N18.9</td><td>E10-14 (E1x.2)</td></tr> <tr><td></td><td>N19</td><td>E10-14 (E1x.2)</td></tr> <tr><td></td><td>N26</td><td>E10-14 (E1x.2)</td></tr> <tr><td></td><td>N28.9</td><td>E10-14 (E1x.2)</td></tr> <tr><td></td><td>N39.0</td><td>E10-14 (E1x.6)</td></tr> <tr><td></td><td>N39.1</td><td>E10-14 (E1x.2)</td></tr> <tr><td></td><td>R02</td><td>E10-14 (E1x.5)</td></tr> <tr><td></td><td>R40.2</td><td>E10-14 (E1x.0)</td></tr> </table>		H54	E10-14 (E1x.3)		I73.9	E10-14 (E1x.5)		I70.2	E10-14 (E1x.5)		L30.9	E10-14 (E1x.6)		L92.1	E10-14 (E1x.6)		M13.9	E10-14 (E1x.6)		M79.2	E10-14 (E1x.4)		M89.9	E10-14 (E1x.6)		N03- N05	E10-14 (E1x.2)		N18.- N18.9	E10-14 (E1x.2)		N19	E10-14 (E1x.2)		N26	E10-14 (E1x.2)		N28.9	E10-14 (E1x.2)		N39.0	E10-14 (E1x.6)		N39.1	E10-14 (E1x.2)		R02	E10-14 (E1x.5)		R40.2	E10-14 (E1x.0)
		H54	E10-14 (E1x.3)																																																																																																																											
		I70.2	E10-14 (E1x.5)																																																																																																																											
		I73.9	E10-14 (E1x.5)																																																																																																																											
		L30.9	E10-14 (E1x.6)																																																																																																																											
		L92.1	E10-14 (E1x.6)																																																																																																																											
		M13.9	E10-14 (E1x.6)																																																																																																																											
		M79.2	E10-14 (E1x.4)																																																																																																																											
		M89.9	E10-14 (E1x.6)																																																																																																																											
		N03- N05	E10-14 (E1x.2)																																																																																																																											
		N18.-	E10-14 (E1x.2)																																																																																																																											
		N19	E10-14 (E1x.2)																																																																																																																											
		N26	E10-14 (E1x.2)																																																																																																																											
		N28.9	E10-14 (E1x.2)																																																																																																																											
		N39.0	E10-14 (E1x.6)																																																																																																																											
		N39.1	E10-14 (E1x.2)																																																																																																																											
		R02	E10-14 (E1x.5)																																																																																																																											
		R40.2	E10-14 (E1x.0)																																																																																																																											
E86																																																																																																																														
	H54	E10-14 (E1x.3)																																																																																																																												
	I73.9	E10-14 (E1x.5)																																																																																																																												
	I70.2	E10-14 (E1x.5)																																																																																																																												
	L30.9	E10-14 (E1x.6)																																																																																																																												
	L92.1	E10-14 (E1x.6)																																																																																																																												
	M13.9	E10-14 (E1x.6)																																																																																																																												
	M79.2	E10-14 (E1x.4)																																																																																																																												
	M89.9	E10-14 (E1x.6)																																																																																																																												
	N03- N05	E10-14 (E1x.2)																																																																																																																												
	N18.- N18.9	E10-14 (E1x.2)																																																																																																																												
	N19	E10-14 (E1x.2)																																																																																																																												
	N26	E10-14 (E1x.2)																																																																																																																												
	N28.9	E10-14 (E1x.2)																																																																																																																												
	N39.0	E10-14 (E1x.6)																																																																																																																												
	N39.1	E10-14 (E1x.2)																																																																																																																												
	R02	E10-14 (E1x.5)																																																																																																																												
	R40.2	E10-14 (E1x.0)																																																																																																																												
40	<table border="1"> <thead> <tr> <th>第1欄 選ばれた原因 Selected-</th> <th>第2欄 付記された病態 With mention-</th> <th>第3欄 引き起こされ た病態 As cause of</th> <th>第4欄 連鎖コード Resulting link-</th> </tr> </thead> <tbody> <tr><td>I70.9</td><td>R02</td><td></td><td>I70.2</td></tr> <tr><td></td><td></td><td>F03</td><td>F01.-</td></tr> <tr><td></td><td></td><td>G20</td><td>G20</td></tr> </tbody> </table>	第1欄 選ばれた原因 Selected-	第2欄 付記された病態 With mention-	第3欄 引き起こされ た病態 As cause of	第4欄 連鎖コード Resulting link-	I70.9	R02		I70.2			F03	F01.-			G20	G20	<table border="1"> <thead> <tr> <th>第1欄 選ばれた原因 Selected-</th> <th>第2欄 付記された病態 With mention-</th> <th>第3欄 引き起こされ た病態 As cause of</th> <th>第4欄 連鎖コード Resulting link-</th> </tr> </thead> <tbody> <tr><td>I70.9</td><td>R02</td><td></td><td>I70.2</td></tr> <tr><td></td><td></td><td>F03</td><td>F01.-</td></tr> <tr><td></td><td></td><td>G20</td><td><del>G20</del>G21.4</td></tr> <tr><td></td><td></td><td>G21.9</td><td>G21.4</td></tr> </tbody> </table>	第1欄 選ばれた原因 Selected-	第2欄 付記された病態 With mention-	第3欄 引き起こされ た病態 As cause of	第4欄 連鎖コード Resulting link-	I70.9	R02		I70.2			F03	F01.-			G20	<del>G20</del> G21.4			G21.9	G21.4	<p><b>4.1.12 Summary of linkages by code number</b></p> <p><i>Table 1. Summary of linkages by code number</i></p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>Selected cause</th> <th>With mention of:</th> <th>As cause of:</th> <th>Resulting linked code</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>I67.2</td> <td>I60-I66</td> <td></td> <td>I60-I64</td> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <td>F03</td> <td>F01.-</td> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <td>G20</td> <td>G21.4</td> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <td>G21.9</td> <td>G21.4</td> </tr> <tr> <td>I70.9</td> <td>R02</td> <td></td> <td>I70.2</td> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <td>F03</td> <td>F01.-</td> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <td>G20</td> <td><del>G20</del> G21.4</td> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <td>G21.9</td> <td>G21.4</td> </tr> </tbody> </table>	Selected cause	With mention of:	As cause of:	Resulting linked code	I67.2	I60-I66		I60-I64			F03	F01.-			G20	G21.4			G21.9	G21.4	I70.9	R02		I70.2			F03	F01.-			G20	<del>G20</del> G21.4			G21.9	G21.4																																																			
第1欄 選ばれた原因 Selected-	第2欄 付記された病態 With mention-	第3欄 引き起こされ た病態 As cause of	第4欄 連鎖コード Resulting link-																																																																																																																											
I70.9	R02		I70.2																																																																																																																											
		F03	F01.-																																																																																																																											
		G20	G20																																																																																																																											
第1欄 選ばれた原因 Selected-	第2欄 付記された病態 With mention-	第3欄 引き起こされ た病態 As cause of	第4欄 連鎖コード Resulting link-																																																																																																																											
I70.9	R02		I70.2																																																																																																																											
		F03	F01.-																																																																																																																											
		G20	<del>G20</del> G21.4																																																																																																																											
		G21.9	G21.4																																																																																																																											
Selected cause	With mention of:	As cause of:	Resulting linked code																																																																																																																											
I67.2	I60-I66		I60-I64																																																																																																																											
		F03	F01.-																																																																																																																											
		G20	G21.4																																																																																																																											
		G21.9	G21.4																																																																																																																											
I70.9	R02		I70.2																																																																																																																											
		F03	F01.-																																																																																																																											
		G20	<del>G20</del> G21.4																																																																																																																											
		G21.9	G21.4																																																																																																																											
41	<table border="1"> <thead> <tr> <th>第1欄 選ばれた原因 Selected-</th> <th>第2欄 付記された病態 With mention-</th> <th>第3欄 引き起こされ た病態 As cause of</th> <th>第4欄 連鎖コード Resulting link-</th> </tr> </thead> <tbody> <tr><td>J00 } J06.- }</td><td></td><td>G03.8</td><td>G03.8</td></tr> <tr><td></td><td></td><td>G06.0</td><td>G06.0</td></tr> <tr><td></td><td></td><td>H65-H66</td><td>H65-H66</td></tr> <tr><td></td><td></td><td>H70.-</td><td>H70.-</td></tr> <tr><td></td><td></td><td>J10-J18</td><td>J10-J18</td></tr> <tr><td></td><td></td><td>J20-J21</td><td>J20-J21</td></tr> <tr><td></td><td></td><td>J40-J42</td><td>J40-J42</td></tr> <tr><td></td><td></td><td>J44.-</td><td>J44.-</td></tr> <tr><td></td><td></td><td>N00.-</td><td>N00.-</td></tr> </tbody> </table>	第1欄 選ばれた原因 Selected-	第2欄 付記された病態 With mention-	第3欄 引き起こされ た病態 As cause of	第4欄 連鎖コード Resulting link-	J00 } J06.- }		G03.8	G03.8			G06.0	G06.0			H65-H66	H65-H66			H70.-	H70.-			J10-J18	J10-J18			J20-J21	J20-J21			J40-J42	J40-J42			J44.-	J44.-			N00.-	N00.-	<table border="1"> <thead> <tr> <th>第1欄 選ばれた原因 Selected-</th> <th>第2欄 付記された病態 With mention-</th> <th>第3欄 引き起こされ た病態 As cause of</th> <th>第4欄 連鎖コード Resulting link-</th> </tr> </thead> <tbody> <tr><td>J00 } J06.- }</td><td></td><td>G03.8</td><td>G03.8</td></tr> <tr><td></td><td></td><td>G06.0</td><td>G06.0</td></tr> <tr><td></td><td></td><td>H65--H66</td><td>H65--H66</td></tr> <tr><td></td><td></td><td>H70.-</td><td>H70.-</td></tr> <tr><td></td><td></td><td>J09J10--J18</td><td>J09J10--J18</td></tr> <tr><td></td><td></td><td>J20--J21</td><td>J20--J21</td></tr> <tr><td></td><td></td><td>J40--J42</td><td>J40--J42</td></tr> <tr><td></td><td></td><td>J44.-</td><td>J44.-</td></tr> <tr><td></td><td></td><td>N00.-</td><td>N00.-</td></tr> </tbody> </table>	第1欄 選ばれた原因 Selected-	第2欄 付記された病態 With mention-	第3欄 引き起こされ た病態 As cause of	第4欄 連鎖コード Resulting link-	J00 } J06.- }		G03.8	G03.8			G06.0	G06.0			H65--H66	H65--H66			H70.-	H70.-			J09J10--J18	J09J10--J18			J20--J21	J20--J21			J40--J42	J40--J42			J44.-	J44.-			N00.-	N00.-	<p><b>4.1.12 Summary of linkages by code number</b></p> <p><i>Table 1. Summary of linkages by code number</i></p> <p><b>Page 86 – revise codes</b></p> <table border="1"> <tbody> <tr><td>J00</td><td>}</td><td></td><td></td></tr> <tr><td>J06.-</td><td>}</td><td>G03.8</td><td>G03.8</td></tr> <tr><td></td><td></td><td>G06.0</td><td>G06.0</td></tr> <tr><td></td><td></td><td>H65-H66</td><td>H65-H66</td></tr> <tr><td></td><td></td><td>H70.-</td><td>H70.-</td></tr> <tr><td></td><td></td><td>J09J10-J18</td><td>J09J10-J18</td></tr> <tr><td></td><td></td><td>J20-J21</td><td>J20-J21</td></tr> <tr><td></td><td></td><td>J40-J42</td><td>J40-J42</td></tr> <tr><td></td><td></td><td>J44.-</td><td>J44.-</td></tr> <tr><td></td><td></td><td>N00.-</td><td>N00.-</td></tr> </tbody> </table>	J00	}			J06.-	}	G03.8	G03.8			G06.0	G06.0			H65-H66	H65-H66			H70.-	H70.-			J09J10-J18	J09J10-J18			J20-J21	J20-J21			J40-J42	J40-J42			J44.-	J44.-			N00.-	N00.-			
第1欄 選ばれた原因 Selected-	第2欄 付記された病態 With mention-	第3欄 引き起こされ た病態 As cause of	第4欄 連鎖コード Resulting link-																																																																																																																											
J00 } J06.- }		G03.8	G03.8																																																																																																																											
		G06.0	G06.0																																																																																																																											
		H65-H66	H65-H66																																																																																																																											
		H70.-	H70.-																																																																																																																											
		J10-J18	J10-J18																																																																																																																											
		J20-J21	J20-J21																																																																																																																											
		J40-J42	J40-J42																																																																																																																											
		J44.-	J44.-																																																																																																																											
		N00.-	N00.-																																																																																																																											
第1欄 選ばれた原因 Selected-	第2欄 付記された病態 With mention-	第3欄 引き起こされ た病態 As cause of	第4欄 連鎖コード Resulting link-																																																																																																																											
J00 } J06.- }		G03.8	G03.8																																																																																																																											
		G06.0	G06.0																																																																																																																											
		H65--H66	H65--H66																																																																																																																											
		H70.-	H70.-																																																																																																																											
		J09J10--J18	J09J10--J18																																																																																																																											
		J20--J21	J20--J21																																																																																																																											
		J40--J42	J40--J42																																																																																																																											
		J44.-	J44.-																																																																																																																											
		N00.-	N00.-																																																																																																																											
J00	}																																																																																																																													
J06.-	}	G03.8	G03.8																																																																																																																											
		G06.0	G06.0																																																																																																																											
		H65-H66	H65-H66																																																																																																																											
		H70.-	H70.-																																																																																																																											
		J09J10-J18	J09J10-J18																																																																																																																											
		J20-J21	J20-J21																																																																																																																											
		J40-J42	J40-J42																																																																																																																											
		J44.-	J44.-																																																																																																																											
		N00.-	N00.-																																																																																																																											
42	<p><b>4.1.12 コード番号による連鎖表</b></p> <p>表1. コード番号による連鎖表</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>第1欄 選ばれた原因</th> <th>第2欄 付記された病態</th> <th>第3欄 引き起こされ</th> <th>第4欄 連鎖コード</th> </tr> </thead> </table>	第1欄 選ばれた原因	第2欄 付記された病態	第3欄 引き起こされ	第4欄 連鎖コード	<p><b>4.1.12 コード番号による連鎖表</b></p> <p>表1. コード番号による連鎖表</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>第1欄 選ばれた原因</th> <th>第2欄 付記された病態</th> <th>第3欄 引き起こされ</th> <th>第4欄 連鎖コード</th> </tr> </thead> </table>	第1欄 選ばれた原因	第2欄 付記された病態	第3欄 引き起こされ	第4欄 連鎖コード	<p><b>4.1.12 Summary of linkages by code number</b></p> <p><i>Table 1. Summary of linkages by code number</i></p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>Selected cause</th> <th>With mention of:</th> <th>As cause of:</th> <th>Resulting lined code</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>J43.-</td> <td>J40</td> <td></td> <td>J44.-</td> </tr> </tbody> </table>	Selected cause	With mention of:	As cause of:	Resulting lined code	J43.-	J40		J44.-																																																																																																											
第1欄 選ばれた原因	第2欄 付記された病態	第3欄 引き起こされ	第4欄 連鎖コード																																																																																																																											
第1欄 選ばれた原因	第2欄 付記された病態	第3欄 引き起こされ	第4欄 連鎖コード																																																																																																																											
Selected cause	With mention of:	As cause of:	Resulting lined code																																																																																																																											
J43.-	J40		J44.-																																																																																																																											

No.	現行	改正案	WHO勧告 (原文)																																																																												
	<table border="1"> <tr> <td>Selected-</td> <td>With mention-</td> <td>た病態 As cause of</td> <td>Resulting link-</td> </tr> <tr> <td>J43.-</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>J60-J64</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </table>	Selected-	With mention-	た病態 As cause of	Resulting link-	J43.-				J60-J64				<table border="1"> <tr> <td>Selected-</td> <td>With mention-</td> <td>た病態 As cause of</td> <td>Resulting link-</td> </tr> <tr> <td>J43.-</td> <td>J40</td> <td></td> <td>J44.-</td> </tr> <tr> <td>J44.8-J44.9</td> <td>J12-J18</td> <td></td> <td>J44.0</td> </tr> <tr> <td></td> <td>J20-J22</td> <td></td> <td>J44.0</td> </tr> <tr> <td>J60-J64</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </table>	Selected-	With mention-	た病態 As cause of	Resulting link-	J43.-	J40		J44.-	J44.8-J44.9	J12-J18		J44.0		J20-J22		J44.0	J60-J64				<p>...</p> <table border="1"> <tr> <td>J44.8-J44.9</td> <td>J12-J18</td> <td>J44.0</td> </tr> <tr> <td>J60-J64</td> <td>J20-J22</td> <td>J44.0</td> </tr> </table>	J44.8-J44.9	J12-J18	J44.0	J60-J64	J20-J22	J44.0																																						
Selected-	With mention-	た病態 As cause of	Resulting link-																																																																												
J43.-																																																																															
J60-J64																																																																															
Selected-	With mention-	た病態 As cause of	Resulting link-																																																																												
J43.-	J40		J44.-																																																																												
J44.8-J44.9	J12-J18		J44.0																																																																												
	J20-J22		J44.0																																																																												
J60-J64																																																																															
J44.8-J44.9	J12-J18	J44.0																																																																													
J60-J64	J20-J22	J44.0																																																																													
43	<p><b>4.1.12 コード番号による連鎖表</b></p> <p>表 1. コード番号による連鎖表</p> <table border="1"> <tr> <td>第 1 欄 選ばれた原因 Selected-</td> <td>第 2 欄 付記された病態 With mention-</td> <td>第 3 欄 引き起こされ た病態 As cause of</td> <td>第 4 欄 連鎖コード Resulting link-</td> </tr> <tr> <td>J81</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>M41.-</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </table>	第 1 欄 選ばれた原因 Selected-	第 2 欄 付記された病態 With mention-	第 3 欄 引き起こされ た病態 As cause of	第 4 欄 連鎖コード Resulting link-	J81				M41.-				<p><b>4.1.12 コード番号による連鎖表</b></p> <p>表 1. コード番号による連鎖表</p> <table border="1"> <tr> <td>第 1 欄 選ばれた原因 Selected-</td> <td>第 2 欄 付記された病態 With mention-</td> <td>第 3 欄 引き起こされ た病態 As cause of</td> <td>第 4 欄 連鎖コード Resulting link-</td> </tr> <tr> <td>J81</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td><u>K85.9</u></td> <td></td> <td></td> <td><u>K85.2</u></td> </tr> <tr> <td>M41.-</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </table>	第 1 欄 選ばれた原因 Selected-	第 2 欄 付記された病態 With mention-	第 3 欄 引き起こされ た病態 As cause of	第 4 欄 連鎖コード Resulting link-	J81				<u>K85.9</u>			<u>K85.2</u>	M41.-				<p><b>4.1.12 Summary of linkages by code number</b></p> <p><i>Table 1. Summary of linkages by code number</i></p> <table border="1"> <tr> <td>Selected cause</td> <td>With mention of:</td> <td>As cause of:</td> <td>Resulting linked code</td> </tr> <tr> <td>F10.-</td> <td>...</td> <td></td> <td>...</td> </tr> <tr> <td></td> <td>K74.6</td> <td></td> <td>K70.3</td> </tr> <tr> <td></td> <td>K75.9</td> <td></td> <td>K70.1</td> </tr> <tr> <td></td> <td>K76.0</td> <td></td> <td>K70.0</td> </tr> <tr> <td></td> <td>K76.9</td> <td></td> <td>K70.9</td> </tr> <tr> <td></td> <td>K85.2</td> <td></td> <td>K85.2</td> </tr> <tr> <td></td> <td>K86.0</td> <td></td> <td>K86.0</td> </tr> <tr> <td></td> <td>O35.4</td> <td></td> <td>O35.4</td> </tr> <tr> <td>F10.2</td> <td>F10.4, F10.6, F10.7</td> <td></td> <td>F10.4, F10.6, F10.7</td> </tr> <tr> <td>...</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td><u>K85.9</u></td> <td><u>F10.-</u></td> <td></td> <td><u>K85.2</u></td> </tr> </table>	Selected cause	With mention of:	As cause of:	Resulting linked code	F10.-	...		...		K74.6		K70.3		K75.9		K70.1		K76.0		K70.0		K76.9		K70.9		K85.2		K85.2		K86.0		K86.0		O35.4		O35.4	F10.2	F10.4, F10.6, F10.7		F10.4, F10.6, F10.7	...				<u>K85.9</u>	<u>F10.-</u>		<u>K85.2</u>
第 1 欄 選ばれた原因 Selected-	第 2 欄 付記された病態 With mention-	第 3 欄 引き起こされ た病態 As cause of	第 4 欄 連鎖コード Resulting link-																																																																												
J81																																																																															
M41.-																																																																															
第 1 欄 選ばれた原因 Selected-	第 2 欄 付記された病態 With mention-	第 3 欄 引き起こされ た病態 As cause of	第 4 欄 連鎖コード Resulting link-																																																																												
J81																																																																															
<u>K85.9</u>			<u>K85.2</u>																																																																												
M41.-																																																																															
Selected cause	With mention of:	As cause of:	Resulting linked code																																																																												
F10.-	...		...																																																																												
	K74.6		K70.3																																																																												
	K75.9		K70.1																																																																												
	K76.0		K70.0																																																																												
	K76.9		K70.9																																																																												
	K85.2		K85.2																																																																												
	K86.0		K86.0																																																																												
	O35.4		O35.4																																																																												
F10.2	F10.4, F10.6, F10.7		F10.4, F10.6, F10.7																																																																												
...																																																																															
<u>K85.9</u>	<u>F10.-</u>		<u>K85.2</u>																																																																												
44	<table border="1"> <tr> <td>第 1 欄 選ばれた原因 Selected-</td> <td>第 2 欄 付記された病態 With mention-</td> <td>第 3 欄 引き起こされ た病態 As cause of</td> <td>第 4 欄 連鎖コード Resulting link-</td> </tr> <tr> <td>O64.-</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>S06.-</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </table>	第 1 欄 選ばれた原因 Selected-	第 2 欄 付記された病態 With mention-	第 3 欄 引き起こされ た病態 As cause of	第 4 欄 連鎖コード Resulting link-	O64.-				S06.-				<table border="1"> <tr> <td>第 1 欄 選ばれた原因 Selected-</td> <td>第 2 欄 付記された病態 With mention-</td> <td>第 3 欄 引き起こされ た病態 As cause of</td> <td>第 4 欄 連鎖コード Resulting link-</td> </tr> <tr> <td>O64.-</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>R57.2</td> <td>A00 - B99</td> <td></td> <td>A00 - B99</td> </tr> <tr> <td>R65.0-.1</td> <td>A00 - B99</td> <td></td> <td>A00 - B99</td> </tr> <tr> <td>S06.-</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </table>	第 1 欄 選ばれた原因 Selected-	第 2 欄 付記された病態 With mention-	第 3 欄 引き起こされ た病態 As cause of	第 4 欄 連鎖コード Resulting link-	O64.-				R57.2	A00 - B99		A00 - B99	R65.0-.1	A00 - B99		A00 - B99	S06.-				<p><b>4.1.12 Summary of linkages by code number</b></p> <p><i>Table 1. Summary of linkages by code number</i></p> <table border="1"> <tr> <td>Selected cause</td> <td>With mention of:</td> <td>As cause of:</td> <td>Resulting linked code</td> </tr> <tr> <td><b>O64</b></td> <td><b>O65.-</b></td> <td></td> <td><b>O65.-</b></td> </tr> <tr> <td><u>R57.2</u></td> <td><u>A00-B99</u></td> <td></td> <td><u>A00-B99</u></td> </tr> <tr> <td><u>R65.0-.1</u></td> <td><u>A00-B99</u></td> <td></td> <td><u>A00-B99</u></td> </tr> <tr> <td>S06.-</td> <td>S02.-</td> <td></td> <td>S02.-</td> </tr> </table>	Selected cause	With mention of:	As cause of:	Resulting linked code	<b>O64</b>	<b>O65.-</b>		<b>O65.-</b>	<u>R57.2</u>	<u>A00-B99</u>		<u>A00-B99</u>	<u>R65.0-.1</u>	<u>A00-B99</u>		<u>A00-B99</u>	S06.-	S02.-		S02.-																								
第 1 欄 選ばれた原因 Selected-	第 2 欄 付記された病態 With mention-	第 3 欄 引き起こされ た病態 As cause of	第 4 欄 連鎖コード Resulting link-																																																																												
O64.-																																																																															
S06.-																																																																															
第 1 欄 選ばれた原因 Selected-	第 2 欄 付記された病態 With mention-	第 3 欄 引き起こされ た病態 As cause of	第 4 欄 連鎖コード Resulting link-																																																																												
O64.-																																																																															
R57.2	A00 - B99		A00 - B99																																																																												
R65.0-.1	A00 - B99		A00 - B99																																																																												
S06.-																																																																															
Selected cause	With mention of:	As cause of:	Resulting linked code																																																																												
<b>O64</b>	<b>O65.-</b>		<b>O65.-</b>																																																																												
<u>R57.2</u>	<u>A00-B99</u>		<u>A00-B99</u>																																																																												
<u>R65.0-.1</u>	<u>A00-B99</u>		<u>A00-B99</u>																																																																												
S06.-	S02.-		S02.-																																																																												
45	<p><b>4.1.12 コード番号による連鎖表</b></p> <p>表 2. 死亡コーディングには使用されないコードの表 (注)</p> <table border="1"> <tr> <td>原死因コーディングには使用されないコード (括弧内の項目にコードする; もし、コードが示されていないならば、R99 にコードする)</td> <td>原死因がわかっているならば使用されないコード</td> </tr> <tr> <td>...</td> <td>F01 - F09</td> </tr> <tr> <td>B95 - B97</td> <td>F70 - F79</td> </tr> <tr> <td>E89.-</td> <td>G81.-</td> </tr> <tr> <td>F10.0 (X45, X65, X85, または Y15 にコードする)</td> <td>G82.-</td> </tr> <tr> <td>...</td> <td>H54.-</td> </tr> <tr> <td></td> <td>H90 - H91</td> </tr> <tr> <td></td> <td>N46</td> </tr> <tr> <td></td> <td>...</td> </tr> </table>	原死因コーディングには使用されないコード (括弧内の項目にコードする; もし、コードが示されていないならば、R99 にコードする)	原死因がわかっているならば使用されないコード	...	F01 - F09	B95 - B97	F70 - F79	E89.-	G81.-	F10.0 (X45, X65, X85, または Y15 にコードする)	G82.-	...	H54.-		H90 - H91		N46		...	<p><b>4.1.12 コード番号による連鎖表</b></p> <p>表 2. 死亡コーディングには使用されないコードの表 (注)</p> <table border="1"> <tr> <td>原死因コーディングには使用されないコード (括弧内の項目にコードする; もし、コードが示されていないならば、R99 にコードする)</td> <td>原死因がわかっているならば使用されないコード</td> </tr> <tr> <td>B95 - B97</td> <td><del>F03F04</del> - F09</td> </tr> <tr> <td><u>C97</u></td> <td>F70 - F79</td> </tr> <tr> <td>E89.-</td> <td>G81.-</td> </tr> <tr> <td>F10.0 (X45, X65, X85, または Y15 にコードする)</td> <td>G82.-</td> </tr> <tr> <td></td> <td>H54.-</td> </tr> <tr> <td></td> <td>H90 - H91</td> </tr> <tr> <td></td> <td>N46</td> </tr> <tr> <td></td> <td>...</td> </tr> </table>	原死因コーディングには使用されないコード (括弧内の項目にコードする; もし、コードが示されていないならば、R99 にコードする)	原死因がわかっているならば使用されないコード	B95 - B97	<del>F03F04</del> - F09	<u>C97</u>	F70 - F79	E89.-	G81.-	F10.0 (X45, X65, X85, または Y15 にコードする)	G82.-		H54.-		H90 - H91		N46		...	<p><b>4.1.12 Summary of linkages by code number</b></p> <p><i>Table 2. Summary of codes not to be used in underlying cause mortality coding<sup>a</sup></i></p> <table border="1"> <tr> <td>Codes not to be used for underlying cause mortality coding (code to item in parentheses; if no code is indicated, code to <b>R99</b>)</td> <td>Not to be used if the underlying cause is known</td> </tr> <tr> <td>B95-B97</td> <td><u>F03</u>-F09</td> </tr> <tr> <td><u>C97</u></td> <td>F70-F79</td> </tr> <tr> <td>E89.-</td> <td>G81.-</td> </tr> <tr> <td>F10.0 (code to X45, X65, X85, or Y15)</td> <td>G82.-</td> </tr> <tr> <td>F11.0 (code to X42, X62, X85, or Y12)</td> <td></td> </tr> </table>	Codes not to be used for underlying cause mortality coding (code to item in parentheses; if no code is indicated, code to <b>R99</b> )	Not to be used if the underlying cause is known	B95-B97	<u>F03</u> -F09	<u>C97</u>	F70-F79	E89.-	G81.-	F10.0 (code to X45, X65, X85, or Y15)	G82.-	F11.0 (code to X42, X62, X85, or Y12)																													
原死因コーディングには使用されないコード (括弧内の項目にコードする; もし、コードが示されていないならば、R99 にコードする)	原死因がわかっているならば使用されないコード																																																																														
...	F01 - F09																																																																														
B95 - B97	F70 - F79																																																																														
E89.-	G81.-																																																																														
F10.0 (X45, X65, X85, または Y15 にコードする)	G82.-																																																																														
...	H54.-																																																																														
	H90 - H91																																																																														
	N46																																																																														
	...																																																																														
原死因コーディングには使用されないコード (括弧内の項目にコードする; もし、コードが示されていないならば、R99 にコードする)	原死因がわかっているならば使用されないコード																																																																														
B95 - B97	<del>F03F04</del> - F09																																																																														
<u>C97</u>	F70 - F79																																																																														
E89.-	G81.-																																																																														
F10.0 (X45, X65, X85, または Y15 にコードする)	G82.-																																																																														
	H54.-																																																																														
	H90 - H91																																																																														
	N46																																																																														
	...																																																																														
Codes not to be used for underlying cause mortality coding (code to item in parentheses; if no code is indicated, code to <b>R99</b> )	Not to be used if the underlying cause is known																																																																														
B95-B97	<u>F03</u> -F09																																																																														
<u>C97</u>	F70-F79																																																																														
E89.-	G81.-																																																																														
F10.0 (code to X45, X65, X85, or Y15)	G82.-																																																																														
F11.0 (code to X42, X62, X85, or Y12)																																																																															

No.	現行	改正案	WHO勧告 (原文)																																																												
46	<table border="1"> <tr> <td>原死因コーディングには使用されないコード (括弧内の項目にコードする; もし, コードが示されていないならば, R99 にコードする)</td> <td>原死因がわかっていれれば使用されないコード</td> </tr> <tr> <td>...</td> <td>F01-F09</td> </tr> <tr> <td>I15</td> <td>F70-F79</td> </tr> <tr> <td>I23.- (I21 または I22 にコードする)</td> <td>G81.-</td> </tr> <tr> <td>I24.0 (I21 または I22 にコードする)</td> <td>G82.-</td> </tr> <tr> <td>I65.- (I63 にコードする)</td> <td>H54.-</td> </tr> <tr> <td>...</td> <td>H90-H91</td> </tr> <tr> <td></td> <td>N46</td> </tr> <tr> <td></td> <td>...</td> </tr> </table>	原死因コーディングには使用されないコード (括弧内の項目にコードする; もし, コードが示されていないならば, R99 にコードする)	原死因がわかっていれれば使用されないコード	...	F01-F09	I15	F70-F79	I23.- (I21 または I22 にコードする)	G81.-	I24.0 (I21 または I22 にコードする)	G82.-	I65.- (I63 にコードする)	H54.-	...	H90-H91		N46		...	<table border="1"> <tr> <td>原死因コーディングには使用されないコード (括弧内の項目にコードする; もし, コードが示されていないならば, R99 にコードする)</td> <td>原死因がわかっていれれば使用されないコード</td> </tr> <tr> <td>...</td> <td>F01-F09</td> </tr> <tr> <td><del>I15</del></td> <td>F70-F79</td> </tr> <tr> <td>I23.- (I21 または I22 にコードする)</td> <td>G81.-</td> </tr> <tr> <td>I24.0 (I21 または I22 にコードする)</td> <td>G82.-</td> </tr> <tr> <td><u>I25.2</u> (I25.8 にコードする)</td> <td>H54.-</td> </tr> <tr> <td>I65.- (I63 にコードする)</td> <td>H90-H91</td> </tr> <tr> <td>...</td> <td><u>I15.0</u></td> </tr> <tr> <td></td> <td>N46</td> </tr> <tr> <td></td> <td>...</td> </tr> </table>	原死因コーディングには使用されないコード (括弧内の項目にコードする; もし, コードが示されていないならば, R99 にコードする)	原死因がわかっていれれば使用されないコード	...	F01-F09	<del>I15</del>	F70-F79	I23.- (I21 または I22 にコードする)	G81.-	I24.0 (I21 または I22 にコードする)	G82.-	<u>I25.2</u> (I25.8 にコードする)	H54.-	I65.- (I63 にコードする)	H90-H91	...	<u>I15.0</u>		N46		...	<p><b>4.1.12 Summary of linkages by code number</b></p> <p><b>Table 2. Summary of codes not to be used in underlying cause mortality coding<sup>a</sup></b></p> <table border="1"> <tr> <td>Codes not to be used for underlying cause mortality coding (code to item in parentheses; if no code is indicated, code to R99)</td> <td>Not to be used if the underlying cause is known</td> </tr> <tr> <td>...</td> <td>....</td> </tr> <tr> <td>H95.-</td> <td>G83.-</td> </tr> <tr> <td><del>I15.-</del></td> <td>H54</td> </tr> <tr> <td>I23.- (code to I21 or I22)</td> <td>H90-91</td> </tr> <tr> <td></td> <td><u>I15.-</u></td> </tr> <tr> <td>....</td> <td></td> </tr> <tr> <td>I23.- (code to I21 or I22)</td> <td>H90-H91</td> </tr> <tr> <td>I24.0 (code to I21 or I22)</td> <td>N46</td> </tr> <tr> <td><u>I25.2</u> (code to I25.8)</td> <td>N97.-</td> </tr> <tr> <td>I65.- (code to I63)</td> <td></td> </tr> </table>	Codes not to be used for underlying cause mortality coding (code to item in parentheses; if no code is indicated, code to R99)	Not to be used if the underlying cause is known	...	....	H95.-	G83.-	<del>I15.-</del>	H54	I23.- (code to I21 or I22)	H90-91		<u>I15.-</u>	....		I23.- (code to I21 or I22)	H90-H91	I24.0 (code to I21 or I22)	N46	<u>I25.2</u> (code to I25.8)	N97.-	I65.- (code to I63)	
原死因コーディングには使用されないコード (括弧内の項目にコードする; もし, コードが示されていないならば, R99 にコードする)	原死因がわかっていれれば使用されないコード																																																														
...	F01-F09																																																														
I15	F70-F79																																																														
I23.- (I21 または I22 にコードする)	G81.-																																																														
I24.0 (I21 または I22 にコードする)	G82.-																																																														
I65.- (I63 にコードする)	H54.-																																																														
...	H90-H91																																																														
	N46																																																														
	...																																																														
原死因コーディングには使用されないコード (括弧内の項目にコードする; もし, コードが示されていないならば, R99 にコードする)	原死因がわかっていれれば使用されないコード																																																														
...	F01-F09																																																														
<del>I15</del>	F70-F79																																																														
I23.- (I21 または I22 にコードする)	G81.-																																																														
I24.0 (I21 または I22 にコードする)	G82.-																																																														
<u>I25.2</u> (I25.8 にコードする)	H54.-																																																														
I65.- (I63 にコードする)	H90-H91																																																														
...	<u>I15.0</u>																																																														
	N46																																																														
	...																																																														
Codes not to be used for underlying cause mortality coding (code to item in parentheses; if no code is indicated, code to R99)	Not to be used if the underlying cause is known																																																														
...	....																																																														
H95.-	G83.-																																																														
<del>I15.-</del>	H54																																																														
I23.- (code to I21 or I22)	H90-91																																																														
	<u>I15.-</u>																																																														
....																																																															
I23.- (code to I21 or I22)	H90-H91																																																														
I24.0 (code to I21 or I22)	N46																																																														
<u>I25.2</u> (code to I25.8)	N97.-																																																														
I65.- (code to I63)																																																															
47	<table border="1"> <tr> <td>原死因コーディングには使用されないコード (括弧内の項目にコードする; もし, コードが示されていないならば, R99 にコードする)</td> <td>原死因がわかっていれれば使用されないコード</td> </tr> <tr> <td>...</td> <td>...</td> </tr> <tr> <td>P72.2-P74 (P96.9 にコードする)</td> <td></td> </tr> <tr> <td>R69.- (R95-R99 にコードする)</td> <td></td> </tr> <tr> <td>...</td> <td></td> </tr> </table>	原死因コーディングには使用されないコード (括弧内の項目にコードする; もし, コードが示されていないならば, R99 にコードする)	原死因がわかっていれれば使用されないコード	...	...	P72.2-P74 (P96.9 にコードする)		R69.- (R95-R99 にコードする)		...		<table border="1"> <tr> <td>原死因コーディングには使用されないコード (括弧内の項目にコードする; もし, コードが示されていないならば, R99 にコードする)</td> <td>原死因がわかっていれれば使用されないコード</td> </tr> <tr> <td>...</td> <td>...</td> </tr> <tr> <td>P72.2-P74 (P96.9 にコードする)</td> <td></td> </tr> <tr> <td><u>R57.2</u> (A41.9 にコードする)</td> <td></td> </tr> <tr> <td><u>R65.0-.1</u> (A41.9 にコードする)</td> <td></td> </tr> <tr> <td>R69.- (R95-R99 にコードする)</td> <td></td> </tr> <tr> <td>...</td> <td></td> </tr> </table>	原死因コーディングには使用されないコード (括弧内の項目にコードする; もし, コードが示されていないならば, R99 にコードする)	原死因がわかっていれれば使用されないコード	...	...	P72.2-P74 (P96.9 にコードする)		<u>R57.2</u> (A41.9 にコードする)		<u>R65.0-.1</u> (A41.9 にコードする)		R69.- (R95-R99 にコードする)		...		<p><b>4.1.12 Summary of linkages by code number</b></p> <p><b>Table 2. Summary of codes not to be used in underlying cause mortality coding</b></p> <p>...</p> <p><b>P72.2-P74</b> (code to <b>P96.9</b>)</p> <p><u>R57.2</u> (code to <b>A41.9</b>)</p> <p><u>R65.0-.1</u> (code to <b>A41.9</b>)</p> <p><b>R69.-</b> (code to <b>R95-R99</b>)</p>																																				
原死因コーディングには使用されないコード (括弧内の項目にコードする; もし, コードが示されていないならば, R99 にコードする)	原死因がわかっていれれば使用されないコード																																																														
...	...																																																														
P72.2-P74 (P96.9 にコードする)																																																															
R69.- (R95-R99 にコードする)																																																															
...																																																															
原死因コーディングには使用されないコード (括弧内の項目にコードする; もし, コードが示されていないならば, R99 にコードする)	原死因がわかっていれれば使用されないコード																																																														
...	...																																																														
P72.2-P74 (P96.9 にコードする)																																																															
<u>R57.2</u> (A41.9 にコードする)																																																															
<u>R65.0-.1</u> (A41.9 にコードする)																																																															
R69.- (R95-R99 にコードする)																																																															
...																																																															

4.2.2 節については、大幅な修正があったため、見え消しは省いている。

No.	現行	改正案	WHO勧告 (原文)
48	<p><b>4.2.2 「因果関係がほとんどない」の解釈</b></p> <p>「因果関係がほとんどない」という表現は、因果関係が存在するとは考えられないということを示すために、ICD第6回修正以来用い</p>	<p><b>4.2.2 死因統計の原死因の選定における認められる因果関係と認められない因果関係</b></p> <p>本節では、原死因を選ぶ際に、死因の因果関係が妥当なものとする</p>	<p><b>Note 4.2.2 Interpretation of “highly” improbable for implementation January 2010 (incorporates URC 0318, 1038, 1130 and 1238)</b></p> <p><b>4.2.2 Accepted and rejected sequences for the selection of underlying cause of death for mortality statistics</b></p>

No.	現行	改正案	WHO勧告 (原文)
	<p>られてきたものである。一般原則および選択ルールの適用にあたり、因果関係があるかどうか考える上での参考として、下記のような場合は「因果関係がほとんどない」とみなされるべきである。</p>	<p>でないものをリストにまとめた。このリストの目的は、可能な限り、最も有用な死因統計を可能にすることである<sup>1</sup>。したがって、因果関係が妥当かそうでないかの判断は、純粋に医学的な観点よりも公衆衛生の観点により強く反映されている場合がある。下記の指示は、それが医学的に正しいか否かにかかわらず適用されるものである。</p>	<p>This section lists sequences of causes of death that should be accepted or rejected when selecting the underlying cause of death. The purpose of these lists is to produce the most useful mortality statistics possible.<sup>2</sup> Thus, whether a sequence is listed as “rejected” or “accepted” may reflect interests of importance for public health rather than what is acceptable from a purely medical point of view. The following instructions always apply, therefore, whether the relationship is considered medically correct or not.</p>
49		<p>A. 認められない因果関係 一般原則および選択ルールの適用において、下記の因果関係は認められない。</p>	<p>(j) <i>Rejected sequences</i> When applying the General Principle and the selection rules, the following relationships should be rejected:</p>
50	<p>(a) あらゆる感染症は、ヒト免疫不全ウイルス [HIV] または AIDS のような免疫機能の障害「による」と考えてよい。</p> <p>(b) 感染症または寄生虫症 (A00 – B99) が、この章に記載されている以外の疾病「による」と記載されている場合：ただし、下記のものを除く：</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>- 感染性と推定される下痢および胃腸炎 (A09)</li> <li>- 敗血症 (A40 – A41)</li> <li>- 丹毒 (A46)</li> <li>- ガスえく壊疽 (A48.0)</li> <li>- バンサン&lt;Vincent&gt;口峡炎くアンギナ (A69.1)</li> <li>- 真菌症 (B35 – B49)</li> </ul> <p>は、他の疾病「による」と考えてよい</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>- あらゆる感染症は、化学物質 (化学療法) および放射線による免疫抑制「による」と考えてよい。</li> <li>- 悪性新生物「による」と記載されている A00 – B19 または B25 – B64 に分類される感染症はすべてこのように考えてよい。</li> <li>- 水痘および帯状疱疹感染症 (B01 – B02) は、糖尿病、結核およびリンパ増殖性新生物「による」と考えてよい；</li> </ul>	<p>(a) 感染症 下記の感染症は、ヒト免疫不全ウイルス [HIV]、悪性新生物または免疫機能を低下させる病態によると記載されている場合を除き、他の疾患または病態によるものとして受け入れられるべきでない：</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>- 腸チフスおよびパラチフス、その他のサルモネラ感染症、細菌性赤痢 (A01-A03)</li> <li>- 結核 (A15-A19)</li> </ul> <p>下記の感染症および寄生虫症は、他の疾患または病態によるものとして受け入れられるべきでない (HIV/AIDS、悪性新生物または免疫抑制の場合でも受け入れられるべきではない)：</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>- コレラ (A00)</li> <li>- ボツリズム&lt;ボツリヌス中毒&gt; (A05.1)</li> <li>- ペスト、野兔病&lt;ツラレミア&gt;、炭疽、ブルセラ症 (A20-A23)</li> <li>- レプトスピラ症 (A27)</li> <li>- 破傷風、ジフテリア、百日咳、猩紅熱、髄膜炎菌・疾患 (A33-A39)</li> <li>- オウム病クラミジアによる疾患 (A70)</li> <li>- リケッチア症 (A75-A79)</li> <li>- 急性灰白髄炎&lt;ポリオ&gt; (A80)</li> <li>- クロイツフェルト・ヤコブ病 (A81.0)</li> <li>- 亜急性硬化性全脳炎&lt;SSPE&gt; (A81.1)</li> <li>- 狂犬病、蚊媒介ウイルス (性) 脳炎、ダニ媒介ウイルス (性) 脳炎、詳細不明のウイルス (性) 脳炎 (A82-A86)</li> <li>- デング出血熱およびその他の蚊媒介ウイルス熱 (A91-A92)</li> <li>- 黄熱 (A95)</li> <li>- フニンおよびマチュポ出血熱、ラッサ熱 (A96.0-A96.2)</li> <li>- その他のウイルス性出血熱 (A98)</li> <li>- 痘瘡、サル痘、麻疹、風疹 (B03-B06)</li> <li>- 急性B型およびC型肝炎 (B16-B17.1)</li> <li>- ムンプス (B26)</li> </ul>	<p>(j) <i>Infectious diseases</i> The following infectious diseases should not be accepted as due to any other disease or condition, except when reported as due to human immunodeficiency virus [HIV] disease, malignant neoplasms and conditions impairing the immune system:</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>• typhoid and paratyphoid fevers, other salmonella infections, shigellosis (A01-A03)</li> <li>• tuberculosis (A15-A19)</li> </ul> <p>The following infectious and parasitic diseases should not be accepted as due to any other disease or condition (not even HIV/AIDS, malignant neoplasms or immunosuppression):</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>• cholera (A00)</li> <li>• botulism (A05.1)</li> <li>• plague, tularaemia, anthrax, brucellosis (A20-A23)</li> <li>• leptospirosis (A27)</li> <li>• tetanus, diphtheria, whooping cough, scarlet fever, meningococcal disease (A33-A39)</li> <li>• diseases due to Chlamydia psittaci (A70)</li> <li>• rickettsioses (A75-A79)</li> <li>• acute poliomyelitis (A80)</li> <li>• Creutzfeldt-Jakob disease (A81.0)</li> <li>• subacute sclerosing panencephalitis (A81.1)</li> <li>• rabies, mosquito-borne viral encephalitis, tick-borne viral encephalitis, unspecified viral encephalitis (A82-A86)</li> <li>• dengue haemorrhagic and other mosquito-borne viral fevers (A91-A92)</li> <li>• yellow fever (A95)</li> <li>• Junin and Machupo haemorrhagic fevers, Lassa fever (A96.0-A96.2)</li> <li>• other viral haemorrhagic fevers (A98)</li> <li>• smallpox, monkeypox, measles, rubella (B03-B06)</li> <li>• acute hepatitis B and C (B16-B17.1)</li> <li>• mumps (B26)</li> <li>• malaria, leishmaniasis, Chagas’ disease (B50-B57)</li> <li>• sequelae of tuberculosis (B90)</li> <li>• sequelae of poliomyelitis (B91)</li> <li>• sequelae of leprosy (B92)</li> <li>• sequelae of trachoma (B94.0)</li> <li>• sequelae of viral encephalitis (B94.1)</li> </ul>

1 以前の ICD では、選択ルールの適用において認められない因果関係を示すために「因果関係がほとんどない」という表現が使われていた。

2 The expression “highly improbable” was previously used in the ICD to indicate a causal relationship that was not to be accepted when applying the selection rules.



No.	現行	改正案	WHO勧告 (原文)
		<ul style="list-style-type: none"> <li>- マラリア、リーシュマニア症、シャガス病 (B50-B57)</li> <li>- 結核の続発・後遺症 (B90)</li> <li>- 灰白髄炎&lt;ポリオ&gt;の続発・後遺症 (B91)</li> <li>- ハンセン病の続発・後遺症 (B92)</li> <li>- トラコーマの続発・後遺症 (B94.0)</li> <li>- ウイルス (性) 脳炎の続発・後遺症 (B94.1)</li> <li>- ウイルス肝炎の続発・後遺症 (B94.2)</li> <li>- WHOへの報告対象となっているその他の新興疾患 (例: SARS、鳥インフルエンザウイルスによるインフルエンザ)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>• sequelae of viral hepatitis (B94.2)</li> <li>• other emerging diseases reportable to WHO (e.g., SARS, influenza due to avian influenza virus)</li> </ul>
51	(c) 悪性新生物が、何らかの疾病「による」と記載された場合、ただし、ヒト免疫不全ウイルス [HIV] 病は除く；	(b) 悪性新生物 悪性新生物は、何らかの疾病によるものとして受け入れられるべきでない。ただし、ヒト免疫不全ウイルス [HIV] 病は除く。	(b) Malignant neoplasms  A malignant neoplasm should not be accepted as due to any other disease, <i>except</i> human immunodeficiency virus (HIV) disease.
52	(d) 血友病 (D66, D67, D68.0-D68.2) が、その他の疾病「による」と記載された場合；	(c) 血友病 血友病 (D66, D67, D68.0-D68.2) は、その他の疾病によるものとして受け入れられるべきでない。	I Haemophilia  Haemophilia (D66, D67, D68.0-D68.2) should not be accepted as due to any other disease.
53	(e) 糖尿病 (E10-E14) が、他の疾病「による」と記載された場合、ただし、下記のもの除く； <ul style="list-style-type: none"> <li>- ヘモクロマトーシス (E83.1)</li> <li>- 膵疾患 (K85-K86)</li> <li>- 膵の新生物 (C25.-, D13.6, D13.7, D37.7)</li> <li>- 栄養失調 (症) (E40-E46)</li> </ul>	(d) 糖尿病 糖尿病 (E10-E14) は、他の疾病によるものとして受け入れられるべきでない。ただし、膵臓を損傷させる病態は除く。	(d) Diabetes  Diabetes (E10-E14) should not be accepted as due to any other disease <i>except</i> diseases causing damage to the pancreas.
54	(f) リウマチ熱 (I00-I02) またはリウマチ性心疾患 (I05-I09) が、猩紅熱 (A38)、レンサ球菌性敗血症 (A40.-)、レンサ球菌性咽頭炎 (J02.0) および急性扁桃炎 (J03.-) 以外の疾病「による」と記載された場合；	(e) リウマチ熱 リウマチ熱 (I00-I02) またはリウマチ性心疾患 (I05-I09) は、他の疾患によるものとして受け入れられるべきでない。ただし、下記のもの除く： <ul style="list-style-type: none"> <li>- 猩紅熱 (A38)</li> <li>- レンサ球菌性敗血症 (A40.-)</li> <li>- レンサ球菌性咽頭炎 (J02.0)</li> <li>- 急性扁桃炎 (J03.-)</li> </ul>	(e) Rheumatic fever  Rheumatic fever (I00-I02) or rheumatic heart disease (I05-I09) should not be accepted as due to any disease <i>except</i> :  <ul style="list-style-type: none"> <li>• scarlet fever (A38)</li> <li>• streptococcal sepsis (A40.0-)</li> <li>• streptococcal sore throat (J02.0)</li> <li>• acute tonsillitis (J03.-)</li> </ul>
55	(g) 高血圧性病態が、新生物「による」と記載された場合、ただし、下記のもの除く： <ul style="list-style-type: none"> <li>- 内分泌系の新生物</li> <li>- 腎の新生物</li> <li>- カルチノイド腫瘍：</li> </ul>	(f) 高血圧 高血圧性病態は、新生物によるものとして受け入れられるべきでない。ただし、下記のもの除く： <ul style="list-style-type: none"> <li>- 内分泌系の新生物</li> <li>- 腎の新生物</li> <li>- カルチノイド腫瘍</li> </ul>	(f) Hypertension  Hypertensive conditions should not be accepted as due to any neoplasm <i>except</i> :  <ul style="list-style-type: none"> <li>• endocrine neoplasms</li> <li>• renal neoplasms</li> <li>• carcinoid tumours</li> </ul>
56	(h) 慢性虚血性心疾患 (I20, I25) が、新生物「による」と記載された場合；	(g) 慢性虚血性心疾患 慢性虚血性心疾患 (I20, I25) は、新生物によるものとして受け入れられるべきでない。	(g) Chronic ischaemic heart disease  Chronic ischaemic heart disease (I20, I25) should not be accepted as due to any neoplasm.
57	(i)	(h) 脳血管疾患	(h) Cerebrovascular disease

No.	現行	改正案	WHO勧告 (原文)
	<p>(1) 脳血管疾患 (I60–I69)が、消化器系の疾患 (K00–K92) 「による」と記載された場合</p> <p>(2) 脳実質外動脈の血栓症による脳梗塞 (I63.0) 脳実質外動脈の詳細不明の閉塞による脳梗塞 (I63. 2) 脳動脈の血栓症による脳梗塞 (I63. 3) 脳動脈の詳細不明の閉塞による脳梗塞 (I63.5) 脳静脈血栓症による脳梗塞、非化膿性 (I63. 6) その他の脳梗塞 (I63.8) 脳梗塞、詳細不明 (I63.9) 出血または脳梗塞と明示されない脳卒中(I64) その他の脳血管疾患 (I67) 脳卒中の続発・後遺症、出血または梗塞と明示されないもの (I69.4) その他および詳細不明の脳血管疾患の続発・後遺症 (I69.8) それが心内膜炎「による」と記載された場合 (I05–I08、I09.1、I33–I38)</p> <p>(3) 脳実質外動脈の閉塞および狭窄、脳梗塞に至らなかったもの (I65)。ただし、塞栓症を除く。 脳動脈の閉塞ならびに狭窄、脳梗塞に至らなかったもの (I66)。ただし、塞栓症を除く。 脳梗塞の続発・後遺症 (I69.3)。ただし、塞栓症を除く それが心内膜炎「による」と記載された場合 (I05–I08、I09.1、I33–I38)</p>	<p>(1) 脳血管疾患 (I60–I69)は、消化器系の疾患 (K00–K92) によるものとして受け入れられるべきでない。ただし、肝疾患 (K70–K76) による脳内出血 (I61.-) は除く。</p> <p>(2) 脳梗塞および心内膜炎 下記の脳血管の病態は、心内膜炎によるものとして受け入れられるべきでない (I05–I08、I09.1、I33–I38) :</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>- 脳実質外動脈の血栓症による脳梗塞 (I63.0)</li> <li>- 脳実質外動脈の詳細不明の閉塞による脳梗塞 (I63. 2)</li> <li>- 脳動脈の血栓症による脳梗塞 (I63. 3)</li> <li>- 脳動脈の詳細不明の閉塞による脳梗塞 (I63.5)</li> <li>- 脳静脈血栓症による脳梗塞、非化膿性 (I63. 6)</li> <li>- その他の脳梗塞 (I63.8)</li> <li>- 脳梗塞、詳細不明 (I63.9)</li> <li>- 出血または脳梗塞と明示されない脳卒中(I64)</li> <li>- その他の脳血管疾患 (I67)</li> <li>- 脳卒中の続発・後遺症、出血または梗塞と明示されないもの (I69.4)</li> <li>- その他および詳細不明の脳血管疾患の続発・後遺症 (I69.8)</li> <li>- 脳実質外動脈の閉塞および狭窄、脳梗塞に至らなかったもの (I65)。ただし、塞栓症を除く。</li> <li>- 脳動脈の閉塞ならびに狭窄、脳梗塞に至らなかったもの (I66)。ただし、塞栓症を除く。</li> <li>- 脳梗塞の続発・後遺症 (I69.3)。ただし、塞栓症を除く。</li> </ul>	<p>(1) Cerebrovascular disease and diseases of the digestive system</p> <p>Cerebrovascular diseases (I60-I69) should not be accepted as due to a disease of the digestive system (K00-K92), <i>except</i> cerebral haemorrhage (I61.-) due to diseases of liver (K70-K76).</p> <p>(2) Cerebral infarction and endocarditis</p> <p>The following cerebrovascular conditions should not be accepted as due to endocarditis (I05-I08, I09.1, I33-I38):</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>• cerebral infarction due to thrombosis of precerebral arteries (I63.0)</li> <li>• cerebral infarction due to unspecified occlusion of precerebral arteries (I63.2)</li> <li>• cerebral infarction due to thrombosis of cerebral arteries (I63.3)</li> <li>• cerebral infarction due to unspecified occlusion of cerebral arteries (I63.5)</li> <li>• cerebral infarction due to cerebral venous thrombosis, nonpyogenic (I63.6)</li> <li>• other cerebral infarction (I63.8)</li> <li>• cerebral infarction, unspecified (I63.9)</li> <li>• stroke, not specified as haemorrhage or infarction (I64)</li> <li>• other cerebrovascular diseases (I67)</li> <li>• sequelae of stroke, not specified as haemorrhage or infarction (I69.4)</li> <li>• sequelae of other and unspecified cerebrovascular diseases (I69.8)</li> <li>• occlusion and stenosis of precerebral arteries, not resulting in cerebral infarction (I65), <i>except</i> embolism</li> <li>• occlusion and stenosis of cerebral arteries, not resulting in cerebral infarction (I66), <i>except</i> embolism</li> <li>• sequelae of cerebral infarction (I69.3), <i>except</i> embolism</li> </ul>
58	(j) 動脈硬化性 [アテローム<じゅく<粥>状>動脈硬化性] と記載された病態が、新生物「による」と記載された場合；	(i) 動脈硬化 動脈硬化性 [アテローム<じゅく<粥>状>動脈硬化性] と記載された病態は、新生物によるものとして受け入れられるべきでない。	(i) Atherosclerosis
59	(k) インフルエンザ (J10–J11) が、その他の疾病「による」と記載された場合；	(j)インフルエンザ インフルエンザ (J09–J11) は、その他の疾病によるものとして受け入れられるべきでない。	(j) Influenza
60	(l) 先天奇形、変形および染色体異常 (Q00–Q99) が、その他の疾病「による」と記載された場合。ただし、下記のものを除く；	(k) 先天奇形 先天奇形 (Q00–Q99) は、未熟を含むその他の疾病によるものとして受け入れられるべきでない。ただし、下記のものを除く；	(k) Congenital anomalies
61	(m) カレンダー上、発病日「X」のあとの発病日「Y」のとき、発病日が「X」に生じた疾病が、発病日が「Y」である疾病「による」と記載された場合； (ただし、4.1.6の例5を参照のこと)	(l) 期間の齟齬 カレンダー上、発病日「X」のあとの発病日「Y」のとき、発病日が「X」に生じた疾病は、発病日が「Y」である疾病によるものとして受け入れられるべきでない (ただし、4.1.6節の例5を参	(l) Conflicting durations

No.	現行	改正案	WHO勧告 (原文)
		照のこと)。	
62	<p>(n) 事故 (V01-X59) であると記載されたものが、この章以外のその他の原因「による」と記載されていた場合、ただし、下記のものとは除く；</p> <p>(1) 事故 (V01-X59) が、てんかん (G40-G41) によると記載された場合</p> <p>(2) 転倒・転落 (W00-W19) が、骨密度の障害 (M80-M85) による場合</p> <p>(3) 転倒・転落 (W00-W19) が、骨密度の障害による (病的) 骨折による場合</p> <p>(4) 窒息が、病態の結果として粘液、血液 (W80) または吐物 (W78) の誤嚥によると記載された場合</p> <p>(5) 何らかの食物 (液体あるいは固形物) の誤嚥 (W79) が、嚥下機能に影響をおよぼす疾病によると記載された場合；</p>	<p>(m) 事故</p> <p>事故 (V01-X59) は、この章以外のその他の原因によるものとして受け入れられるべきでない。ただし、下記のものとは除く：</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>- 事故 (V01-X59) は、てんかん (G40-G41) によるものとして受け入れられるべきである</li> <li>- 転倒・転落 (W00-W19) は、骨密度の障害 (M80-M85) によるものとして受け入れられるべきである</li> <li>- 転倒・転落 (W00-W19) は、骨密度の障害による (病的) 骨折によるものとして受け入れられるべきである</li> <li>- 窒息は、病態の結果として粘液、血液 (W80) または吐物 (W78) の誤嚥によるものとして受け入れられるべきである</li> <li>- 何らかの食物 (液体あるいは固形物) の誤嚥 (W79) は、嚥下機能に影響をおよぼす疾病によるものとして受け入れられるべきである</li> </ul>	<p>(m) Accidents</p> <p>Accidents (V01-X59) should not be accepted as due to any other cause outside this chapter, <i>except</i>:</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>• any accident (V01-X59) should be accepted as due to epilepsy (G40-G41)</li> <li>• a fall (W00-W19) should be accepted as due to a disorder of bone density (M80-M85)</li> <li>• a fall (W00-W19) should be accepted as due to a (pathological) fracture caused by a disorder of bone density</li> <li>• asphyxia caused by aspiration of mucus, blood (W80) or vomitus (W78) should be accepted as due to disease conditions</li> <li>• aspiration of food (liquid or solid) of any kind (W79) should be accepted as due to a disease which affects the ability to swallow</li> </ul>
63	<p>(o) 自殺 (X60-X84) が、その他の原因「による」と記載された場合。</p> <p>上記のリストは、「因果関係がほとんどない」一連のすべてを示すものではないが、他に指示されている場合でなければ、その他の症例では一般原則を適用すべきものである。</p>	<p>(n) 自殺</p> <p>自殺 (X60-X84) は、その他の原因によるものとして受け入れられるべきでない。</p> <p>上記のリストは、認められない因果関係のすべてを示すものではないが、他に指示されている場合でなければ、その他の症例では一般原則を適用すべきものである。</p>	<p>(n) Suicide</p> <p>Suicide (X60-X84) should not be accepted as due to any other cause.</p> <p>The above list does not cover all sequences that should be rejected, but in other cases, the General Principle should be followed unless otherwise indicated.</p>
64		<p>B. 妥当と認められる因果関係</p> <p>一般原則および選択ルールの適用において、下記の因果関係は妥当なものとして受け入れられるべきである。</p> <p>(a) 感染症</p> <p>4.2.2 A.(a)に記載されている以外の感染症は、他の病態によるものとして受け入れられるべきである。</p> <p>(b) HIVによる感染症</p> <p>下記の感染症は、ヒト免疫不全ウイルス [HIV] 病、悪性新生物または免疫機能を低下させる病態によるものとして受け入れられるべきである：</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>- 腸チフスおよびパラチフス、その他のサルモネラ感染症、細菌性赤痢 (A01-A03)</li> <li>- 結核 (A15-A19)</li> </ul> <p>(c) 悪性腫瘍およびHIV</p> <p>悪性新生物は、ヒト免疫不全ウイルス [HIV] 病によるものとして受け入れられるべきである。</p> <p>(d) 糖尿病</p>	<p>B. <i>Acceptable sequences</i></p> <p>When applying the General Principle and the selection rules, the following relationships should be accepted:</p> <p>(j) Infectious diseases due to other conditions</p> <p>Infectious diseases other than those noted in 4.2.2 A.(a) should be accepted as due to other conditions.</p> <p>(b) Infectious diseases due to HIV</p> <p>The following infectious diseases should be accepted as due to human immunodeficiency virus [HIV] disease, malignant neoplasms and conditions impairing the immune system:</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>• typhoid and paratyphoid fevers, other salmonella infections, shigellosis (A01-A03)</li> <li>• tuberculosis (A15-A19)</li> </ul> <p>I Malignancies and HIV</p> <p>A malignant neoplasm should be accepted as due to human immunodeficiency virus (HIV) disease.</p>



No.	現行	改正案	WHO勧告（原文）
		<p>糖尿病（E10－E14）は、膵臓を損傷させる病態によるものとして受け入れられるべきである。</p> <p>糖尿病を引き起こす可能性のある病態のリストについては、付録10.2参照。</p> <p>(e) リウマチ熱  リウマチ熱（I00-I02）またはリウマチ性心疾患（I05－I09）は、下記によるものとして受け入れられるべきである：  - 猩紅熱（A38）  - レンサ球菌性敗血症（A40.-）  - レンサ球菌性咽頭炎（J02.0）  - 急性扁桃炎（J03.-）</p> <p>(f) 高血圧  高血圧性病態は、下記によるものとして受け入れられるべきである。  - 内分泌系の新生物  - 腎の新生物  - カルチノイド腫瘍</p> <p>(g) 脳血管疾患  - 脳内出血（I61.-）は、肝疾患（K70－K76）によるものとして受け入れられるべきである。</p> <p>塞栓症を原因として、下記が生じた場合は、心内膜炎によるものとして受け入れられるべきである（I05－I08、I09.1、I33－I38）：  - 脳実質外動脈の閉塞および狭窄（I65）  - 脳動脈の閉塞ならびに狭窄（I66）  - 脳梗塞の続発・後遺症（I69.3）</p> <p>(h) 先天奇形  - 先天奇形は、染色体異常または先天奇形症候群によるものとして受け入れられるべきである  - 肺低形成は、先天奇形によるものとして受け入れられるべきである</p> <p>(i) 事故  - 事故（V01－X59）は、てんかん（G40－G41）によるものとして受け入れられるべきである  - 転倒・転落（W00－W19）は、骨密度の障害（M80－M85）によるものとして受け入れられるべきである  - 転倒・転落（W00－W19）は、骨密度の障害による（病的）骨折によるものとして受け入れられるべきである  - 窒息は、病態の結果として粘液、血液（W80）または吐物</p>	<p>(d) Diabetes  Diabetes (E10-E14) should be accepted as due to diseases causing damage to the pancreas.  See Appendix 7.2 for a list of the conditions that can cause diabetes.</p> <p>(e) Rheumatic fever  Rheumatic fever (I00-I02) or rheumatic heart disease (I05-I09) should be accepted as due to  <ul style="list-style-type: none"> <li>• scarlet fever (A38)</li> <li>• streptococcal sepsis (A40.0-)</li> <li>• streptococcal sore throat (J02.0)</li> <li>• acute tonsillitis (J03.-)</li> </ul> </p> <p>(f) Hypertension  Any hypertensive condition should be accepted as due to:  <ul style="list-style-type: none"> <li>• endocrine neoplasms</li> <li>• renal neoplasms</li> <li>• carcinoid tumours</li> </ul> </p> <p>(g) Cerebrovascular diseases  <ul style="list-style-type: none"> <li>• cerebral haemorrhage (I61.-) should be accepted as due to diseases of liver (K70-K76)</li> </ul> Embolism causing:  <ul style="list-style-type: none"> <li>• occlusion and stenosis of precerebral arteries (I65)</li> <li>• occlusion and stenosis of cerebral arteries (I66)</li> <li>• sequelae of cerebral infarction (I69.3)</li> </ul> <p style="text-align: right;">should be accepted as due to endocarditis (I05-I08, I09.1, I33-I38).</p> <p>(h) Congenital anomalies  <ul style="list-style-type: none"> <li>• a congenital anomaly should be accepted as due to a chromosome abnormality or a congenital malformation syndrome</li> <li>• pulmonary hypoplasia should be accepted as due to a congenital anomaly</li> </ul> </p> <p>(j) Accidents  <ul style="list-style-type: none"> <li>• any accident (V01-X59) should be accepted as due to epilepsy (G40-G41)</li> <li>• a fall (W00-W19) should be accepted as due to a disorder of bone density (M80-M85)</li> <li>• a fall (W00-W19) should be accepted as due to a (pathological) fracture caused by a disorder of bone density</li> <li>• asphyxia caused by aspiration of mucus, blood (W80) or vomitus (W78) should be accepted as due to disease conditions,</li> <li>• aspiration of food (liquid or solid) of any kind (W79) should be accepted as due to a disease which affects the ability to swallow;</li> </ul> </p></p>



No.	現行	改正案	WHO勧告 (原文)
		(W78) の誤嚥によるものとして受け入れられるべきである - 何らかの食物 (液体あるいは固形物) の誤嚥 (W79) は、嚥下機能に影響をおよぼす疾病によるものとして受け入れられるべきである	

No.	現行	改正案	WHO勧告 (原文)
65	<p><b>4.2.6 手術</b></p> <p>ある手術が、手術が行われた病態の記載または手術時の所見の記載がなく、死因として死亡診断書に記載され、索引表がその手術に対して特定のコードを指示していないならば、手術名により示される臓器または部位についての残余の分類項目にコードする (たとえば、「腎切除術」は N28.9 にコードする)。もし、手術名が臓器または部位を示していないならば (たとえば「開腹術」)、また Y60-Y84 に分類される医療過誤の記載または術後合併症の記載もなければ、「その他の診断名不明確および原因不明の死亡」 (R99) にコードする。もし、手術中の医療事故と記載があれば、Y60-Y69 にコードする。もし、手術中の医療事故という記載がなく、患者の異常な反応と記載があれば、Y83-Y84 にコードする。</p>	<p><b>4.2.6 手術</b></p> <p>ある手術が、手術が行われた病態の記載または手術時の所見の記載がなく、死因として死亡診断書に記載され、索引表がその手術に対して特定のコードを指示していないならば、手術名により示される臓器または部位についての残余の分類項目にコードする (たとえば、「腎切除術」は N28.9 にコードする)。もし、手術名が臓器または部位を示していないならば (たとえば「開腹術」)、また O74、O75.4 または Y60-Y84 に分類される医療過誤の記載または術後合併症の記載もなければ、「その他の診断名不明確および原因不明の死亡」 (R99) にコードする。もし、手術中の医療事故と記載があれば、O74、O75.4 または Y60-Y69 にコードする。もし、手術中の医療事故という記載がなく、患者の異常な反応と記載があれば、O74、O75.4 または Y83-Y84 にコードする。</p> <p><u>処置による合併症が索引にないか、包含用語または索引用語の同義語でない場合は常に、早期合併症および機械的合併症を T80-T88 にコードする。後期合併症および機能的合併症は、適切な章にコードする。</u></p>	<p><b>4.2.6 Operations</b></p> <p>If an operation appears ... unless there is a mention of a therapeutic misadventure classifiable to <u>O74, O75.4</u> or <u>Y60-Y84</u> or a postoperative complication. ... If there is a mention of a misadventure at the time of the procedure, code to <u>O74, O75.4</u> or <u>Y60-Y69</u>. If there is a mention of an abnormal reaction of the patient, without mention of misadventure at the time of the procedure, code to <u>O74, O75.4</u> or <u>Y83-Y84</u>.</p> <p><u>Whenever a complication of a procedure is not indexed or is not a synonym of an inclusion or indexed term, code early complications and mechanical complications to <b>T80-T88</b>. Code late complications and functional complications to the appropriate system chapter.</u></p>
66	<p><b>4.2.6 手術</b></p> <p>...</p> <p>もし、手術中の医療事故という記載がなく、患者の異常な反応と記載があれば、Y83-Y84 にコードする。</p>	<p><b>4.2.6 手術</b></p> <p>...</p> <p>もし、手術中の医療事故という記載がなく、患者の異常な反応と記載があれば、Y83-Y84 にコードする。</p> <p><u>例 1 : I (a) 肺塞栓症</u> <u>(b) 虫垂切除術</u> <u>虫垂の疾患, 詳細不明 (K38.9) にコードする。</u></p> <p><u>例 2 : I (a) 大動脈の不慮の穿刺</u> <u>(b) 開腹術</u> <u>外科手術における意図しない穿刺 (Y60.) にコードする。</u> <u>産科手術の合併症は、外科手術の理由にコードする。産科手術の理由が記載されていない場合は、O75.4 にコードする。</u></p> <p><u>例 3 : I (a) 術後出血</u></p>	<p><b>4.2.6 Operations</b></p> <p>If an operation appears on the certificate as the cause of death without mention of the condition for which it was performed or of the findings at operation, and the alphabetical index does not provide a specific code for the operation, code to the residual category for the organ or site indicated by the name of the operation (e.g. code “nephrectomy” to N28.9). If the operation does not indicate an organ or site, e.g. “laparotomy”, code to “Other ill-defined and unspecified causes of mortality” (R99), unless there is a mention of a therapeutic misadventure classifiable to Y60-Y84 or a postoperative complication. If there is mention of a misadventure at the time of the procedure, code to Y60-Y69. If there is a mention of an abnormal reaction of the patient, without mention of misadventure at the time of the procedure, code to Y83-Y84.</p> <p><u>Example: I (a) Pulmonary embolism</u> <u>(b) Appendectomy</u> <u>Code to unspecified disease of appendix (K38.9)</u></p> <p><u>Example: I (a) Accidental puncture of aorta</u> <u>(b) Laparotomy</u> <u>Code to unintentional puncture during surgical operation (Y60.)</u></p> <p><u>Code complications of obstetrical surgery to the reason for the surgery. If no reason for the obstetrical surgery is stated, code to O75.4.</u></p>

No.	現行	改正案	WHO勧告 (原文)
		<p>(b) 帝王切開 (c) 遷延分娩 遷延分娩, 詳細不明 (O63.9) にコードする。</p> <p>例 4: I (a) 羊水塞栓症 (b) 帝王切開 産科手術および処置のその他の合併症 (O75.4) にコードする。</p>	<p>Example: I (a) Postoperative haemorrhage (b) Caesarean section (c) Prolonged labour Code to long labour, unspecified (O63.9)</p> <p>Example: I (a) Amniotic fluid embolism (b) Caesarean section Code to other complications of obstetric surgery and procedures (O75.4)</p>

※悪性新生物については、記載内容・順序修正が多く WHO 側で個々の見え消し版を作成していないため、現行版と併記するに止めた。

No.	現行	改正案	WHO勧告 (原文)
67	<p><b>4.2.7 悪性新生物</b></p> <p>悪性新生物が原死因と考えられる場合は、原発部位を決定することが最も重要である。形態および性状もまた考慮されなければならない。「がん」は包括的な用語で、あらゆる形態学的グループに用いられるが、リンパ組織、造血組織および関連組織の悪性新生物にはほとんど用いられない。「癌(腫)」は、時々「がん」の同義語として用いられるが、これは不正確である。死亡診断書のなかには、腫瘍の原発部位が疑わしかったのか、死亡診断書作成が不正確であったのかどうか、あいまいなものがある。このような場合には、できれば、死亡診断書作成者に照会して、明らかにしなくてはならない。これができなければ、下記のガイドラインを参照する。</p> <p>第2巻の1037-1070ページに分類されている腫瘍の形態は、形態コードおよび部位によるコーディングについての適用とともに、索引表の中に記載されている。</p>	<p><b>4.2.7 悪性新生物</b> <b>4.2.7.1 序</b></p> <p>悪性新生物のコーディングは、他の病態のコーディングと基本的に同じである。選択ルールおよび修正ルールは、通常通り悪性新生物について記載している死亡診断書に適用すべきで、すべての死因コーディングと同様に、コーディング担当者は死亡診断書に記載されたすべての情報を考慮に入れて ICD コードを割り当てなければならない。</p> <p>新生物については、性状、形態および部位に関する情報を考慮することが特に重要である。性状、形態および部位が医師によって十分に記載されている場合、コーディング担当者は用語の正しいコードを第3巻(索引表)の用語から容易に見つけることができる。しかし、死亡診断書に記載されている用語は必ずしも完全に十分に明確なわけではない。本節の指示は、そうした場合にコーディング担当者がコードを割り当てるのに役立つ。また、悪性新生物と記載している死亡診断書にも、他の原因による死亡の場合と同様に選択ルールおよび修正ルールが適用されるということも示している。</p> <p>(a) 性状、形態および部位</p> <p>新生物をコードする場合、性状、形態および部位をすべて考慮しなければならない。新生物の性状とは、体内でそれが活動する方法、すなわち腫瘍がどのように増殖する可能性があるかを示す。ICD の下記の分類では、性状を参照する:</p> <p>C00-C96 悪性(起点から周囲の組織に侵入するか、または広がり、別の部位で増殖し始める) D00-D09 上皮内(悪性であるが、起点となった組織にまだ限定している) D10-D36 良性(広がる可能性のない位置で増殖する) D37-D48 性状不詳または不明(良性か悪性がはっきりしない)</p>	<p><b>4.2.7 Malignant neoplasms</b> <b>4.2.7.1 Introduction</b></p> <p><u>Coding malignant neoplasms is no different from coding other conditions. The selection and modification rules should be applied as usual to death certificates mentioning malignant neoplasms, and as in all mortality coding, the coder has to take all information given on the Death Certificate into account when assigning ICD codes.</u></p> <p><u>For neoplasms, it is especially important to consider information on behaviour, morphology and site. When behaviour, morphology and site are well described by the physician, the coder will have no difficulty in finding the correct code for the term in Volume 3. However, the terms stated on the death certificate are not always complete or clear enough. These instructions will help coders to assign codes in such cases. They also show that the same selection and modification rules apply to death certificates mentioning malignant neoplasms as to deaths from other causes.</u></p> <p>(a) <u>Behaviour, morphology and site</u></p> <p><u>Behaviour, morphology and site must all be considered when coding neoplasms. The behaviour of a neoplasm is the way it acts within the body, i.e., how a tumour is likely to develop. The following ICD grouping refers to behaviour:</u></p> <p>C00-C96 Malignant (invades surrounding tissue or disseminates from its point of origin and begins to grow at another site) D00-D09 In situ (malignant but still confined to the tissue in which it originated) D10-D36 Benign (grows in place without the potential for spread) D37-D48 Uncertain or unknown behaviour (undetermined whether benign or malignant)</p> <p><u>Morphology describes the type and structure of cells or tissues and the behaviour of neoplasms. The ICD provides for classification of several large morphological groups including the following:</u></p> <p><u>Carcinomas, including squamous cell carcinoma and adenocarcinoma</u> <u>Sarcomas and other soft tissue tumours, including mesotheliomas</u> <u>Site-specific types that indicate the site of the primary neoplasm, such as hepatoma (C22.0)</u> <u>Lymphomas, including Hodgkin's lymphoma and non-Hodgkin's lymphoma</u></p>

No.	現行	改正案	WHO勧告(原文)
		<p>形態とは、細胞または組織の種類および構造、並びに新生物の性状を示す。ICD では、下記のものを含むいくつかの主要な形態学的グループを分類している：</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>- 扁平上皮癌および腺癌などの癌（腫）</li> <li>- 中皮腫などの肉腫およびその他の軟部組織腫瘍</li> <li>- 肝癌（C22.0）など、原発新生物の部位を示す部位特異的タイプ</li> <li>- ホジキンリンパ腫および非ホジキンリンパ腫などのリンパ腫</li> <li>- 白血病</li> <li>- 悪性黒色腫（C43.-）など、その他の明示された形態学的グループ</li> </ul> <p>ICD の分類項目は新生物の部位を示し、さらに新生物の異なる性状を区別する。分類項目は下記のとおりである：</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>C00-C75 原発と記載されたまたは推定された、明示された部位の悪性新生物で、リンパ組織、造血組織および関連組織を除く異なる種類の組織の悪性新生物</li> <li>C76 その他及び部位不明の悪性新生物</li> <li>C77-C79 続発性悪性新生物で、新生物の形態学的型とは無関係に、別の部位から広がったと記載されたまたは推定されたもの 注：これらの分類項目（C77-C79）は原死因については使用しない</li> <li>C80 部位の明示されない悪性新生物</li> <li>C81-C96 原発と記載されたまたは推定されたリンパ組織、造血組織および関連組織の悪性新生物</li> </ul> <p>(b) 索引表の使用</p> <p>第3巻の索引表における「新生物」の項目では、注記事項、部位のリスト、および新生物の性状により最大5個のコードが与えられている。しかし、部位に関して「新生物」に従ったリストを参照する前に、索引表における形態学的型を調べるのが重要である。形態学的型の項目は、使用するべきコードを示すか、または「新生物」の項目の中の正しい項目を示す。</p> <p>合成された形態学的用語における接頭辞のすべての組み合わせが索引に載せられるわけではない。例えば、chondrofibrosarcoma &lt;軟骨肉腫&gt; という用語は索引表にはないが、fibrochondrosarcoma &lt;線維軟骨肉腫&gt; はある。二つの用語は同じ接頭辞を有するため、順番は異なるものの、chondrofibrosarcoma を fibrochondrosarcoma と同じにコードする。 &lt;訳注：日本語版では、軟骨肉腫は第3巻に掲載されている、繊維軟骨肉腫はなく軟骨肉腫はある&gt;</p>	<p>Leukaemias <u>Other specified morphological groups, such as malignant melanoma (C43.-)</u></p> <p>The ICD categories will give the <i>site</i> of the neoplasm, and also distinguish between the different behaviours of the neoplasms. The categories are:</p> <p><u>C00-C75 Malignant neoplasms, stated or presumed to be primary, of specified sites and in different types of tissue, except lymphoid, haematopoietic, and related tissue</u>  <u>C76 Malignant neoplasms of other and ill-defined sites</u>  <u>C77-C79 Malignant secondary neoplasms, stated or presumed to be spread from another site, regardless of morphological type of neoplasm</u>  <u>Note: these categories (C77-C79) are not to be used for underlying cause of death</u>  <u>C80 Malignant neoplasm of unspecified site</u>  <u>C81-C96 Malignant neoplasms, stated or presumed to be primary, of lymphoid, haematopoietic, and related tissue</u></p> <p>(b) <u>Using the Alphabetical Index</u></p> <p>The entry "Neoplasm" in the Volume 3 Alphabetical Index gives guidance notes, listing of sites, and up to five codes depending on the behaviour of the neoplasm. However, it is important to look up the morphological type in the Alphabetical Index before referring to the listing under "Neoplasm" for the site. The entry for the morphological type will either state a code to use, or direct you to the correct entry under the main term "Neoplasm".</p> <p><u>Not all combinations of prefixes in compound morphological terms are indexed. For example, the term chondrofibrosarcoma does not appear in the Alphabetical Index, but fibrochondrosarcoma does. Since the two terms have the same prefixes, though in a different order, code the chondrofibrosarcoma the same as fibrochondrosarcoma.</u></p> <p><u>Unless it is specifically indexed, code a morphological term ending in "osis" in the same way as the tumour name to which "osis" has been added. For example, code neuroblastomatosis in the same way as neuroblastoma. However, do not code hemangiomatosis, which is specifically indexed to a different category, in the same way as hemangioma. Widespread metastasis of a carcinoma is often called carcinomatosis. See Sections 4.2.7.5 and 4.2.7.6 for more detailed coding instructions on metastasizing neoplasms.</u></p> <p><u>If an unqualified nonspecific term such as carcinoma or sarcoma appears with a term describing a more specific histology of the same broad group, code to the site of the more specific morphology, assuming the nonspecific to be metastatic.</u></p> <p>(c) <u>Selection rules</u></p> <p><u>Note that a malignant neoplasm does not automatically take precedence over other causes of death mentioned on the death certificate. A death should be assigned to a malignant neoplasm only if the selection rules, strictly applied, lead to the selection of the neoplasm as the underlying cause of death.</u></p> <p><i>Example 1:</i> I (a) Liver cirrhosis                                  (b) Viral hepatitis                                  II Hepatocellular carcinoma</p> <p><u>Code to viral hepatitis (B19.9). Viral hepatitis is selected by the General</u></p>



No.	現行	改正案	WHO勧告 (原文)
		<p>特に索引に載せられていない場合は、「osis」で終わる形態学的用語は、「osis」の前にある腫瘍名と同じ方法でコードする。例えば、neuroblastomatosis は neuroblastoma &lt;神経芽腫&gt; と同じにコードする。しかし、索引の中であえて異なる分類項目に載せられている hemangiomatosis &lt;血管腫症&gt; は、hemangioma &lt;血管腫&gt; と同じにコードしてはならない。癌 (腫) &lt;carcinoma&gt; の幅広い転移は、癌腫症 &lt;carcinomatosis&gt; と呼ばれることが多い。転移性新生物に関するコーディングのより詳細な説明については、4.2.7.5 節および 4.2.2.6 節参照。</p> <p>もし、癌 (腫) または肉腫のような限定語のない具体的でない用語が、悪性新生物と同じ意味でより具体的な組織型を示す用語とともに記載されているならば、形態学的により具体的とされる部位にコードし、具体的でない方は他に転移性であると推定する。</p> <p>(c) 選択ルール</p> <p>悪性新生物が、死亡診断書に記載されているその他の死因に自動的に優先することはない。選択ルールを厳密に適用した結果、悪性新生物が原死因として選択された場合にのみ、死亡を悪性新生物に帰するものとする。</p> <p>例 1: I (a) 肝硬変 (b) ウイルス肝炎 II 肝細胞癌 (腫)</p> <p>ウイルス肝炎 (B19.9) にコードする。ウイルス肝炎は、一般原則によって選ばれる。ウイルス肝炎は、肝細胞がんの明らかな結果ではなく、肝細胞がんは原死因として選択すべきでない。</p> <p>例 2: I (a) 腎不全 (b) 腎症 (c) 糖尿病 (d) 乳房の悪性新生物</p> <p>腎合併症を伴う糖尿病 (E14.2) にコードする。4.2.2 における糖尿病の原因に関する指示に従うと、乳房の悪性新生物は糖尿病の原因と認められない。ルール 1 により、糖尿病が原死因として選ばれる。</p>	<p>Principle. It is not an obvious consequence of hepatocellular carcinoma, which should not be selected as the underlying cause of death.</p> <p>Example 2: I (a) Renal failure (b) Nephropathy (c) Diabetes mellitus (d) Malignant neoplasm of breast</p> <p>Code to diabetes with renal complications (E14.2). According to the instruction on causes of diabetes in section 4.2.2, malignant neoplasm of breast is rejected as a cause of diabetes. Diabetes is selected as the underlying cause by Rule 1.</p>
68	<p><b>A 悪性の意味</b></p> <p>新生物が転移 (続発) を生じたという死亡診断書上の記載があれば、同種の新生物が転移を生じたとする記載がない場合に第 II 章の他の節に分類されるとしても、悪性としてコードしなければならないということの意味する。</p> <p>例 1: I (a) リンパ節転移</p>	<p><b>4.2.7.2 悪性の意味</b></p> <p>新生物が続発症を引き起こしたという死亡診断書上の記載があれば、たとえ転移の記載のない同種の新生物は別に分類するものとしても、その新生物を悪性としてコードしなければならないということの意味する。</p>	<p><b>4.2.7.2 Implication of malignancy</b></p> <p>A mention anywhere on the certificate that a neoplasm has produced secondaries means that the neoplasm must be coded as malignant, even though the neoplasm without mention of metastases would be classified differently.</p> <p>Example 3: I (a) Brain metastasis (b) Lung tumour</p>



No.	現行	改正案	WHO勧告 (原文)
	<p>(b) 乳房の上皮内癌 乳房の悪性新生物 (C50.9) にコードする。</p> <p><b>B 接頭語のついた部位または不明確な定義の部位</b></p> <p>「周囲」、「傍」、「前」、「上」、「下」等の接頭語がついている部位の新生物、または部位の「範囲」もしくは「領域」にあると記載されている新生物は、これらの用語が特に指示されていなければ、下記のようにコードする:<b>C40, C41</b> (骨および関節軟骨)、<b>C43</b> (皮膚の悪性黒色腫)、<b>C44</b> (皮膚のその他の悪性新生物)、<b>C45</b> (中皮腫)、<b>C47</b> (末梢神経および自律神経系)、<b>C49</b> (結合組織および軟部組織)、<b>C70</b> (髄膜)、<b>C71</b> (脳) および <b>C72</b> (中枢神経系のその他の部位) の分類項目のいずれかに分類される形態学的型については、その分類項目の適切な細分類にコードする; その他の場合には、<b>C76</b> (その他および部位不明確な) の適切な細分類にコードする。</p> <p>例 2: I (a) 脚部の線維肉腫 下肢の結合組織および軟部組織の新生物 (<b>C49.2</b>) にコードする。</p> <p><b>C 部位不明の悪性新生物で他の病態の記載を伴うもの</b></p> <p>原発性の悪性新生物の部位が明示されていない場合、穿孔、閉塞、または出血のような他の記載された病態の部位から、その部位の推測を行ってはならない。これらの病態は、実際の新生物と無関係な部位に生じる可能性がある。たとえば、腸閉塞が卵巣悪性腫瘍の進展により生じたかもしれない。</p> <p>例 3: I (a) 腸閉塞 (b) 癌 (腫) 部位の明示されない悪性新生物 (C80) にコードする。</p>	<p>例 3: I (a) 脳転移 (b) 肺腫瘍</p> <p>肺の悪性がん (C34.9) にコードする。脳転移を引き起こしたことから、肺腫瘍は悪性と考えられる。一般原則を適用する。</p> <p>例 4: I (a) 胸壁転移 (b) 乳房の上皮内癌 (腫)</p> <p>乳房の悪性癌 (腫) (C50.9) にコードする。乳房腫瘍は胸壁に広がったため、もはや上皮内ではない。一般原則が適用される。</p> <p>これは、第 2 章に索引として載せられていないその他の種類の増殖、例えば一定のポリープにも適用される。転移または続発性腫瘍の原因として記載される場合は悪性と考えべきで、悪性新生物としてコードすべきである。</p> <p>例 5: I (a) 肺の続発性悪性新生物 (b) 胃のポリープ</p> <p>胃の原発性悪性新生物 (C16.9) にコードする。ポリープは続発性疾患の広がりの原因として記載されているため、悪性と考えられる。一般原則が適用される。</p>	<p><u>Code to malignant lung cancer (C34.9). The lung tumour is considered malignant since it has produced brain metastases. The General Principle applies.</u></p> <p><u>Example 4: I (a) Metastatic involvement of chest wall (b) Carcinoma in situ of breast</u></p> <p><u>Code to malignant carcinoma of breast (C50.9). Since the breast tumour has spread to the chest wall it is no longer <i>in situ</i>, and it is considered malignant. The General Principle applies.</u></p> <p><u>This also applies to other types of growths that are not indexed to Chapter II, for example certain polyps. If they are reported as the cause of metastases or secondary tumours, they should be considered malignant and coded as malignant neoplasms.</u></p> <p><u>Example 5: I (a) Secondary malignant neoplasm of lung (b) Polyp of stomach</u></p> <p><u>Code to primary malignant neoplasm of stomach (C16.9). Since the polyp is reported as the cause of secondary spread it is considered malignant. The General Principle applies.</u></p>
69	<p><b>D 原発部位の明示された悪性新生物</b></p> <p>もし、特定の部位が原発として記載されているならば、死亡診断書上の記載された位置や I 欄または II 欄の別にかかわらず、示された部位を原発として選択する。もし、原発部位が不明であると記載されているならば、下記の E を参照する。原発部位は下記の方法の一つに示されるだろう:</p> <p>(a) I 欄または II 欄のどちらかに原発部位として一つの部位が明示されている場合</p> <p>例 4: I (a) 膀胱癌 II 腎原発 腎の悪性新生物 (C64) にコードする。</p>	<p><b>4.2.7.3 原発部位</b></p> <p>悪性新生物が原死因と考えられる場合、原発部位を決定することが最も重要である。死亡診断書が原発部位に関してあいまいである場合、死亡診断書作成者 (医師) の確認を取るためにあらゆる努力を払うべきである。4.2.7.3-4.2.7.9 節における下記の説明は、そうした確認が取れない場合にのみ適用すべきである。</p> <p><b>A. 原発部位が示された場合</b></p> <p>(a) 原発性として明示される新生物</p> <p>一つの悪性新生物が原発と明示され、その他の新生物も記載されているが、原発と記載されていない場合、これらのその他の新生物は続</p>	<p><b>4.2.7.3 Primary site</b></p> <p><u>When a malignant neoplasm is considered to be the underlying cause of death, it is most important to determine the primary site. When the death certificate is ambiguous as to the primary site, every effort should be made to obtain clarification from the certifier. The following instructions in Sections 4.2.7.3 - 4.2.7.9 should be applied only when clarification cannot be obtained.</u></p> <p><b>A. Primary site indicated</b></p> <p><u>(a) A neoplasm specified as primary</u></p> <p><u>If one malignant neoplasm is specified as primary, and other neoplasms are mentioned but not described as primary, then consider these other neoplasms as secondary. Also consider them as an obvious consequence of the neoplasm specified as primary.</u></p> <p><u>Example 6: I (a) Transitional cell carcinoma of bladder</u></p>

No.	現行	改正案	WHO勧告 (原文)
	<p>(b) 「続発性」、「転移性」、「浸潤性」または「癌腫症」として他の部位が明示されている場合</p> <p>例 5: I (a) 乳癌 (b) 脳の続発性腫瘍 ルール 2 を適用して、乳房の悪性新生物 (C50.9) にコードする。</p> <p>(c) 形態が原発性悪性新生物を示す場合</p> <p>へパトーマ&lt;肝細胞癌&gt;のように、形態学的型から原発部位が明らかでない場合は、これを「原発性」という用語が含まれていたかのように考える。</p> <p>例 6: I (a) 転移性癌 (b) 偽粘液性腺癌 部位不明の偽粘液性腺癌は、索引表では卵巣に分類されるので、卵巣の悪性新生物 (C56) にコードする。</p> <p>複数の原発部位または形態が示されている場合には、下記の F, G および H 節に従ってコードする。</p>	<p>発性と考える。また、これらのその他の新生物は原発と明示された新生物の明らかな結果と考える。</p> <p>例 6: I (a) 膀胱の移行上皮癌 (腫) II 移行上皮がん、腎臓において原発</p> <p>一般原則によって選択される I(a)の膀胱の移行上皮がんが原発と明示されていない。II 欄に原発と記載された新生物がある。したがって、ルール 3 が適用され、I(a)における膀胱の移行上皮がんは、II 欄に記載する原発性腎臓腫瘍の明らかな結果と考えられる。腎の悪性新生物 (C64) にコードする。</p> <p>新生物が異なる形態を有する場合、これは適用されない。</p> <p>例 7: I (a) 膀胱の移行上皮がん II 骨肉腫、膝において原発</p> <p>I(a)の膀胱の移行上皮癌 (腫) は、原発と明示されていない。一般原則により、膀胱の移行上皮癌 (腫) を暫定的な原死因として選ぶ。II 欄に記載する悪性新生物は形態の異なるものである。移行上皮がんは骨肉腫の結果ではないため、ルール 3 は適用されない。膀胱の悪性新生物 (C67.9) にコードする。</p> <p>原発と明示された新生物が死亡診断書に複数記載されている場合のさらなる説明については、下記 C を参照する。</p> <p>(b) 続発性疾患と明示されたその他の新生物</p> <p>続発性悪性新生物は、その他の悪性新生物によると考えるべきである。また、一般的転移部位リストの悪性新生物 (4.2.7.5 節の表 3 参照) はその他の悪性新生物によると考えるべきである。</p> <p>例 8: I (a) 肺、胸膜、脳および肝臓における続発症 (b) 乳房の癌 (腫)</p> <p>乳房の癌 (腫) は、胸膜、脳、および肝臓において続発症を引き起こすことがある。一般原則が適用される。原死因として乳房の悪性新生物 (C50.9) を選ぶ。続発性と明示された悪性新生物は、原発と明示された新生物の明らかな結果と考えるべきである。</p> <p>例 9: I (a) 肺の続発性癌 (腫) II 腎臓において原発</p> <p>まず、一般原則を用い、肺の続発性癌 (腫) を暫定的な原死因として選ぶ。しかし、続発性新生物は原発性腎臓腫瘍</p>	<p>II Transitional cell carcinoma, primary in kidney</p> <p>The transitional cell bladder carcinoma on I (a), selected by the General Principle, is not specified as primary. There is a neoplasm described as primary reported in Part II. Therefore, Rule 3 applies, and the transitional cell bladder carcinoma on I (a) is considered an obvious consequence of the primary kidney tumour reported in Part II. Code to malignant neoplasm of kidney (C64).</p> <p>This does not apply if the neoplasms have different morphology.</p> <p>Example 7: I (a) Transitional cell carcinoma of bladder II Osteosarcoma, primary in knee</p> <p>The transitional cell bladder carcinoma on I (a) is not specified as primary. Use the General Principle to select transitional cell carcinoma of bladder as the temporary underlying cause of death. The malignant neoplasm reported in Part II is of a different morphology. Since a transitional cell carcinoma is not a consequence of an osteosarcoma, Rule 3 does not apply. Code to malignant neoplasm of bladder (C67.9).</p> <p>For further instructions on certificates with more than one neoplasm specified as primary, see Section C below.</p> <p>(b) Other neoplasms specified as secondary</p> <p>Secondary malignant neoplasms should be accepted as due to other malignant neoplasms. Also, malignant neoplasms on the list of common sites of metastases (see Section 4.2.7.5 Table 3), should be accepted as due to other malignant neoplasms.</p> <p>Example 8: I (a) Secondaries in lung, pleura, brain and liver (b) Carcinoma of breast</p> <p>A carcinoma of breast may cause secondaries in pleura, brain, and liver. The General Principle applies. Select malignant neoplasm of breast (C50.9) as the underlying cause of death.</p> <p>A malignant neoplasm specified as secondary should be considered an obvious consequence of a neoplasm specified as primary.</p> <p>Example 9: I (a) Secondary carcinoma of lung II Primary in kidney</p> <p>First, use the General Principle to select secondary carcinoma of lung as the temporary underlying cause. However, the secondary neoplasm is an obvious consequence of the primary kidney tumour. Rule 3 applies, and malignant neoplasm of kidney (C64) is selected as underlying cause of death.</p> <p>Also, if all sites but one are specified as secondary, consider the site not specified as secondary as the primary one. Consequently, Rule 3 applies.</p> <p>Example 10: I (a) Secondaries in lymph nodes, vertebrae and peritoneum II Prostate cancer</p> <p>All sites mentioned in Part I are specified as secondary. There is one site reported that is not specified as secondary, namely prostate. First, apply Rule 2 to select the secondary neoplasm in lymph nodes as the temporary</p>

No.	現行	改正案	WHO勧告 (原文)
		<p><u>の明らかな結果である。ルール 3 が適用され、腎の悪性新生物 (C64) を原死因として選ぶ。</u></p> <p><u>また、一つを除くすべての部位が続発性と明示される場合、続発性と明示されない部位を原発と考える。結果として、ルール 3 が適用される。</u></p> <p><u>例 10: I (a) リンパ節、脊椎および腹膜における続発症</u> <u>II 前立腺がん</u></p> <p><u>I 欄に記載されているすべての部位は続発性と明示されている。一つの部位、すなわち前立腺だけが続発性と明示されていない。まず、ルール 2 を適用して、リンパ節における続発性新生物を暫定的な原死因として選ぶ。次に、続発性新生物の広がりか II 欄に記載されている前立腺がんの明らかな結果であることから、ルール 3 を適用する。原死因として前立腺の悪性新生物 (C61) を選択する。</u></p> <p><u>(c) 悪性新生物のリスクを高める疾患によると記載された新生物</u></p> <p><u>悪性新生物が一般にその部位の悪性新生物のリスクを高めると考えられる病態によって引き起こされたとの記載がある場合、その新生物を原発としてコードする。その部位が一般的転移部位リストにあるとしてもこれが適用される (4.2.7.5 節の表 3 参照)。</u></p> <p><u>例 11: I (a) 肝臓および肺のがん</u> <u>(b) 慢性肝炎</u></p> <p><u>慢性肝炎は原発性肝がんのリスクを高めることから、肝の悪性新生物、詳細不明 (C22.9) にコードする。</u></p> <p><u>例 12: I (a) 肺がん</u> <u>(b) 肝がん</u> <u>(c) 塩化ビニルへの長期間の暴露</u></p> <p><u>塩化ビニルは原発性肝がんのリスクを高めることから、肝の悪性新生物、詳細不明 (C22.9) にコードする。4.2.7.5 節により、肺がんは続発性と考えられる。</u></p> <p><u>例 13: I (a) 胸壁のがん</u> <u>(b) 肺のがん</u> <u>(c) 喫煙</u></p> <p><u>気管支または肺の悪性新生物、部位不明 (C34.9) にコードする。タバコは原発性肺がんのリスクを高める。4.2.7.5 節により、胸壁のがんは続発性と考えられる。</u></p>	<p><u>underlying cause. Then apply Rule 3, since the secondary spread is an obvious consequence of prostate cancer reported in Part II. Select malignant neoplasm of prostate (C61) as the underlying cause of death.</u></p> <p><u>(c) A neoplasm reported as due to a disease that increases the risk of malignancy</u></p> <p><u>When a malignant neoplasm is reported as caused by a condition generally considered to increase the risk of a malignancy of that site, code the neoplasm as primary. This applies even if the site is on the list of common sites of metastases (see Table 3 in Section 4.2.7.5).</u></p> <p><u>Example 11: I (a) Cancer of liver and lung</u> <u>(b) Chronic hepatitis</u></p> <p><u>Code to unspecified malignant neoplasm of liver (C22.9), since chronic hepatitis increases the risk of primary liver cancer.</u></p> <p><u>Example 12: I (a) Cancer of lung</u> <u>(b) Cancer of liver</u> <u>(c) Prolonged exposure to vinyl chloride</u></p> <p><u>Code to unspecified malignant neoplasm of liver (C22.9), since vinyl chloride increases the risk of primary liver cancer. Using section 4.2.7.5, the cancer of lung is regarded as secondary.</u></p> <p><u>Example 13: I (a) Cancer of chest wall</u> <u>(b) Cancer of lung</u> <u>(c) Smoking</u></p> <p><u>Code to malignant neoplasm of bronchus or lung, unspecified (C34.9). Tobacco increases the risk of primary lung cancer. Using section 4.2.7.5, the cancer of chest wall is considered secondary.</u></p> <p><u>Example 14: I (a) Mesothelioma of pleura and lymph nodes</u> <u>(b) Prolonged inhalation of asbestos dust</u></p> <p><u>Code to mesothelioma of pleura (C45.0). Exposure to asbestos increases the risk of pleural mesothelioma, which is considered primary. The malignant neoplasm of lymph nodes is considered secondary (see Section 4.2.7.5 D).</u></p> <p><u>Example 15: I (a) Malignant neoplasm of mediastinum and liver</u> <u>(b) Prolonged inhalation of asbestos dust</u></p> <p><u>Code to malignant neoplasm of mediastinum (C38.3). Exposure to asbestos increases the risk of cancer in the mediastinum, and the liver neoplasm is considered secondary.</u></p> <p><u>For further information on conditions considered to increase the risk of malignancy, please refer to the WHO website on ICD-10 in classification of mortality.</u></p> <p><u>(d) Site-specific morphology</u></p> <p><u>Note that the Alphabetical Index assigns some morphologies to a specific primary site:</u></p>



No.	現行	改正案	WHO勧告 (原文)
		<p>例 14: I (a) <u>胸膜およびリンパ節の中皮腫</u> (b) <u>アスベスト粉じん&lt;塵&gt;の長期間の吸引</u></p> <p><u>胸膜の中皮腫 (C45.0) にコードする。アスベストへの暴露は、原発とみなされる胸膜中皮腫のリスクを高める。リンパ節の悪性新生物は続発性と考えられる (4.2.7.5 節 D 参照)。</u></p> <p>例 15: I (a) <u>縦隔および肝臓の悪性新生物</u> (b) <u>アスベスト粉じん&lt;塵&gt;の長期間の吸引</u></p> <p><u>縦隔の悪性新生物 (C38.3) にコードする。アスベストへの暴露は縦隔におけるがんのリスクを高める。肝臓新生物は続発性と考えられる。</u></p> <p><u>悪性新生物のリスクを高めると思われる病態に関するさらなる情報については、死因分類における ICD-10 に関する WHO のウェブサイト参照。</u></p> <p>(d) <u>部位特異的形態</u></p> <p><u>索引表はいくつかの形態を特定の原発部位に割り当てている：</u></p> <p>例 16: I (a) <u>全身性の転移の広がり</u> (b) <u>偽粘液性腺がん</u></p> <p><u>一般原則を用いて偽粘液性腺がんを選ぶ。部位不明の偽粘液性腺がんは、索引表において卵巣に分類されるので、卵巣の悪性新生物 (C56) にコードする。</u></p> <p><u>二つ以上の形態が示される場合、4.2.7.3 節 C に従ってコードする。</u></p> <p>(e) <u>期間は原発部位を示さない</u></p> <p><u>同じ患者がいくつかの原発性悪性新生物を発現することがあることから、原発部位を確定するのに期間を使用すべきでない。また、記載されている期間はその疾患の期間よりもむしろ診断日を示している場合がある。</u></p> <p>例 17: I (a) <u>咽頭の悪性新生物 8 ヶ月</u> II <u>乳房の悪性新生物 12 年</u></p> <p><u>一般原則またはルール 1 もしくは 2 によって選択された病態は、因果関係に疑いがない場合にのみ、死亡診断書の他の場所に記載された病態の明らかな結果と考えるべきである。上記の例の場合、患者が二つの独立した原発性悪性新</u></p>	<p><i>Example 16: I (a) <u>Generalised metastatic spread</u> (b) <u>Pseudomucinous adenocarcinoma</u></i></p> <p><u>Select pseudomucinous adenocarcinoma using the General Principle. Code to malignant neoplasm of ovary (C56), since pseudomucinous adenocarcinoma of unspecified site is assigned to the ovary in the Alphabetical Index.</u></p> <p><u>If two or more morphologies are indicated, code according to Section 4.2.7.3 C.</u></p> <p><i>(e) <u>Durations do not indicate primary site</u></i></p> <p><u>Durations should not be used to establish the primary site, since the same patient could develop several primary malignant neoplasms. Also, stated duration may refer to the date of diagnosis rather than the duration of the disease.</u></p> <p><i>Example 17: I (a) <u>Malignant neoplasm of throat 8 months</u> II <u>Malignant neoplasm of breast 12 years</u></i></p> <p><u>A condition selected by the General Principle or Rules 1 or 2 should be considered an obvious consequence of a condition reported elsewhere on the certificate only if there is no doubt about the relationship. In this case, the different durations do not necessarily indicate that the malignant neoplasm of throat is a metastatic spread from the breast malignancy, since the patient may have developed two independent primary malignancies. Consequently, Rule 3 does not apply. Code to malignant neoplasm of throat (C14.0) selected by the General Principle.</u></p> <p><i>Example 18: I (a) <u>Malignant neoplasm of kidney (7 months) and of prostate (5 years)</u></i></p> <p><u>As in Example 15, the different durations do not necessarily indicate that the more recent neoplasm is a metastatic spread from the one with longer duration. Rule 3 does not apply. Both malignant neoplasms are considered primary. Code to malignant neoplasm of kidney (C64), selected by Rule 2.</u></p>



No.	現行	改正案	WHO勧告 (原文)
		<p>生物を発現したかもしれないことから、期間の違いは、咽頭の悪性新生物が乳房の悪性新生物から広がった転移であるということを必ずしも示しているわけではない。そのため、ルール 3 は適用されない。一般原則によって選択された咽頭の悪性新生物 (C14.0) にコードする。</p> <p>例 18: I (a) 腎臓 (7 カ月) および前立腺 (5 年) の悪性新生物</p> <p>例 15 と同様に、期間の違いは、最近の新生物の方が期間の長い新生物から広がった転移であるということを必ずしも示しているわけではない。ルール 3 は適用されない。いずれの悪性新生物も原発性とみなされる。ルール 2 によって選択された腎の悪性新生物 (C64) にコードする。</p>	
70	<p><b>E 原発部位不明の場合</b></p> <p>死亡診断書のどこかに、「原発部位不明」またはこれと同様の記載がなされている場合は、死亡診断書に記載された部位にかかわらず、その新生物の形態学的型に対応する「部位不明」の分類項目 (たとえば、腺癌 C80、線維肉腫 C49.9、骨肉腫 C41.9) にコードする。</p> <p>例 7: I (a) 肝の続発性癌 (b) 原発部位不明 (c) ?胃?結腸 部位不明の癌 (腫) (C80) にコードする。</p> <p>例 8: I (a) 全身転移 (b) 背部の黒色腫 (c) 原発部位不明 部位不明の悪性黒色腫 (C43.9) にコードする。</p>	<p><b>B. 原発部位不明</b></p> <p>死亡診断書に原発部位が不明であると記載されている場合、関与する形態学的型に対応する「部位不明」の分類項目にコードする。例えば、腺がんは C80.0、線維肉腫は C49.9、骨肉腫は C41.9 にコードする。死亡診断書の他の場所に記載されているその他の各部位は無視する。</p> <p>例 19: I (a) 肝臓の続発性がん (b) 原発部位不明 (c) ?胃?結腸</p> <p>&lt;英語では、I (c) が落ちているが、説明文からすると必要か。&gt; 死亡診断書には原発部位が不明であると記載されている。 I(c)欄に記載されて胃および結腸を無視し、部位不明の癌 (腫) (C80.0) にコードする。</p> <p>例 20: I (a) 全身転移 (b) 黒色腫 (c) 原発部位不明</p> <p>部位不明の悪性黒色腫 (C43.9) にコードする。形態学的型が示されていない場合、部位不明の悪性新生物 (C80.9) にコードする:</p> <p>例 21: I (a) 肝臓への転移</p> <p>死亡診断書は原発部位を明示していない。可能であれば、死亡診断書作成者 (医師) に確認を取るべきである。これが可能でなければ、部位不明の悪性新生物 (C80.9) にコードする。</p>	<p><b>B. Primary site unknown</b></p> <p>If the certificate states that the primary site is unknown, code to the category for unspecified site for the morphological type involved. For example, code adenocarcinoma to C80.0, fibrosarcoma to C49.9, and osteosarcoma to C41.9. Disregard any other sites mentioned elsewhere on the certificate.</p> <p>Example 19: I (a) Secondary carcinoma of liver (b) Primary site unknown (c) ? stomach ? colon</p> <p>The certificate states that the primary site is unknown. Disregard stomach and colon mentioned on line I (c), and code to carcinoma without specification of site (C80.0).</p> <p>Example 20: I (a) Generalized metastases (b) Melanoma (c) Primary site unknown</p> <p>Code to malignant melanoma of unspecified site (C43.9).</p> <p>If the morphological type is not indicated, code to unspecified malignant neoplasm (C80.9):</p> <p>Example 21: I (a) Metastases of liver</p> <p>The certificate does not specify the primary site. If possible, clarification should be sought from the certifier. If this is not possible, code to malignant neoplasm of unspecified site (C80.9).</p>
71	<p><b>F 独立した (原発性の) 多部位 (C97) の場合</b></p>	<p><b>C. 複数の原発性新生物がある場合</b></p>	<p><b>C. More than one primary neoplasm</b></p>

No.	現行	改正案	WHO勧告（原文）
	<p>複数の原発性新生物が発生することがある。これは二つの異なる解剖学的部位、または二つの異なる形態学的型（たとえば、副腎腫および導&lt;乳&gt;管内癌）の記載、または特定の部位および第2の部位を意味する形態学的型の混合によって示される。一つの原発性悪性新生物が、もう一つの原発性悪性新生物に起因することは、ほとんどありえないが、リンパ組織、造血組織および関連組織の悪性新生物（C81-C96）では、ある型から他の型に変わることがある（たとえば、非ホジキンリンパ腫から白血病になることがある）。</p> <p>もし、I欄に記載された複数の部位が、同一の器官系にあれば、H節を参照する。もし、それらの部位が同一の器官系にはなく、どれが原発でどれが転移かが示されていないならば、独立した（原発性の）多部位の悪性新生物（C97）にコードする。ただし、全部がC81-C96に分類できる場合、または記載された部位の一つが、一般的な転移部位である場合や肺である場合は除く（下記のG参照）。</p> <p>例9： I (a) 胃癌 (b) 乳癌 解剖学的に異なる二つの部位が記載されており、一方が他方の原因とは考えられないため、独立した（原発性の）多部位の悪性新生物（C97）にコードする。</p> <p>例10： I (a) ホジキン病 (b) 膀胱癌 二つの異なる形態学的型が記載されているので、独立した（原発性の）多部位の悪性新生物（C97）にコードする。</p> <p>例11： I (a) 急性リンパ球性白血病 (b) 非ホジキンリンパ腫 両者はC81-C96に分類され、上下の因果関係がみとめられるので、非ホジキンリンパ腫（C85.9）にコードする。</p> <p>例12： I (a) 白血病 (b) 非ホジキンリンパ腫 (c) 卵巣癌 二つはC81-C96に分類されるが、他部位の記載があるので、独立した（原発性の）多部位の悪性新生物（C97）にコードする。</p> <p>例13： I (a) 白血病 II 乳癌 乳癌はII欄に記載されているので、白血病（C95.9）にコードする。多部位を取り扱う場合は、死亡診断書のI欄に記載されている部位だけを考慮する（H参照）。</p>	<p>複数の原発性新生物の存在は、例えば下記のようにいくつかの方法で示すことができる：</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>- 二つ以上の異なる解剖学的部位の記載</li> <li>- 二つ以上の異なる形態学的型の記載</li> <li>- 特定の部位およびもう一つの部位を意味する形態学的型の混合</li> </ul> <p>死亡診断書に複数の原発性悪性新生物の記載がある場合、死亡診断書作成者（医師）に対して悪性新生物の一つを原死因として明示するように求めるべきである。そうした確認が取れない場合、選択ルールを通常の方法で適用するべきである。</p> <p>(a) 複数の異なる解剖学的部位</p> <p>一つの部位の原発性悪性新生物が、別の部位の原発性新生物によるものであると考えるべきではない。</p> <p>例22： I (a) 胃がん (b) 乳がん</p> <p>胃は一般的転移部位リストになく（4.2.7.5節表3参照）、胃がんと乳がんはいずれも原発性とみなされる。しかし、一つの原発性悪性新生物が別の原発性悪性新生物によるものとは考えない。ルール2が適用され、胃がん（C16.9）を原死因として選ぶ。</p> <p>例23： I (a) 前立腺がん II 胃がん</p> <p>二つの異なる原発性新生物、すなわち胃がんおよび前立腺がんが記載されている。一般原則を使用して、I欄に記載されている前立腺の悪性新生物（C61）を選ぶ。</p> <p>例24： I (a) がん II 前立腺がん</p> <p>一般原則を使用して、部位不明の悪性新生物（C80.9）を暫定的な原死因として選ぶ。次にルールD 特異性を適用して、II欄に記載されているより具体的な用語の「前立腺のがん」（C61）を選ぶ。</p> <p>(b) 複数の異なる形態</p> <p>特定の形態の悪性新生物が、異なる形態の新生物によるものと認められるべきではない。</p>	<p>The presence of more than one primary neoplasm could be indicated in several ways, for example:</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>• <u>mention of two or more different anatomical sites</u></li> <li>• <u>two or more distinct morphological types</u></li> <li>• <u>by a mix of a morphological type that implies a specific site, plus another site</u></li> </ul> <p>When a death certificate mentions more than one primary malignant neoplasm, the certifier should be asked to specify one of the malignant neoplasms as the underlying cause of death. If no clarification can be obtained, the selection rules should be applied in the usual way.</p> <p>(a) <u>Two or more different anatomical sites</u></p> <p><u>A primary malignant neoplasm of one site should not be accepted as due to a primary neoplasm of another site.</u></p> <p>Example 22: I (a) Cancer of stomach (b) Cancer of breast</p> <p><u>Stomach is not on the list of common sites of metastases (see Section 4.2.7.5 Table 3) and both cancer of stomach and cancer of breast are regarded as primary. However, one primary malignant neoplasm is not accepted as due to another. Rule 2 applies, and cancer of stomach (C16.9) is selected as the underlying cause.</u></p> <p>Example 23: I (a) Cancer of prostate II Cancer of stomach</p> <p><u>Two different primary neoplasms are mentioned, stomach cancer and cancer of prostate. Use the General Principle to select cancer of prostate (C61), which is mentioned in Part I.</u></p> <p>Example 24: I (a) Cancer II Cancer of prostate</p> <p><u>Use the General Principle to select unspecified cancer (C80.9) as the temporary underlying cause. Then apply Rule D, Specificity, to select the more specific term “cancer of prostate” (C61), reported in Part II.</u></p> <p>(b) <u>Two or more different morphologies</u></p> <p><u>A malignant neoplasm of a specific morphology should not be accepted as due to a neoplasm of a different morphology.</u></p> <p>Example 25: I (a) Hypernephroma (b) Oat cell carcinoma</p> <p><u>Hypernephroma and oat cell carcinoma are different morphologies. Therefore, hypernephroma is not accepted as due to oat cell carcinoma. Use Rule 2 to select hypernephroma (C64) as underlying cause of death.</u></p> <p><u>Do not regard the term “cancer” as a specific morphology. It is often used as a synonym of “malignant neoplasm”.</u></p>

No.	現行	改正案	WHO勧告 (原文)
		<p>例 25: I (a) 腎細胞がん (b) 燕麦細胞がん</p> <p>腎細胞がんおよび燕麦細胞がんは形態が異なる。そのため、腎細胞がんが燕麦細胞がんによるものとは認められない。ルール 2 を適用し、腎細胞がん (C64) を原死因として選ぶ。</p> <p>「がん」という用語を特定の形態としてみなしてはならない。「がん」は「悪性新生物」の同義語として用いられることが多い。</p> <p>例 26: I (a) 肝がん (b) 結腸の悪性黒色腫</p> <p>「肝がん」と「悪性黒色腫」を異なる形態とみなしてはならない。一般原則を適用して結腸の悪性黒色腫を選択し、結腸の悪性新生物 (C18.9) にコードする。肝がんは続発性と考えられる。</p> <p>ただし、リンパ組織、造血組織または関連組織の新生物 (C81-C96) は、リンパ組織、造血組織または関連組織で別の種類の新生物になる可能性がある。そのため、死亡診断書がこのような新生物の上下の因果関係を記載している場合には、その上下の因果関係は妥当と認められる。</p> <p>例 27: I (a) 急性リンパ球性白血病 (b) 非ホジキン&lt;non-Hodgkin&gt;リンパ腫</p> <p>非ホジキン&lt;non-Hodgkin&gt;リンパ腫は、急性リンパ球性白血病になることがある。上下の因果関係が認められるので、一般原則に従い、非ホジキン&lt;non-Hodgkin&gt;リンパ腫 (C85.9) が原死因として選ばれる。</p> <p>慢性白血病の急性転化や芽胞発症 (急性) は、慢性型の明らかな結果とと考えられる。</p> <p>例 28: I (a) 急性および慢性のリンパ球性白血病 I(a)欄の最初の行に記載されている急性リンパ球性白血病を、ルール 2 に従い、暫定的な原死因として選ぶ。しかし、これは慢性リンパ球性白血病の明らかな結果である。ルール 3 も適用され、原死因として慢性リンパ球性白血病 (C91.1) が選ばれる。</p> <p>(c) その他の部位とともに記載された部位特異的形態</p> <p>いくつかの形態は特定の部位または組織の種類に特異的である (索引表を参照)。特定の部位または組織の悪性新生物は、別の部位また</p>	<p>Example 26: I (a) Liver cancer (b) Malignant melanoma of colon</p> <p>Do not regard “liver cancer” and “malignant melanoma” as different morphologies. Use the General Principle to select malignant melanoma of colon, and code to malignant neoplasm of colon (C18.9). Consider the liver cancer secondary.</p> <p>However, a neoplasm in lymphoid, haematopoietic or related tissue (C81-C96) may develop into another type of neoplasm in lymphoid, haematopoietic or related tissue. Therefore, if the certificate reports a sequence of such neoplasms, the sequence is accepted.</p> <p>Example 27: I (a) Acute lymphocytic leukaemia (b) Non-Hodgkin’s lymphoma</p> <p>A non-Hodgkin lymphoma may develop into an acute lymphocytic leukemia. The sequence is accepted, and non-Hodgkin’s lymphoma (C85.9) is selected as underlying cause according to the General Principle.</p> <p>Acute exacerbation of, or blastic crisis (acute) in, chronic leukaemia is considered an obvious consequence of the chronic form.</p> <p>Example 28: I (a) Acute and chronic lymphocytic leukaemia</p> <p>The acute lymphocytic leukemia, mentioned first on line I (a), is selected as the temporary underlying cause according to Rule 2. However, it is an obvious consequence of the chronic lymphocytic leukaemia. Rule 3 also applies, and chronic lymphocytic leukaemia (C911) is selected as the underlying cause of death.</p> <p>(c) Site-specific morphology reported with other sites</p> <p>Some morphologies are specific for a particular site or type of tissue (see the Alphabetical Index). A malignant neoplasm of a particular site or tissue should not be accepted as due to a neoplasm of another site or type of tissue. Apply the selection rules in the usual way, if a site-specific morphology is reported with a malignant neoplasm of another site.</p> <p>Example 29: I (a) Hodgkin’s disease-lymphoma (b) Carcinoma of bladder</p> <p>Two different morphological types are mentioned, which indicates the presence of two different primary neoplasms, Hodgkin’s disease lymphoma and bladder carcinoma. One primary malignant neoplasm should not be accepted as due to another. Therefore, Rule 2 applies, and Hodgkin’s disease lymphoma (C81.9) is selected as the underlying cause.</p> <p>Example 30: I (a) Hepatoma (b) Cancer of breast</p> <p>The morphology “hepatoma” indicates a primary malignant neoplasm of liver. A primary malignant neoplasm of liver should not be accepted as due to cancer of breast, since both the hepatoma and the breast cancer are considered primary. Code to hepatoma (C22.0), using Rule 2.</p>



No.	現行	改正案	WHO勧告 (原文)
		<p>は別の種類の組織の新生物によるものと考えべきではない。部位特異的な形態が別の部位の悪性新生物とともに記載されている場合、選択ルールを通常の方法で適用する。</p> <p>例 29: I (a) <u>ホジキン&lt;Hodgkin&gt;リンパ腫</u> (b) <u>膀胱の癌 (腫)</u></p> <p>二つの異なる形態学的型が記載され、二つの異なる原発性新生物、すなわちホジキン&lt;Hodgkin&gt;リンパ腫および膀胱癌 (腫) の存在を示している。一方の原発性悪性新生物をもう一方によると考えるべきではない。そのため、ルール 2 が適用され、ホジキン&lt;Hodgkin&gt;リンパ腫 (C81.9) が原死因として選ばれる。</p> <p>例 30: I (a) <u>肝細胞がん</u> (b) <u>乳がん</u></p> <p>「肝細胞がん」という形態は、肝臓の原発性悪性新生物を示す。肝細胞がんと乳房のがんはいずれも原発性と考えられることから、肝臓の原発性悪性新生物を乳房のがんによるものと認めるべきでない。ルール 2 を用いてへパトーマ (C22.0) にコードする。</p>	
72		<p><b>4.2.7.4 重複する部位の悪性新生物</b></p> <p>内容例示表の第 2 章の序文 (注、5 節) には、細分類項目.8「境界部位にまたがる悪性新生物」の内容および使用目的が記載されている。しかし、死因コーディングでは、病変が境界部位にまたがっていると明確に記載されている場合、または死亡診断書に用いられている解剖学的用語が境界部位にまたがっていることを示している場合にのみ、境界部位にまたがる悪性新生物のコードを使用すべきである。悪性新生物が器官または器官系のある一部分から同じ器官または器官系の別の部分に広がった場合には、境界部位にまたがる病変のコードは使用しない。</p> <p>例 31: I (a) <u>舌および口腔底にまたがる悪性新生物</u></p> <p>C14.8 口唇、口腔および咽頭の境界部病巣にコードする。新生物は境界部にまたがっていると記載されている。</p> <p>例 32: I (a) <u>直腸 S 状結腸の悪性新生物</u></p> <p>C19 直腸 S 状結腸移行部の悪性新生物にコードする。「直腸 S 状」の用語は境界部位を示す。</p> <p>死亡診断書が近接する部位を列挙するということが十分でない。その場合、選択ルールおよび修正ルールを通常の方法で適用することに</p>	<p><b>4.2.7.4 Malignant neoplasms of overlapping sites</b></p> <p>The introduction to Chapter II in Volume 1 (Notes, Section 5) describe the contents and the intended use of subcategory .8, malignant neoplasms of overlapping sites. In mortality coding, however, the codes for malignant neoplasms of overlapping sites should be used only if the lesion has been expressly described as overlapping, or if the anatomical term used on the death certificate indicates an overlapping site. Do not use the codes for overlapping lesions if a malignant neoplasm has spread from one part of an organ or organ system to another part of the same organ or organ system.</p> <p>Example 31: I (a) <u>Overlapping malignant neoplasm of tongue and floor of mouth</u></p> <p>Code to C14.8, overlapping lesion of lip, oral cavity and pharynx. The neoplasm is described as overlapping.</p> <p>Example 32: I (a) <u>Malignant neoplasm of rectosigmoid colon</u></p> <p>Code to C19, malignant neoplasm of rectosigmoid junction. The term “rectosigmoid” indicates an overlapping site.</p> <p>It is not sufficient that the certificate enumerates contiguous sites. In that case, select the underlying cause by applying the selection and modification rules in the normal way.</p> <p>Example 33: I (a) <u>Malignant neoplasm of colon and gallbladder</u></p> <p>There is no statement that the “colon and gallbladder” refers to an overlapping neoplasm. Therefore, they are considered as two independent primary sites. Malignant neoplasm of colon (C18.9) is selected as underlying</p>



No.	現行	改正案	WHO勧告 (原文)																																												
		<p>よって原死因を選択する。</p> <p>例 33: I (a) 結腸および胆のう&lt;囊&gt;の悪性新生物</p> <p>「結腸および胆のう&lt;囊&gt;」が境界部をまたがる新生物であることを示す記述はない。そのため、これは二つの独立した原発部位とみなされる。死亡診断書の最初に記載されていることから、ルール 2 に従って結腸の悪性新生物 (C18.9) が原死因として選ばれる。</p>	<p>cause of death according to Rule 2, since it is mentioned first on the certificate.</p>																																												
73	<p><b>G 転移性新生物</b></p> <p>悪性新生物が広がるかまたは転移する場合、さらに未分化になることがあるとしても、それは一般的には同一の形態学的型を保持するものである。いくつかの転移は、病理学者が確信を持って原発部位を推断することができる特徴的な顕微鏡所見を有するものである (例: 甲状腺)。癌 (腫) の播種性転移は、しばしば、癌腫症 &lt;carcinomatosis&gt; と呼ばれている。もし、癌 (腫) または肉腫のような修飾語のない非特異的な用語が、悪性新生物と同じ意味でより特異的な組織型を示す用語とともに記載されているならば、形態学的により特異的とされる部位にコードし、他は転移したものとみなす。</p> <p>悪性の細胞は、身体のかなる部位にも転移する可能性があるが、他の部位に比べて転移しやすい部位があり、この部位は、別に扱わなければならない (次頁参照)。しかし、もし、死亡診断書にこれらの部位が単独で記載され、「転移性」と記載されていないならば、原発と考えるべきである。</p> <p>一般的転移部位リスト</p> <table border="0"> <tr><td>骨</td><td>縦隔</td></tr> <tr><td>脳</td><td>髄膜</td></tr> <tr><td>横隔膜</td><td>腹膜</td></tr> <tr><td>心</td><td>胸膜</td></tr> <tr><td>肝</td><td>後腹膜</td></tr> <tr><td>肺</td><td>脊髄</td></tr> <tr><td>リンパ節</td><td></td></tr> <tr><td>不明確な部位 (C76 に分類される部位)</td><td></td></tr> </table> <p>* 肺については、肺は転移部位になると同時に、原発性悪性新生物の発生部位にもなるという特殊な問題がある。肺が上記リストにない部位とともに記載された場合には、肺を一般的転移部位と考えるべきである。しかし、気管支または気管支原性のがんの記載がある場合には、この新生物を原発性と考えるべきである。もし、肺が記載され、他の部位が一般的転移部位リストにあるものだけであれば、肺原発と考える。</p> <p>* 原発と明示されていないリンパ節の悪性新生物は、続発性と推定するべきである。</p>	骨	縦隔	脳	髄膜	横隔膜	腹膜	心	胸膜	肝	後腹膜	肺	脊髄	リンパ節		不明確な部位 (C76 に分類される部位)		<p><b>4.2.7.5 一般的な転移部位</b></p> <p><b>A. 一般的転移部位リスト</b></p> <p>悪性の細胞は身体のかなる部位にも転移する可能性があるが、他の部位に比べて転移しやすい部位があり、この部位は別に扱わなければならない。これらの部位のリストを下表 3 に示す。</p> <p>表 3. 一般的転移部位</p> <table border="0"> <tr><td>骨</td><td>縦隔</td></tr> <tr><td>脳</td><td>髄膜</td></tr> <tr><td>横隔膜</td><td>腹膜</td></tr> <tr><td>不明確な部位 (C76 に分類可能な部位)</td><td>胸膜</td></tr> <tr><td>肝臓</td><td>後腹膜</td></tr> <tr><td>肺 (特殊な指示参照)</td><td>脊髄</td></tr> <tr><td>リンパ節 (特殊な指示参照)</td><td></td></tr> </table> <p><b>B. 一般的転移部位: リストの使用方法</b></p> <p>(a) その他の部位とともに記載された一般的転移部位</p> <p>複数の部位が死亡診断書に記載され、原発部位が示されていない場合、表 3 に記載の部位の新生物を続発性、表 3 にないものを原発性と考える。次に、選択ルールを通常の方法で適用することによって原死因を選択する。</p> <p>例 34: I (a) 脳のがん (b) 乳がん</p> <p>乳房は表 3 にないため、原発性と考えられる。脳は表 3 にあり、続発性と考えられる。続発性悪性新生物はもちろん原発性のものである可能性がある。一般原則に従い、乳がん (C50.9) が原死因として選ばれる。</p>	骨	縦隔	脳	髄膜	横隔膜	腹膜	不明確な部位 (C76 に分類可能な部位)	胸膜	肝臓	後腹膜	肺 (特殊な指示参照)	脊髄	リンパ節 (特殊な指示参照)		<p><b>4.2.7.5. Common sites of metastases</b></p> <p><b>A. List of common sites of metastases</b></p> <p>Although malignant cells can metastasize anywhere in the body, certain sites are more common than others and must be treated differently. These sites are listed in Table 3 below.</p> <p>.....</p> <p><b>Table 3. Common sites of metastases</b></p> <table border="0"> <tr><td>Bone</td><td>Mediastinum</td></tr> <tr><td>Brain</td><td>Meninges</td></tr> <tr><td>Diaphragm</td><td>Peritoneum</td></tr> <tr><td>Ill-defined sites (sites classifiable to C76)</td><td>Pleura</td></tr> <tr><td>Liver</td><td>Retroperitoneum</td></tr> <tr><td>Lung (see special instruction)</td><td>Spinal cord</td></tr> <tr><td>Lymph nodes (see special instruction)</td><td></td></tr> </table>	Bone	Mediastinum	Brain	Meninges	Diaphragm	Peritoneum	Ill-defined sites (sites classifiable to C76)	Pleura	Liver	Retroperitoneum	Lung (see special instruction)	Spinal cord	Lymph nodes (see special instruction)	
骨	縦隔																																														
脳	髄膜																																														
横隔膜	腹膜																																														
心	胸膜																																														
肝	後腹膜																																														
肺	脊髄																																														
リンパ節																																															
不明確な部位 (C76 に分類される部位)																																															
骨	縦隔																																														
脳	髄膜																																														
横隔膜	腹膜																																														
不明確な部位 (C76 に分類可能な部位)	胸膜																																														
肝臓	後腹膜																																														
肺 (特殊な指示参照)	脊髄																																														
リンパ節 (特殊な指示参照)																																															
Bone	Mediastinum																																														
Brain	Meninges																																														
Diaphragm	Peritoneum																																														
Ill-defined sites (sites classifiable to C76)	Pleura																																														
Liver	Retroperitoneum																																														
Lung (see special instruction)	Spinal cord																																														
Lymph nodes (see special instruction)																																															
74			<p><b>B. Common sites of metastases: how to use the list</b></p> <p>(a) A common site of metastases reported with other sites</p> <p>If several sites are reported on the death certificate and the primary site is not indicated, consider neoplasms of sites in Table 3 as secondary, and those not in Table 3 as primary. Then select the underlying cause by applying the selection rules in the usual way.</p> <p>Example 34: I (a) Brain cancer (b) Cancer of breast</p> <p>Breast is not in Table 3 and is, therefore, considered primary. Brain is in Table 3 and is considered secondary. A secondary malignancy could, of course, be due to a primary one. Breast cancer (C50.9) is selected as the underlying cause according to the General Principle.</p> <p>Example 35: I (a) Peritoneal cancer II Cancer of breast</p> <p>Peritoneum is in Table 3 and is considered secondary. Breast is not in Table 3 and is considered primary. First, apply the General Principle to select</p>																																												

No.	現行	改正案	WHO勧告 (原文)
	<p>-----</p> <p>例 14: I (a) 脳のがん 脳が悪性新生物 (C71.9) にコードする。</p> <p>例 15: I (a) 骨のがん (b) 肺癌 骨は、一般的転移部位リストにあるため、肺原発と考え、肺の悪性新生物 (C34.9) にコードする。</p> <p>「転移性」という形容詞は、二つの意味に使用されている—ある場合は、他の原発部位から続発したことを意味する形容詞として使用され、ある場合には、転移を起こした原発を意味する形容詞として使用される。この混乱を避けるため、下記のガイドラインが提案されている:</p> <p>(a) 明示された部位「から転移 (metastatic from)」したと記載された悪性新生物は、その部位を原発と解釈する。</p> <p>例 16: I (a) 卵巣からの転移性奇形腫 卵巣の悪性新生物 (C56) にコードする。</p> <p>(b) ある部位「へ転移 (metastatic to)」したと記載された悪性新生物は、特定の原発部位を示す組織型の記載がない限り、その部位を続発と解釈する。</p> <p>例 17: I (a) 直腸への転移性癌 (腫) 直腸の続発性悪性新生物 (C78.5) にコードする。「~へ」という用語は、直腸が転移部位であることを明確に示している。</p> <p>例 18: I (a) 脳の転移性骨肉腫 骨肉腫の部位不明であるため、骨の悪性新生物 (C41.9) にコードする。</p> <p>(c) 「(～の) 転移性 (metastatic of)」と記載された単一の悪性新生物 「(～の) 転移性」という用語は、下記のように解釈する: (1) 一つの部位が記載され、それが転移性であると記載された場合で、もし、形態学的型の記載がなければ、その特定された部位の続発性悪性新生物としてコードする。</p> <p>(注) 英語版では一般的転移部位リストの記載の有無で分けてそれぞれ別にコードされているが、日本の用法では局在部位に「転移性」と記載された場合で、他に判断する根拠となる記載がない場合はこれを「続発性」と解釈した方が適当であると考えられるので、上記のように変更した。</p> <p>例 19: I (a) 子宮頸癌、転移性 子宮頸 (部)、部位不明 (C53.9) にコードする。</p>	<p>例 35: I (a) 腹膜がん II 乳房のがん</p> <p>腹膜は表 3 にあり、続発性と考えられる。乳房は表 3 になく、原発性と考えられる。まず、一般原則を適用して腹膜がんを暫定的な原死因として選ぶ。しかし、(続発性) 腹膜がんは(原発性の) 乳がんの明らかな結果である (4.2.7.3 節 A (b) 参照)。そのため、ルール 3 を適用し、乳房のがん (C50.9) を原死因として選ぶ。</p> <p>例 36: I (a) 肝がん (b) 結腸がん (c) 膀胱がん</p> <p>肝臓は表 3 にあり、続発性と考えられる。結腸および膀胱は表 3 になく、いずれも原発性と推定される。しかし、結腸の原発がんは、原発性の膀胱がんによるものと認められるべきでない。死亡診断書には、その他に、妥当な上下の因果関係、すなわち結腸の(原発) がんによる(続発性) 肝がんの記載がある。ルール 1 を適用し、結腸の悪性新生物 (C18.9) を原死因として選ぶ。</p> <p>(注) 1) 表 3 に記載されている部位の新生物がその部位または組織の悪性新生物のリスクを高める病態によるものとして記載されている場合、その新生物は原発性と考えられる (4.2.7.3 節 A (c) 参照)。 2) 表 3 に記載されている部位の悪性新生物が、死亡診断書に記載されている唯一の悪性新生物であり、かつ「転移性」として限定されていない場合、これも原発性と考えられる。</p> <p>(b) その他の形態学的型とともに記載される一般的転移部位 表 3 にある部位の新生物が異なる形態の新生物とともに記載される場合、表 3 にある新生物を続発性、異なる形態のものを原発性とする。次に、選択ルールを通常の方法で適用することによって原死因を選択する。</p> <p>例 37: I (a) 肝臓がん (b) 結腸の腺がん (c) 大腿の皮膚の悪性黒色腫</p> <p>肝臓は表 3 にあり、続発性と考えられる。結腸および皮膚は表 3 になく、いずれも原発性と推定される。しかし、結腸および皮膚の悪性新生物は形態が異なる。そのため、結腸の腺がんが腸の悪性黒色腫によるとは認められない。しかし、(続発性) 肝臓がんは結腸の腺がんによるということはあるため、I</p>	<p>peritoneal cancer as the temporary underlying cause. However, the (secondary) peritoneal cancer is an obvious consequence of the (primary) cancer of breast, see Section 4.2.7.3 A (b). Therefore, apply Rule 3 and select cancer of breast (C50.9) as the underlying cause of death.</p> <p>Example 36: I (a) Cancer of liver (b) Cancer of colon (c) Cancer of bladder</p> <p>Liver is in Table 3 and is considered secondary. Colon and bladder are not in Table 3 and are both assumed to be primary. However, a primary cancer of colon should not be accepted as due to a primary cancer of bladder. There is still an acceptable sequence on the certificate, namely (secondary) liver cancer due to (primary) cancer of colon. Use Rule 1 to select malignant neoplasm of colon (C18.9) as underlying cause of death.</p> <p>Note:</p> <p>1) A neoplasm of a site listed in Table 3 is considered primary when it is reported as due to a condition that increases the risk of a malignancy of that site or tissue, see Section 4.2.7.3 A (c).</p> <p>2) When a malignant neoplasm of one of the sites listed in Table 3 is the only malignant neoplasm mentioned on a death certificate, and it is not qualified as “metastatic”, it is also considered primary.</p> <p>(b) A common site of metastases reported with other morphological types</p> <p>If a neoplasm of a site in Table 3 is reported together with a neoplasm of a different morphology, consider the neoplasm in Table 3 as secondary, and those of a different morphology as primary. Then select the underlying cause by applying the selection rules in the usual way.</p> <p>Example 37: I (a) Liver cancer (b) Adenocarcinoma of colon (c) Malignant melanoma of skin of thigh</p> <p>Liver is in Table 3 and is considered secondary. Colon and skin are not in Table 3 and are both assumed to be primary. However, the colon and skin malignancies are of different morphology. Consequently, adenocarcinoma of colon is not accepted as due to malignant melanoma of intestine. A (secondary) liver cancer, however, can be due to adenocarcinoma of colon, so there is a sequence ending with the liver cancer reported on line I (a). Malignant neoplasm of colon is selected as underlying cause according to Rule 1.</p> <p>Do not regard “liver cancer” as a separate morphology, see Section 4.2.7.3 C (b).</p> <p>(c) All reported sites are on the list of common sites of metastases</p> <p>If all reported sites are in Table 3, they should all be considered secondary. This means that no primary tumour is reported, and the case should be coded to malignant neoplasm of unspecified site (C80.9).</p> <p>Example 38: I (a) Cancer of brain, ribs, pleura, and peritoneum</p> <p>The sites mentioned are all in Table 3 and are all considered secondary. Code</p>



No.	現行	改正案	WHO勧告 (原文)
	<p>例 20: I (a) 転移性脳腫瘍 脳の続発性悪性新生物 (C79.3) にコードする。</p> <p>例 21: I (a) 肺の転移性癌 (腫) 肺の悪性新生物 (C34.9) にコードする。</p> <p>(2) 部位が記載されていないが、形態学的型が転移性のものと考えられる場合には、含まれている特定の形態学的型の原発部位不明のものとしてコードする。</p> <p>例 22: I (a) 転移性燕麦細胞癌 肺の悪性新生物 (C34.9) にコードする。</p> <p>(3) もし、単一の形態学的型および一般的な転移部位 (一般的転移部位リスト参照) 以外の部位が、転移性のものと記載されている場合は、形態学的型および部位に対する特定の分類項目にコードする。</p> <p>例 23: I (a) 腕の転移性黒色腫 この例では、腕の不明確な部位が、C76.-に分類される一般的な転移部位ではなく、黒色腫についての特定の部位であるので、腕の皮膚の黒色腫 (C43.6) にコードする。</p> <p>(4) もし、単一の形態学的型が転移性のものとして記載され、記載された部位が、肺を除く一般的な転移部位 (一般的転移部位リスト参照) の一つならば、その形態学的型に対する「部位不明」にコードする。ただし、明示されない部位が <b>C80</b> (部位の明示されない悪性新生物) に分類される場合を除く。この場合は、記載された部位の続発性悪性新生物にコードする。</p>	<p><u>(a) 欄に記載されている肝臓がんで終わる上下の因果関係がある。ルール 1 に従い、結腸の悪性新生物が原死因として選ばれる。</u></p> <p><u>「肝臓がん」を別の形態とみしてはならない (4.2.7.3 節 C(b) 参照)。</u></p> <p><u>(c) 記載された部位のすべてが一般的転移部位リストに掲載されている</u></p> <p><u>記載された部位がすべて表 3 にある場合、すべて続発性と考えられるべきである。このことは、原発性腫瘍は記載されていないということの意味し、この症例は部位不明の悪性新生物 (C80.9) にコードすべきである。</u></p> <p><u>例 38: I (a) 脳、肋骨、胸膜および腹膜のがん</u></p> <p><u>記載されている部位はすべて表 3 にあり、すべて続発性と考えられる。この症例は、部位不明の悪性新生物 (C80.9) にコードする。</u></p> <p><u>肺が表 3 に記載されているその他の部位とともに記載されている場合には、特殊な指示が適用されるということに注意する。4.2.7.5 節 C を参照。</u></p>	<p><u>the case to malignant neoplasm of unspecified site (C80.9).</u></p> <p><u>Note that special instructions apply to cases where lung is reported with other sites listed in Table 3. See Section 4.2.7.5 C.</u></p>
75	<p>例 24: I (a) 脳の転移性骨肉腫 脳は一般的転移部位リストにあるため、骨の悪性新生物、部位不明 (C41.9) にコードする。</p> <p>(d) 転移性と考えられる複数の悪性新生物</p> <p>(1) 一般的転移部位のリストにはないが、形態学的には同一であっても複数の部位が記載され、それらすべてが「転移性」と考えられる場合は、解剖学的系統の原発部位不明または含まれる形態学的型の原発部位不明のものとしてコードする。</p> <p>例 25: I (a) 前立腺の転移性癌 (腫) (b) 皮膚の転移性癌 (腫) 前立腺の転移性癌 (腫) は皮膚の転移性癌 (腫) に起因するものとは考えられないので、部位の明示されない悪性新生物 (C80) にコードする; 両者とも、おそらくは、(c) 欄に記載されるべき原発部位不明の悪性新生物の転移によるものである</p>	<p><u>C. 特殊な指示: 肺</u></p> <p><u>肺については、転移部位になると同時に、原発性悪性新生物の発生部位にもなる (悪性新生物の転移部位にも原発部位にもなる) という特殊な問題がある。死亡診断書に記載されているその他の新生物の有無や、記載されている他の新生物によって原発性または続発性を判断する。</u></p> <p><u>(a) 肺が原発性新生物の発生部位と考えられる場合</u></p> <p><u>死亡診断書に記載されている唯一の部位が肺である場合、原発性と考えられる。</u></p> <p><u>例 39: I (a) 肺がん</u></p> <p><u>肺が記載されている唯一の部位であるため、肺が原発性と考えられる。一般原則が適用され、原死因として肺がん (C34.9) が選ばれる。</u></p> <p><u>また、肺以外のその他すべての部位が表 3 にある場合、肺が原発性と考えられる。</u></p>	<p><u><b>C. Special instruction: lung</b></u></p> <p><u>The lung poses special problems in that it is a common site for both metastases and primary malignant neoplasms. It is considered primary or secondary, depending on other neoplasms reported on the certificate, if any.</u></p> <p><u>(a) Lung considered a primary neoplasm</u></p> <p><u>If lung is the only site mentioned on the certificate, it is considered primary.</u></p> <p><u>Example 39: I (a) Lung cancer</u></p> <p><u>Lung is the only site mentioned, and therefore lung is considered primary. The General Principle applies and carcinoma of lung (C34.9) is selected as the underlying cause of death.</u></p> <p><u>Also, if all other sites are in Table 3, lung is considered primary.</u></p> <p><u>Example 40: I (a) Cancer of liver</u> <u>(b) Carcinoma of lung</u></p> <p><u>Liver is in Table 3, and therefore lung is considered primary. The General Principle applies and carcinoma of lung (C34.9) is selected as the underlying cause of death.</u></p> <p><u>When a malignant neoplasm of bronchus or bronchogenic cancer is mentioned, this neoplasm should also be considered primary.</u></p>

No.	現行	改正案	WHO勧告 (原文)
	<p>う。</p> <p>例 26: I (a) 胃の転移性癌 (腫)  (b) 乳房の転移性癌 (腫)  (c) 肺の転移性癌 (腫)  乳房と胃とは同一の解剖学的系統には属さず、肺は一般的転移部位リストにあるので、部位の明示されない悪性新生物 (C80) にコードする。</p> <p>(2)もし、異なる組織学的グループに属する複数の形態学的型が、転移性と考えられるならば、独立した (原発性の) 多部位の悪性新生物 (C97) にコードする (上記 F 参照)。</p> <p>例 27: I (a) 腸閉塞  (b) 腸の転移性腺癌  (c) 子宮の転移性肉腫  独立した (原発性の) 多部位の悪性新生物 (C97) にコードする。</p> <p>(3)もし、形態学的型が示唆する部位と独立した解剖学的部位とが、ともに転移性と記載されているならば、部位の明示されない悪性新生物 (C80) にコードする。</p> <p>例 28: I (a) 転移性結腸癌および転移性腎細胞癌  部位の明示されない悪性新生物 (C80) にコードする。</p> <p>(4)もし、同一の形態学的型である複数の部位が記載され、それらのうち一つを除いて、すべてが転移性とされているか、または一般的な転移部位リストにあるならば、記載の順序や I 欄か II 欄かにかかわらず、転移性のものと考えられない部位にコードする。もし、すべての部位が転移性と考えられるか、または一般的な転移部位リストにあるならば、部位の明示されない悪性新生物 (C80) にコードする。</p> <p>例 29: I (a) 胃の転移性癌 (腫)  (b) 胆のう &lt; 嚢 &gt; の癌 (腫)  (c) 結腸の転移性癌 (腫)  胆のう &lt; 嚢 &gt; の悪性新生物 (C23) にコードする。</p> <p>例 30: I (a) 卵巣の転移性癌 (腫)  (b) 肺の癌 (腫)  (c) 転移性子宮頸癌  部位の明示されない悪性新生物 (C80) にコードする。</p> <p>例 31: I (a) 胃の転移性癌 (腫)  (b) 肺の転移性癌 (腫)  II 結腸癌  II 欄の記載であったとしても、転移性と考えられない唯一の診断名であるため、結腸の悪性新生物 (C18.9) にコードする。</p>	<p>例 40: I (a) 肝臓のがん  (b) 肺癌 (腫)    肝臓は表 3 にあるため、肺が原発性と考えられる。一般原則が適用され、肺癌 (腫) (C34.9) が原死因として選ばれる。</p> <p>気管支または気管支原性の悪性新生物の記載がある場合には、この新生物も原発性と考えべきである。</p> <p>例 41: I (a) 気管支の癌 (腫)  (b) 乳房の癌 (腫)    気管支も乳房も表 3 にないため、いずれも原発性と考えられる。一方の原発性新生物をもう一方によるとは認められないため、ルール 2 が適用される。気管支の悪性新生物 (C34.9) を原死因として選ぶ。</p> <p>(注) 肺の新生物が肺がんのリスクを高める病態によるものと記載される場合、肺の新生物を原発性と考えられる (4.2.7.3 節 A (c) 参照)。</p> <p>(b) 肺が続発性新生物の部位と考えられる場合    部位不明の肺の悪性新生物が別の悪性新生物によると記載される場合、肺の新生物は続発性と考えられ、この上下の因果関係は認められる。</p> <p>例 42: I (a) 肺がん  (b) 胃がん    (続発性) 肺がんは胃がんによると認められるため、一般原則によって胃がんが選ばれる。</p> <p>肺が表 3 に記載されていない部位とともに I 欄に記載される場合にはいつでも、肺を続発性と考えべきである。</p> <p>例 43: I (a) 肺および乳房の癌 (腫)    肺癌 (腫) は乳房とともに記載され、乳房は表 3 にないことから、肺癌 (腫) が続発性と考えられる。ルール 3 が適用され、続発性肺癌 (腫) は乳房の癌 (腫) の明らかな結果と考えられる。乳房の悪性新生物 (C50.9) にコードする。</p> <p>(注) 肺の新生物が肺がんのリスクを高める病態によるものと記載される場合、肺の新生物が原発性と考えられる (4.2.7.3 節 A (c) 参照)。</p>	<p><u>Example 41: I (a) Carcinoma of bronchus</u>  <u>(b) Carcinoma of breast</u></p> <p><u>Neither bronchus nor breast are in Table 3, and therefore both are considered primary. One primary neoplasm is not accepted as due to another, and therefore Rule 2 applies. Select malignant neoplasm of bronchus (C34.9) as underlying cause of death.</u></p> <p><u>Note: A neoplasm of lung is considered primary when it is reported as due to a condition that increases the risk of lung cancer, see Section 4.2.7.3 A (c).</u></p> <p><u>(b) Lung considered a secondary neoplasm</u></p> <p><u>If an unspecified malignant neoplasm of lung is reported as due to another malignant neoplasm, the lung neoplasm is considered secondary and the sequence accepted.</u></p> <p><u>Example 42: I (a) Lung cancer</u>  <u>(b) Stomach cancer</u></p> <p><u>Stomach cancer is selected by the General Principle, since (secondary) lung cancer is accepted as due to the stomach cancer.</u></p> <p><u>Lung should also be considered secondary whenever it appears in Part I with sites that are not mentioned in Table 3.</u></p> <p><u>Example 43: I (a) Carcinoma of lung and breast</u></p> <p><u>Lung carcinoma is considered secondary since it is reported with breast, which is not in Table 3. Rule 3 applies, and the secondary lung carcinoma is considered an obvious consequence of the carcinoma of breast. Code to malignant neoplasm of breast (C50.9).</u></p> <p><u>Note: A neoplasm of lung is considered primary when it is reported as due to a condition that increases the risk of lung cancer, see Section 4.2.7.3 A (c).</u></p> <p><u>An unspecified malignant neoplasm of lung should not be considered an obvious consequence of a malignant neoplasm reported elsewhere on the death certificate.</u></p> <p><u>Example 44: I (a) Lung cancer</u>  <u>II Stomach cancer</u></p> <p><u>The lung cancer is not specified as either secondary or metastatic. Therefore, it is not considered an obvious consequence of stomach cancer reported in Part II, and Rule 3 does not apply. Select lung cancer (C34.9) as underlying cause of death, according to the General Principle.</u></p>



No.	現行	改正案	WHO勧告 (原文)
	<p>(5)もし、記載されたすべての部位が、一般的転移部位リストにあるならば、含まれている形態学的型の原発部位不明にコードする。ただし、肺が記載された場合は除く。この場合は、肺の悪性新生物 (C34.-) にコードする。</p> <p>例 32: I (a)肝のがん (b)腹部のがん 両者とも一般的転移部位リストにあるため、部位の明示されない悪性新生物 (C80) にコードする。(腹部は、C76.-に含まれる不明確な部位の一つである)</p>	<p>部位不明の肺の悪性新生物は、死亡診断書の別の場所に記載されている悪性新生物の明らかな結果と考えるべきではない。</p> <p>例 44: I (a) 肺がん II 胃がん</p> <p>肺がんについて、続発性とも転移性とも明示されていない。そのため、II 欄に記載されている胃がんの明らかな結果とは考えられず、ルール 3 は適用されない。一般原則に従い、肺がん (C34.9) を原死因として選ぶ。</p>	
76	<p>例 33: I (a)脳のがん (b)肺のがん この場合は肺原発と考えられ、記載されている唯一のその他の部位である脳が一般的転移部位リストにあるため、肺の悪性新生物 (C34.9) にコードする。</p> <p>(6)もし、記載された部位のうち一つだけが一般的転移部位リストにある部位、または肺であるならば、リストにない部位にコードする。</p> <p>例 34: I (a)肺のがん (b)乳房のがん 乳房は一般的転移部位リストにはなく、肺はこの例では転移部位と考えられるので、乳房の悪性新生物 (C50.9) にコードする。</p>	<p>D. 特殊な指示: リンパ節</p> <p>原発として明示されていないリンパ節の悪性新生物は、続発性と推定するべきである。</p> <p>例 45: I (a) 頸部リンパ節のがん</p> <p>部位不明の悪性新生物 (C80.9) にコードする。頸部リンパ節のがんは、部位不明の原発性悪性新生物の続発と考えられる。</p>	<p><b><u>D. Special instruction: lymph node</u></b></p> <p><u>Malignant neoplasm of lymph nodes not specified as primary should be assumed to be secondary.</u></p> <p><u>Example 45: I (a) Cancer of cervical lymph nodes</u></p> <p><u>Code to malignant neoplasm of unspecified site. (C80.9). The cancer of cervical lymph nodes is considered secondary to an unspecified primary malignant neoplasm.</u></p>
77	<p>(7)もし、記載された部位の一つ以上が、一般的な転移部位 (一般的転移部位リスト参照) であるが、複数の部位または異なる複数の形態学的型が記載されているならば、独立した (原発性の) 多部位の悪性新生物 (C97) にコードする (上記 F 参照)。</p> <p>例 35: I (a)肝のがん (b)膀胱のがん (c)結腸のがん 肝は一般的転移部位リストにあり、さらに二つの独立した部位が記載されているので、独立した (原発性の) 多部位の悪性新生物 (C97) にコードする。</p> <p>(8)もし、転移性と考えられるいくつかの部位と、その他のいくつかの部位とが混合で記載の場合は、多部位の規則に従う (上記 F および下記 H 参照)。</p> <p><b>H 多部位</b></p>	<p><b>4.2.7.6 転移がん</b></p> <p>(注) 「転移性」の表現は、主に英語の問題である。英語を使用しない国々は、4.2.7.6 節については、必要な範囲内で翻訳するべきである。</p> <p>転移性と限定される新生物は、原発性または続発性のいずれでも常に悪性である。</p> <p>しかし、「転移性 (metastic)」という形容詞は、二つの意味に使用されている。ある場合は、他の原発部位から続発したことを意味する形容詞として使用され、ある場合には、転移を起こした原発を意味する形容詞として使用される。</p> <p>(a) 「～からの転移」 (metastatic from) する悪性新生物</p> <p>悪性新生物が、明示された部位「からの転移」 (metastatic from) と記載される場合、その部位を原発性とみなすべきである。</p> <p>例 46: I (a) 卵巣からの転移性奇形腫</p> <p>「卵巣からの転移性奇形腫」という表現は、新生物が卵巣を起点としていることを暗に示している。卵巣の悪性新生物 (C56) にコードする。</p> <p>これは、一般的転移部位リストにある部位にも適用される。</p>	<p><b><u>4.2.7.6 Metastatic cancer</u></b></p> <p><u>Note: The expression "metastatic" is a problem mainly in the English language. Other countries should translate only as much as needed of Section 4.2.7.6.</u></p> <p><u>Neoplasms qualified as metastatic are <b>always</b> malignant, either primary or secondary.</u> <u>However, the adjective "metastatic" is used in two ways, sometimes meaning a secondary from a primary elsewhere and sometimes denoting a primary that has given rise to metastases.</u></p> <p><u>(a) Malignant neoplasm "metastatic from"</u></p> <p><u>If a malignant neoplasm is described as "metastatic from" a specified site, that site should be considered primary.</u></p> <p><u>Example 46: I (a) Metastatic teratoma from ovary</u></p> <p><u>The expression "metastatic teratoma from ovary" implies that the neoplasm originated in the ovary. Code to malignant neoplasm of ovary (C56).</u></p> <p><u>This also applies to sites on the list of common sites of metastases.</u></p> <p><u>Example 47: I (a) Metastatic mesothelioma from peritoneum</u></p> <p><u>A "metastatic mesothelioma from peritoneum" is primary in the peritoneum, although peritoneum is one of the sites listed in Table 3. Code to malignant mesothelioma of peritoneum (C45.1).</u></p>

No.	現行	改正案	WHO勧告 (原文)
	<p>多部位を取り扱う場合は、死亡診断書の I 欄の記載だけを考慮する。</p> <p>もし、死亡診断書に複数の部位の悪性新生物が記載の場合は、原発性と記載された部位または原発性が続発性が示されていない部位を選択する (上記 D, E および F 参照)。</p> <p>原発性と明示された部位を含まない多部位</p> <p>(a) I 欄にある部位のみを考慮するルール H があるが、もし、肺を除く一般的な転移部位の一つが I 欄に記載されており、もう一つの他の部位または形態学的型が、死亡診断書のどこかに記載されてあるならば、前記の一般的な転移部位以外の部位にコードする。しかし、もし、リンパ組織、造血組織または関連組織の悪性新生物が II 欄に記載されたならば、I 欄のみを考慮する。</p> <p>例 36: I (a)胃のがん (b)肝のがん 胃の悪性新生物 (C16.9) にコードする。経過からは肝が原発部位であると見られるが、一般的転移部位である肝からの胃への転移はありそうもないので、胃がんが肝へ転移したものと推定する。</p> <p>例 37: I (a)腹膜がん II 乳癌 腹膜は一般的転移部位リストにあるため、続発性と考えられるので、乳房の悪性新生物 (C50.9) にコードする。</p> <p>(b) 『一つの部位「または」その他の部位』と記載された (または「または」が暗に示唆された) 悪性新生物は、両部位を包含する分類項目にコードする。もし、適当な分類項目がなければ、含まれる形態学的型の部位不明にコードする。このルールは、それらが一般的な転移部位リストにあるかないかにかかわらず、すべてに適用する。</p> <p>例 38: I (a)上行結腸または下行結腸の癌 (腫) 結腸の悪性新生物、部位不明 (C18.9) にコードする。</p> <p>例 39: I (a)腰椎または仙骨の骨肉腫 骨の悪性新生物、詳細不明 (C41.9) にコードする。</p> <p>(c) もし、複数の形態学的型の悪性新生物が、リンパ組織、造血組織または関連組織 (C81-C96) に発生したならば、記載された経過によってコードする。それは、これらの新生物は、C81-C96 の他の分類項目に帰結することが時々あるためである。慢性白血病の急性転化や芽胞発症は慢性型にコードする。</p>	<p>例 47: I (a) 腹膜からの転移性中皮腫 腹膜は表 3 に記載されている部位の一つであるが、「腹膜からの転移性中皮腫」は腹膜が原発部位であること示している。腹膜中皮腫 (C45.1) にコードする。 (b) 「～への転移」 (metastatic to) する悪性新生物 明示された部位「への転移」 (metastatic to) として記載されている悪性新生物は、その部位が一般的転移部位リストにあるか否かにかかわらず、その明示された部位の続発性新生物と解釈するべきである。原発部位が明示されていないければ、原発部位不明の悪性新生物 (C80.9) にコードする。</p> <p>例 48: I (a) 直腸への転移性癌 (腫) 「への転移」という表現は、直腸が続発部位であることを示している。原発部位が示されていないことから、原発部位不明の悪性新生物 (C80.9) を原死因としてコードする。 C40-C47, C49 または C70-C72 に分類できる形態が記載されている場合、その形態学的型の「部位不明」の細分類項目にコードする。</p> <p>例 49: I (a) 脳への転移性骨肉腫 「脳への転移」という表現は、脳が続発部位であることを示している。しかし、骨肉腫は索引表で骨の悪性新生物として掲載されている。骨の悪性新生物、部位不明 (C41.9) を原死因としてコードする。 (c) 部位 A から部位 B への転移性 (metastatic of site A to site B) 悪性新生物 部位 A から部位 B への転移と記載されている悪性新生物は、部位 A を原発、部位 B を続発と解釈するべきである。</p> <p>例 50: I (a) 肝臓から脳への転移性がん II 食道がん 「肝臓から脳への転移性」という表現は、悪性新生物が肝臓で発生し、脳に広がったことを示している。原死因を選択する場合、肝臓の原発性がん (C22.9) にコードする。 肝臓が原発部位であるということが示されていることから、4.2.7.5 節 B (a)における、表 3 にある部位がその他の部位とともに記載された場合の指示は適用されない。食道がんの記載もあるものの、肝臓が原発部位と考えられる。</p>	<p>(b) <u>Malignant neoplasm "metastatic to"</u> A malignant neoplasm described as "metastatic to" a specified site should be interpreted as a secondary neoplasm of the specified site, whether the site is on the list of common sites of metastases or not. Code to malignant neoplasm of unknown primary site (C80.9) if no primary site is indicated. Example 48: I (a) Metastatic carcinoma to the rectum The expression "metastatic to" indicates that rectum is a secondary site. Code malignant neoplasm of unknown primary site (C80.9) as underlying cause of death, since no primary site is indicated If a morphology classifiable to C40-C47, C49, or C70-C72 is reported, code to the "unspecified site" subcategory of that morphological type. Example 49: I (a) Metastatic osteosarcoma to brain The expression "metastatic to brain" indicates that brain is a secondary site. However, the osteosarcoma is indexed to malignant neoplasm of bone in the Alphabetical Index. Code unspecified malignant neoplasm of bone (C41.9) as underlying cause of death. (c) <u>Malignant neoplasm metastatic of site A to site B</u> A malignant neoplasm described as metastatic of site A to site B should be interpreted as primary of site A and secondary of site B. Example 50: I (a) Metastatic cancer of liver to brain II Oesophageal cancer The expression "metastatic of liver to brain" indicates that the malignancy originated in the liver and spread to the brain. When selecting the underlying cause of death, code to primary cancer of liver (C22.9). Since there is an indication that liver is the primary site, the instructions in Section 4.2.7.5 B (a) on sites in Table 3 reported with other sites do not apply. Liver is still considered the primary site, even though oesophageal cancer is also mentioned. (d) <u>"Metastatic" malignant neoplasm on the list of common sites of metastases</u> A "metastatic" neoplasm is considered secondary if the site is on the list of common sites of metastases. Example 51: I (a) Bowel obstruction (b) Metastatic cancer of peritoneum (c) Sarcoma of uterus Metastatic cancer of peritoneum is considered secondary, since peritoneum is in Table 3. Sarcoma of uterus (C55) is selected as underlying cause by the General Principle. Use Rule 3 if applicable. Example 52: I (a) Metastatic cancer of pleura II Cancer of stomach</p>



No.	現行	改正案	WHO勧告 (原文)
	<p>例 40: I (a)急性リンパ球性白血病 (b)非ホジキン&lt;non-Hodgkin&gt;リンパ腫 非ホジキン&lt;non-Hodgkin&gt;リンパ腫 (C85.9) にコードする。</p> <p>例 41: I (a)急性および慢性リンパ球性白血病 慢性リンパ球性白血病 (C91.1) にコードする。</p> <p>同一の器官系における多部位</p> <p>もし、記載された部位が、同一の器官系に属するもので連続しているならば、細分類項目.8を使用する(内容例示表第1章の注5参照)。これは、死亡診断書で、部位が『一つの部位「および」他の部位』のように記載されている場合、または部位がI欄内の別々の欄に記載されている場合に適用される。両部位を包含する細分類項目.8にコードする。記載された部位の連続性について疑問がある場合は、記載された臓器の部位不明にコードする。</p> <p>(a)同一部位内の二つの連続している細部位の記載がある場合は、その3桁分類項目の細分類項目.8にコードする。</p> <p>例 42: I (a)下行結腸およびS状結腸の癌(腫) 結腸の境界部悪性新生物 (C18.8) にコードする。</p> <p>(b)もし、細部位が連続していなければ、その3桁分類項目の細分類項目.9にコードする。</p> <p>例 43: I (a)腓頭部癌 (b)腓尾部癌 腓の悪性新生物、部位不明 (C25.9) にコードする。</p> <p>(c)もし、同一の身体系内の異なる3桁分類項目に区分される二つの連続部位の記載があれば、全身身体系の細分類項目.8にコードする(内容例示表第II章の注5のリスト参照)。</p> <p>例 44: I (a)膾および子宮頸(部)の癌(腫) 女性生殖器の境界部位の悪性新生物 (C57.8) にコードする。</p> <p>(d)もし、死亡診断書に二つの部位が記載され、両者は同一の器官系に属し、同一の形態学的型を示すならば、下記のリストに示すように、その器官系の細分類項目.9にコードする: C26.9 消化器系、部位不明確 C39.9 呼吸器系、部位不明確 C41.9 骨および関節軟骨、部位不明 C49.9 結合組織および軟部組織、部位不明 C57.9 女性生殖器、部位不明</p>	<p>(d) 一般的転移部位リストにある「転移性」悪性新生物</p> <p>「転移性」新生物の部位が一般的転移部位リストにある場合、その新生物を続発とみなす。</p> <p>例 51: I (a) 腸閉塞 (b)腹膜の転移性がん (c)子宮の肉腫</p> <p>腹膜は表3にあることから、腹膜の転移がんは続発と考えられる。一般原則により、子宮の肉腫 (C55) が原死因として選ばれる。</p> <p>該当する場合には、ルール3を適用する。</p> <p>例 52: I (a) 胸膜の転移性がん II 胃がん</p> <p>胸膜がんは転移性と記載されており、続発と考えられる。胃がんも記載されており、原発と考えられる(4.2.7.3節A(b)参照)。まず、一般原則を適用し、胸膜がんを暫定的な原死因として選ぶ。しかし、ルール3に従って、(続発性)胸膜がんは明らかに(原発性)胃がんの結果と考えられる。原死因として胃がん (C16.9) を選択する。</p> <p>死亡診断書に他の新生物が記載されていなくても、表3にある部位の新生物は続発とみなす。続発性悪性新生物は、原死因として選択すべきでないということに注意する。原発性腫瘍が記載されていなければ、その症例を部位不明の悪性新生物 (C80.9) にコードする。</p> <p>例 53: I (a) 転移性脳腫瘍</p> <p>脳は表3にある部位の一つで、「転移性」脳腫瘍は続発とみなされる。原発性新生物は記載されていない。そのため、原発部位不明の悪性新生物 (C80.9) にコードする。</p> <p>(注)表3に記載されている部位の新生物がその部位または組織の悪性新生物のリスクを高める病態によるものとして記載されている場合、その新生物は原発性とみなす(4.2.7.3節A(c)参照)。</p> <p>(e) 一般的転移部位リストにない「転移性」悪性新生物</p> <p>一般的転移部位リストにない部位が「転移性」または「～の転移性」として特定されている場合、その部位を原発とみなし、その部位の原発性悪性新生物にコードする。</p> <p>例 54: I (a) 子宮頸がん、転移性</p>	<p>The pleura cancer is described as metastatic and is considered secondary. Stomach cancer is also reported and is considered primary (see Section 4.2.7.3 A (b)). First, apply the General Principle to select the pleural cancer as the temporary underlying cause. However, (secondary) pleura cancer is considered an obvious consequence of (primary) stomach cancer, according to Rule 3. Stomach cancer (C16.9) is selected as underlying cause of death.</p> <p>A neoplasm of a site in Table 3 is considered secondary, even if no other neoplasm is mentioned on the certificate. Note that a secondary malignant neoplasm should not be selected as the underlying cause of death. If no primary tumour is reported, code the case to malignant neoplasm of unspecified site (C80.9).</p> <p>Example 53: I (a) Metastatic brain cancer</p> <p>Brain is one of the sites in Table 3, and the “metastatic” brain cancer is considered secondary. There is no primary neoplasm reported. Therefore, code to malignant neoplasm of unknown primary site (C80.9).</p> <p>Note: A neoplasm of a site listed in Table 3 is considered primary when it is reported as due to a condition that increases the risk of a malignancy of that site or tissue, see Section 4.2.7.3 A (c).</p> <p>(e) “Metastatic” malignant neoplasm not on the list of common sites of metastases</p> <p>If a site that is not on the list of common sites of metastases is qualified as “metastatic” or “metastatic of”, consider it primary and code to malignant primary of that particular site.</p> <p>Example 54: I (a) Cervix cancer, metastatic</p> <p>Cervix is not in Table 3, and the “metastatic” cervix cancer is therefore considered primary. Code to malignant neoplasm of cervix (C53.9).</p> <p>Apply the selection rules in the usual way.</p> <p>Example 55: I (a) Metastatic adenocarcinoma of prostate (b) Metastatic adenocarcinoma of colon</p> <p>Prostate and colon are not in Table 3, and both neoplasms are considered primary. One primary neoplasm is not accepted as due to another. Rule 2 applies, and malignant neoplasm of prostate (C61) is selected as underlying cause.</p> <p>(f) “Metastatic” cancer of lung</p> <p>If the only malignancy mentioned is “metastatic” neoplasm of lung, code to primary malignant neoplasm of lung.</p> <p>Example 56: I (a) Metastatic carcinoma of lung</p> <p>Code to primary malignant neoplasm of lung (C34.9) since no other site is mentioned.</p> <p>Also consider a “metastatic” neoplasm of lung primary, if all other neoplasm</p>

No.	現行	改正案	WHO勧告 (原文)
	<p>C63.9 男性生殖器、部位不明 C68.9 尿路、部位不明 C72.9 中枢神経系、部位不明</p> <p>例 45: I (a)肺塞栓症 (b)胃のがん (c)胆嚢のがん 消化器系、部位不明確 (C26.9) にコードする。</p> <p>(e) もし、細分類項目.8 または.9 が使用できなければ、独立した (原発性の) 多部位の悪性新生物 (C97) にコードする。</p> <p>例 46: I (a)心停止 (b)前立腺および膀胱の癌 (腫) 細分類項目.8 が使用できないので、独立した (原発性の) 多部位の悪性新生物 (C97) にコードする。</p>	<p><u>子宮頸部は表 3 にないため、「転移性」子宮頸がんを原発性とみなす。子宮頸部の悪性新生物 (C53.9) にコードする。</u></p> <p><u>選択ルールを通常の方法で適用する。</u></p> <p>例 55: I (a) 前立腺の転移性腺がん (b) 結腸の転移性腺がん</p> <p><u>前立腺および結腸は表 3 になく、いずれの新生物も原発性とみなされる。一方の原発性新生物がもう一方によるとは考えない。ルール 2 を適用して、前立腺の悪性新生物 (C61) を原死因として選択する。</u></p> <p><u>(f) 肺の「転移性」がん</u></p> <p><u>記載されている唯一の悪性新生物が肺の「転移性」新生物である場合、肺の原発性悪性新生物にコードする。</u></p> <p>例 56: I (a) 肺の転移癌 (腫)</p> <p><u>他の部位が記載されていないため、肺の原発性悪性新生物 (C34.9) にコードする。</u></p> <p><u>また、死亡診断書に記載されているその他の新生物が、いずれも一般的転移部位リストにある場合も、肺の「転移性」新生物を原発性と考える。</u></p> <p>例 57: I (a) 肺の転移性がん II 胸膜、肝臓および脳のがん</p> <p><u>胸膜、肝臓および脳はすべて表 3 に掲載されているため、「肺の転移性がん」を原発性と考えられる。肺の悪性新生物 (C34.9) を原死因として選ぶ。</u></p> <p><u>別の悪性新生物が死亡診断書に記載され、その悪性新生物の部位が一般的転移部位リストにない場合、肺を続発と考える。</u></p> <p>例 58: I (a) 肺の転移性がん II 胃がん</p> <p><u>胃がんが記載されていることから、「肺の転移性がん」は続発性と考えられる。まず、一般原則を用い、(続発性)肺がんを暫定的な原死因として選ぶ。次に、ルール 3 を適用し、肺の(続発性)がんは、II 欄に記載されている胃がんの明らかな結果と考える。胃がん (C16) を原死因として選ぶ。</u></p> <p>(注) 肺の新生物が肺がんのリスクを高める病態によるものと記載さ</p>	<p><u>sites reported on the death certificate are on the list of common sites of metastases.</u></p> <p><u>Example 57: I (a) Metastatic cancer of lung II Cancer of pleura, liver and brain</u></p> <p><u>“Metastatic cancer of lung” is considered primary, since pleura, liver, and brain are all in Table 3. Select malignant neoplasm of lung (C34.9) as underlying cause of death.</u></p> <p><u>If another malignancy is mentioned that is not on the list of common sites of metastases, consider lung secondary.</u></p> <p><u>Example 58: I (a) Metastatic cancer of lung II Stomach cancer</u></p> <p><u>Since stomach cancer is also mentioned, “metastatic cancer of lung” is considered secondary. First use the General Principle to select the (secondary) lung cancer as the temporary underlying cause. Then apply Rule 3, and consider (secondary) cancer of lung an obvious consequence of the stomach cancer mentioned in Part II. Select stomach cancer (C16.9) as the underlying cause of death.</u></p> <p><u>Note: A neoplasm of lung is considered primary when it is reported as due to a condition that increases the risk of lung cancer, see Section 4.2.7.3 A (c).</u></p> <p><u>(g) “Metastatic” neoplasm of a specific morphology</u></p> <p><u>If the morphological type is classifiable to C40-C47, C49, or C70-C72 and the site reported on the certificate indicates the same type of tissue, code to the appropriate subcategory for the morphological type.</u></p> <p><u>Example 59: I (a) Metastatic osteosarcoma of femur Code to malignant neoplasm of long bones of lower limb (C40.2).</u></p> <p><u>If the morphological type is classifiable to C40-C47, C49, or C70-C72 and the site reported on the certificate indicates a different type of tissue, code to the unspecified site for the morphological type.</u></p> <p><u>Example 60: I (a) Metastatic rhabdomyosarcoma (b) of hilar lymph nodes Code to unspecified site for rhabdomyosarcoma (C49.9).</u></p>



No.	現行	改正案	WHO勧告 (原文)
		<p>れる場合、肺の新生物が原発性と考えられる (4.2.7.3 節 A (c) 参照)。</p> <p>(g) 特定の形態の「転移性」新生物</p> <p>形態学的型が C40–C47、C49 または C70–C72 に分類できるので、死亡診断書に記載されている部位が同じ種類の組織を示す場合、その形態学的型の適した細分類項目にコードする。</p> <p>例 59: I (a) 大腿骨の転移性骨肉腫</p> <p>下肢の長骨の悪性新生物 (C40.2) にコードする。</p> <p>形態学的型が C40–C47、C49 または C70–C72 に分類できるので、死亡診断書に記載されている部位が異なる種類の組織を示す場合、その形態学的型の部位不明にコードする。</p> <p>例 60: I (a) 転移性横紋筋肉腫 (b) 肺門リンパ節のもの</p> <p>横紋筋肉腫, 部位不明 (C49.9) にコードする。</p>	
78		<p><b>4.2.7.7 接頭辞または不明確な定義を持つ部位</b></p> <p>「周囲」、「傍」、「前」、「上」、「下」等の接頭語がついている部位の新生物、または部位の「範囲」もしくは「領域」にあると記載されている新生物は、これらの用語が特に指示されていなければ、下記のようにコードすべきである：</p> <p>下記の分類項目の一つに分類される悪性新生物について：</p> <p>C40、C41 (骨および関節軟骨)</p> <p>C43 (皮膚の悪性黒色腫)</p> <p>C44 (皮膚のその他の悪性新生物)</p> <p>C45 (中皮腫)</p> <p>C46 (カポジ&lt;Kaposi&gt;肉腫)</p> <p>C47 (末梢神経および自律神経系)</p> <p>C49 (結合組織および軟部組織)</p> <p>C70 (髄膜)</p> <p>C71 (脳)</p> <p>C72 (中枢神経系のその他の部分)</p> <p>その分類項目の適切な細分類項目にコードする。</p> <p>例 61: I (a) 膵臓領域における線維肉腫</p> <p>腹部の結合組織および軟部組織の悪性新生物 (C49.4) にコードする。</p> <p>例 62: I (a) 横隔膜周囲血管筋肉腫</p>	<p><b>4.2.7.7 Sites with prefixes or imprecise definitions</b></p> <p>Neoplasms of sites prefixed by "peri," "para," "pre," "supra," "infra," etc. or described as in the "area" or "region" of a site, unless these terms are specifically indexed, should be coded as follows:</p> <p>For malignant neoplasms classifiable to one of the categories</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>- C40, C41 (bone and articular cartilage),</li> <li>- C43 (malignant melanoma of skin),</li> <li>- C44 (other malignant neoplasms of skin),</li> <li>- C45 (mesothelioma),</li> <li>- C46 (Kaposi's sarcoma),</li> <li>- C47 (peripheral nerves and autonomic nervous system),</li> <li>- C49 (connective and soft tissue),</li> <li>- C70 (meninges),</li> <li>- C71 (brain),</li> <li>- C72 (other parts of central nervous system),</li> </ul> <p>code to the appropriate subdivision of that category</p> <p>Example 61: I (a) Fibrosarcoma in the region of the pancreas</p> <p>Code to malignant neoplasm of connective and soft tissue of abdomen (C49.4).</p> <p>Example 62: I (a) Peridiaphragmatic angiosarcoma</p> <p>Code to malignant neoplasm of connective and soft tissue of thorax (C49.3).</p> <p>For other morphological types code to the appropriate subdivision of C76 (other and ill-defined sites).</p> <p>Example 63: I (a) Carcinoma in the lung area</p>

No.	現行	改正案	WHO勧告 (原文)
		<p><u>胸郭の結合組織および軟部組織の悪性新生物 (C49.3) にコードする。</u></p> <p><u>その他の形態学的型については、C76 (その他および部位不明の悪性新生物) の適切な細分類項目にコードする。</u></p> <p>例 63: I (a) <u>肺領域における癌 (腫)</u></p> <p><u>胸郭内のその他および部位不明の悪性新生物 (C76.1) にコードする。</u></p> <p>例 64: I (a) <u>傍脊椎がん</u></p> <p><u>その他の不明確の部位の悪性新生物 (C76.7) にコードする。</u></p> <p>例 65: I (a) <u>悪性新生物、横隔膜下</u></p> <p><u>腹部の悪性新生物 (C76.2) にコードする。</u></p>	<p><u>Code to malignant neoplasm of other and ill-defined sites within the thorax. (C76.1)</u></p> <p><u>Example 64: I (a) Paravertebral carcinoma</u></p> <p><u>Code to malignant neoplasm of other ill-defined sites (C76.7).</u></p> <p><u>Example 65: I (a) Malignant neoplasm, infradiaphragmal</u></p> <p><u>Code to malignant neoplasm of abdomen (C76.2).</u></p>
79		<p><b>4.2.7.8 部位不明の悪性新生物で他の病態の記載を伴うもの</b></p> <p><u>原発性の悪性新生物の部位が明示されていない場合、穿孔、閉塞、または出血のような他の記載された病態の場所から、その部位の推定を行ってはならない。これらの病態は、実際の新生物と無関係な部位に生じる可能性がある。たとえば、腸閉塞は卵巣悪性腫瘍の進展によって引き起こされたかもしれない。</u></p> <p>例 66: I (a) <u>腸閉塞</u> <u>(b) 癌 (腫)</u></p> <p><u>部位の明示されない悪性新生物 (C80.9) にコードする。</u></p> <p>例 67: I (a) <u>呼吸不全</u> <u>(b) 気管の閉塞</u> <u>(c) 悪性新生物</u></p> <p><u>部位の明示されない悪性新生物 (C80.9) にコードする。</u></p>	<p><b>4.2.7.8 Malignant neoplasms of unspecified site with other reported conditions</b></p> <p><u>When the site of a primary malignant neoplasm is not specified, no assumption of the site should be made from the location of other reported conditions such as perforation, obstruction, or haemorrhage. These conditions may arise in sites unrelated to the neoplasm, e.g. intestinal obstruction may be caused by the spread of an ovarian malignancy.</u></p> <p><u>Example 66: I (a) Obstruction of intestine</u> <u>(b) Carcinoma</u></p> <p><u>Code to malignant neoplasm without specification of site (C80.9).</u></p> <p><u>Example 67: I (a) Respiratory insufficiency</u> <u>(b) Obstruction of trachea</u> <u>(c) Malignancy</u></p> <p><u>Code to malignant neoplasm without specification of site (C80.9).</u></p>
80	<p><b>I 感染症および悪性新生物</b></p> <p>(a) 免疫系に作用する化学療法の効果により、何人かの癌患者が感染症にかかりやすくなり、これにより死亡する。したがって、がん「による」と記載された A00-B19 または B25-B64 に分類されるあらゆる感染症は、I 欄または II 欄のどちらの欄にあっても、上下の因果関係として受け入れられる。</p>	<p><b>4.2.7.9 感染症および悪性新生物</b></p> <p>(a) <u>悪性新生物による感染症</u></p> <p><u>免疫系に作用する化学療法の効果により、がん患者の中には感染症にかかりやすくなり、これにより死亡する場合もある。したがって、がん「による」と記載され、A00-B19 または B25-B64 に分類される感染症は、妥当な上下の因果関係となる。</u></p>	<p><b>4.2.7.9 Infectious diseases and malignant neoplasms</b></p> <p>(a) <u>Infections due to malignant neoplasm</u></p> <p><u>Owing to the effect of chemotherapy on the immune system, some cancer patients become prone to infectious diseases and die of them. Therefore, any infectious disease classified to A00-B19 or B25-B64 reported as "due to" cancer will be an acceptable sequence.</u></p> <p><u>Example 68: I (a) Zoster</u></p>

No.	現行	改正案	WHO勧告 (原文)
	<p>例 47: I (a) 帯状疱疹 (b) 慢性リンパ球性白血病 慢性リンパ球性白血病 (C91.1) にコードする。</p> <p>(b) ヒト免疫不全ウイルス [HIV] 病を除き、感染症および寄生虫は、悪性新生物の原因としては受け入れられない。</p> <p>例 48: I (a) 細胞癌 (b) B 型肝炎ウイルス 肝細胞癌 (C22.0) にコードする。</p> <p>例 49: I (a) バーキット&lt;Burkitt&gt; 腫瘍 (b) エプスタイン・バル&lt;Epstein-Barr&gt; ウイルス バーネット&lt;Burkitt&gt; 腫瘍 (C83.7) にコードする。</p> <p>例 50: I (a) 肝の胆管細胞癌 (b) 肝吸虫症 肝内胆管の悪性新生物 (C22.1) にコードする。</p>	<p>例 68: I (a) 帯状疱疹 (b) 慢性リンパ球性白血病</p> <p>慢性リンパ球性白血病は帯状疱疹感染症を引き起こしうる。この上下の因果関係は認められるもので、慢性リンパ球性白血病 (C91.1) が原死因として選ばれる。</p> <p>(b) 感染症による悪性新生物</p> <p>例えばヒトパピローマウイルスと子宮頸がん、または慢性 C 型肝炎ウイルス感染と肝臓がんなど、いくつかの感染症と特定のがんとの間に強い因果関係を示す証拠がある。しかし、このような危険因子は、死亡診断書では十分に報告されない。人口動態統計と公衆衛生の観点からは、その原因にかかわらず、特定のがんによる死亡をすべて計上できることが重要であるとされている。そのため、ヒト免疫不全ウイルス [HIV] 病を除き、いかなる感染症または寄生虫も悪性新生物を引き起こすものとして認められるべきではない。</p> <p>例 69: I (a) 肝細胞癌 (腫) (b) B 型肝炎ウイルス</p> <p>B 型肝炎は肝臓がんのリスクを高める。しかし、肝臓がんによる死亡数を登録することがより重要であると考えられ、この上下の因果関係は認められない。ルール 2 を用いて肝細胞がん (C22.0) を原死因として選ぶ。</p> <p>例 70: I (a) カポジ&lt;Kaposi&gt; 肉腫 (b) HIV</p> <p>HIV は悪性新生物を引き起こすものとして認められる。まず、一般原則を用いて HIV を暫定的な原死因として選ぶ。次にルール C (連鎖) を用いてカポジ&lt;Kaposi&gt; 肉腫を起こした HIV 病 (B21.0) を原死因としてコードする。</p>	<p>(b) Chronic lymphocytic leukaemia</p> <p><u>Chronic lymphocytic leukaemia could cause a zoster infection. The sequence is accepted, and chronic lymphocytic leukaemia (C91.1) is selected as the underlying cause of death.</u></p> <p>(b) <u>Malignant neoplasm due to infections</u></p> <p><u>There is evidence for strong aetiological links between some infections and particular cancers, e.g., human papilloma virus and cervical cancer, or chronic hepatitis C viral infection and liver cancer. However, reporting of such risk factors on death certificates is incomplete. For purposes of vital statistics and public health it is regarded as important to be able to count all the deaths due to particular cancers, whatever their causal factors. Therefore, except for human immunodeficiency virus [HIV] disease, no infectious or parasitic disease should be accepted as causing a malignant neoplasm.</u></p> <p><u>Example 69: I (a) Hepatocellular carcinoma (b) Hepatitis B virus</u></p> <p><u>Hepatitis B increases the risk of liver cancer. However, it is considered more important to register the number of liver cancer deaths, and the sequence is not accepted. Use Rule 2 to select hepatocellular carcinoma (C22.0) as underlying cause of death.</u></p> <p><u>Example 70: I (a) Kaposi's sarcoma (b) HIV</u></p> <p><u>HIV is accepted as causing malignant neoplasms. First, use the General Principle to select HIV as the temporary underlying cause. Then use Rule C (Linkage) to code HIV disease resulting in Kaposi's sarcoma (B21.0) as underlying cause of death.</u></p>
81	<p><b>J 悪性新生物および循環器疾患</b></p> <p>下記の急性または致命的な循環器疾患は、死亡診断書の I 欄で、悪性新生物によるものとして受け入れる：</p> <p>I 21- I 22 急性心筋梗塞 I 24.- その他の急性虚血性心疾患 I 26.- 肺塞栓症 I 30.- 急性心膜炎 I 33.- 急性および亜急性心内膜炎 I 40.- 急性心虚炎 I 44.- 房室ブロックおよび左脚ブロック</p>	<p><b>4.2.7.10 悪性新生物および循環器疾患</b></p> <p>下記の急性または致命的な循環器疾患は、I 欄で「～による」との上下の因果関係で示されている場合、悪性新生物によるものと認められる：</p> <p><u>I 21- I 22 急性心筋梗塞</u> <u>I 24.- その他の急性虚血性心疾患</u> <u>I 26.- 肺塞栓症</u> <u>I 30.- 急性心膜炎</u> <u>I 33.- 急性および亜急性心内膜炎</u> <u>I 40.- 急性心虚炎</u></p>	<p><b>4.2.7.10 Malignant neoplasms and circulatory disease</b></p> <p><u>The following acute or fatal circulatory diseases will be accepted as due to malignant neoplasms, if certified in a "due to" sequence in Part I:</u></p> <p>I21-I22 Acute myocardial infarction I24.- Other acute ischaemic heart diseases I26.- Pulmonary embolism I30.- Acute pericarditis I33.- Acute and subacute endocarditis I40.- Acute myocarditis I44.- Atrioventricular and left bundle-branch block I45.- Other conduction disorders I46.- Cardiac arrest I47.- Paroxysmal tachycardia</p>

No.	現行	改正案	WHO勧告 (原文)
	<p>I 45.- その他の伝導障害  I 46.- 心停止  I 47.- 発作性頻拍 (症)  I 48 心房細動および粗動  I 49.- その他の不整脈  I 50.- 心不全  I 51.8 その他の診断名不明確な心疾患  I 60 – I 69 脳血管疾患, I 67.0 – I 67.5, I 67.9, I 69.-を除く</p> <p>下記の循環器疾患は、悪性新生物によるものとしては受け入れられない：</p> <p>I 00 – I 09 リウマチ熱およびリウマチ性心疾患  I 10 – I 15 高血圧性疾患 (内分泌系の新生物、腎の新生物およびカルチノイド腫瘍  (によると記載された場合を除く)  I 20.- 狭心症  I 25.- 慢性虚血性心疾患  I 70.- アテローム&lt;じゅく&lt;粥&gt;状&gt;硬化 (症)</p>	<p>I44.- 房室ブロックおよび左脚ブロック  I45.- その他の伝導障害  I46.- 心停止  I47.- 発作性頻拍 (症)  I48 心房細動および粗動  I49.- その他の不整脈  I50.- 心不全  I51.8 その他の診断名不明確な心疾患  I60 – I69 I67.0 – I67.5, I67.9, I69.-以外の脳血管疾患</p> <p>下記の循環器疾患は、悪性新生物「による」ものと認められない：</p> <p>I00 – I09 リウマチ熱およびリウマチ性心疾患  I10 – I15 高血圧疾患 (内分泌系の新生物、腎の新生物およびカルチノイド腫瘍による  と記載された場合を除く)  I20.- 狭心症  I25.- 慢性虚血性心疾患  I70.- アテローム&lt;じゅく&lt;粥&gt;状&gt;硬化 (症)</p>	<p>I48 Atrial fibrillation and flutter  I49.- Other cardiac arrhythmias  I50.- Heart failure  I51.8 Other ill-defined heart diseases  I60-I69 Cerebrovascular diseases, except I67.0-I67.5, I67.9, I69.-</p> <p>The following circulatory diseases will not be accepted as due to malignant neoplasms:</p> <p>I00-I09 Rheumatic fever and rheumatic heart disease  I10-I15 Hypertensive disease (except when reported as due to endocrine neoplasms, renal neoplasms and carcinoid tumours)  I20.- Angina pectoris  I25.- Chronic ischaemic heart disease  I70.- Atherosclerosis</p>
82		<p><b>4.2.8 複数の種類の薬物使用の関与</b></p> <p>F10 – F19 または F55 に分類される病態が原因として選ばれており、死亡診断書に F10 – F19 または F55 に分類されるその他の病態が一つまたは複数記載されている場合は、下記のように処理する：</p> <p>i) 死因と明示されている病態が一つある場合は、その病態にコードする。</p> <p>ii) <b>主たる死因と明示されている単独の病態がない場合は、死亡診断書作成者 (医師) の確認を取るべきである。</b></p> <p>iii) そうした確認が取れない場合、下記の優先順位に従って原因を選択する：</p> <p>1) <u>アヘン類使用による精神および行動の障害 (F11)</u></p> <p>2) <u>コカイン使用による精神および行動の障害 (F14)</u></p> <p>3) <u>カフェインを含むその他の精神刺激薬使用による精神および行動の障害 (F15)</u></p> <p>4) <u>F19 における合成麻薬の使用による精神および行動の障害</u></p> <p>5) <u>F55 における抗うつ薬および非オピオイド系鎮痛薬の乱用</u></p>	<p><b>4.2.8 Involvement of multiple types of substance use</b>  If a condition classifiable to F10-F19 or F55 is selected as underlying cause, and one or more other conditions also classified to F10-F19 or F55 are mentioned on the death certificate, proceed as follows:  i) If one condition is specified as the cause of death, code to that condition.  <b>ii) When no single condition is specified as the main cause of death, clarification should be sought from the certifier.</b>  iii) When no such clarification can be obtained, select the underlying cause in the following order of priority:  1) <u>Mental and behavioural disorders due to use of opioids (F11)</u>  2) <u>Mental and behavioural disorders due to use of cocaine (F14)</u>  3) <u>Mental and behavioural disorders due to use of other stimulants, including caffeine (F15)</u>  4) <u>Mental and behavioural disorders due to use of synthetic narcotics, in F19</u>  5) <u>Abuse of antidepressants and non-opioid analgesics, in F55</u>  6) <u>Mental and behavioural disorders due to use of cannabinoids (F12), Mental and behavioural disorders due to use of sedatives and hypnotics (F13), Mental and behavioural disorders due to use of hallucinogens (F16), Mental and behavioural disorders due to use of tobacco (F17), Mental and behavioural disorders due to use of volatile solvents (F18), Mental and behavioural disorders due to use of substances other than synthetic narcotics classified to F19, Abuse of non-dependence-producing substances other than antidepressants and non-opioid analgesics classified to F55.</u>  7) <u>Mental and behavioural disorders due to use of alcohol (F10)</u>  If the death certificate reports more than one mental and behavioural disorder in the same priority group, code to first mentioned.</p>



No.	現行	改正案	WHO勧告 (原文)
		<p>6) <u>大麻類使用による精神および行動の障害 (F12)、鎮静薬または催眠薬使用による精神および行動の障害 (F13)、幻覚薬使用による精神および行動の障害 (F16)、タバコ使用&lt;喫煙&gt;による精神および行動の障害 (F17)、揮発性溶剤使用による精神および行動の障害 (F18)、F19 に分類される合成麻薬以外の物質使用による精神および行動の障害、F55 に分類される抗うつ薬および非オピオイド系鎮痛薬以外の依存を生じない物質の乱用</u></p> <p>7) <u>アルコール使用&lt;飲酒&gt;による精神および行動の障害 (F10)</u></p> <p>死亡診断書に同じ優先順位に属する精神および行動の障害が複数記載されている場合は、最初に記載されたものをコードする。</p>	
83	<b>4.2.8 心臓併発症を伴うリウマチ熱</b>	<b>4.2.89 心臓併発症を伴うリウマチ熱</b>	<b>4.2.9 Rheumatic fever with heart involvement</b>
84	<p><b>4.2.11 薬物、薬剤および生物学的製剤による中毒</b></p> <p>異なる分類項目に分類される医薬品が組み合わされている場合は、下記のように処理する：</p> <p>A) 原死因の選択</p> <p>i) もし、その配合剤の一つの成分が、死因として明示されたならば、その成分にコードする。</p> <p>例： I (a)アンフェタミンによる中毒 II 中毒レベルのヘロインならびにフルニトラゼパム</p> <p>アンフェタミンによる不慮の中毒 (X41) にコードする。I 欄でアンフェタミン中毒のみと位置付け、II 欄で記載することによって、死亡診断書の作成者 (医師) はアンフェタミンが死を引き起こした最重要物質と判断する。</p> <p>例： I (a)アルコールによる中毒 II 中毒レベルのヘロインならびにフルニトラゼパム</p> <p>アルコールによる不慮の中毒 (X45) にコードする。I 欄でアルコール中毒のみと位置付け、II 欄で他の物質は死因の一因となりうると記載することによって、死亡診断書の作成者 (医師) はアルコールが死を引き起こした最重要物質と判断する。</p> <p>例： I (a)ヘロインによる中毒 II アルコールならびにフルニトラゼパムの中毒レベル</p> <p>ヘロインによる不慮の中毒 (X42) にコードする。I 欄でヘロ</p>	<p><b>4.2.1112 薬物、薬剤および生物学的製剤による中毒</b></p> <p>異なる分類項目に分類される医薬品が組み合わされている場合は、下記のように処理する：</p> <p>A) 原死因の選択</p> <p>i) もし、その配合剤の一つの成分が、死因として明示されたならば、その成分にコードする。</p> <p>例 5： I (a)アンフェタミンによる中毒 II 中毒レベルのヘロインならびにフルニトラゼパム</p> <p>アンフェタミンによる不慮の中毒 (X41) にコードする。I 欄でアンフェタミン中毒のみと位置付け、II 欄で記載することによって、死亡診断書の作成者 (医師) はアンフェタミンが死を引き起こした最重要物質と判断する。</p> <p>例 6： I (a)アルコールによる中毒 II 中毒レベルのヘロインならびにフルニトラゼパム</p> <p>アルコールによる不慮の中毒 (X45) にコードする。I 欄でアルコール中毒のみと位置付け、II 欄で他の物質は死因の一因となりうると記載することによって、死亡診断書の作成者 (医師) はアルコールが死を引き起こした最重要物質と判断する。</p> <p>例 7： I (a)ヘロインによる中毒 II アルコールならびにフルニトラゼパムの中毒レベル</p> <p>ヘロインによる不慮の中毒 (X42) にコードする。I 欄でヘロ</p>	<p><b>4.2.1112 Poisoning by drugs, medicaments and biological substances</b> When combinations of medicinal agents classified differently are involved, proceed as follows: A) Selection of the underlying cause of death i) If one component of the combination is specified as the cause of death, code to that component. Ex.: I(a) Poisoning by amphetamine II Toxic levels of heroin and flunitrazepam Code to accidental poisoning by amphetamine (X41). By placing amphetamine poisoning alone in Part I and reporting the other substances as contributing causes of death in Part II, the certifier has identified amphetamine as the most important substance in bringing about the death. Ex.: I(a) Poisoning by alcohol II Toxic levels of heroin and flunitrazepam Code to accidental poisoning by alcohol (X45). By placing alcohol poisoning alone in Part I and reporting the other substances as contributing causes of death in Part II, the certifier has identified alcohol as the most important substance in bringing about the death. Ex.: I(a) Poisoning by heroin II Toxic levels of alcohol and flunitrazepam Code to accidental poisoning by heroin (X42). By placing heroin poisoning alone in Part I and reporting the other substances as contributing causes of death, the certifier has identified heroin as the most important substance in bringing about the death. ii) When no component is specified as the main cause of death, clarification should be sought from the certifier. iii) When no such clarification can be obtained, code combinations of alcohol with a drug to the drug. For other multi-drug deaths, code to the appropriate category for "Other". <u>iv) When F10-F19 is reported on the same record with a poisoning, proceed as follows:</u> <u>F10-F19 Mental and behavioural disorders due to psychoactive substance use with mention of:</u> <u>X40-X49 Accidental poisoning by and exposure to noxious substances, code X40-X49</u> <u>X60-X69 Intentional self-poisoning by and exposure to noxious substances, code X60-X69</u> <u>X85-X90 Assault by noxious substances, code X85-X90</u></p>

No.	現行	改正案	WHO勧告 (原文)
	<p>イン中毒のみと位置付け、他の物質は死因の一因となりうると記載することによって、死亡診断書の作成者（医師）はヘロインが死を引き起こした最重要物質と判断する。</p> <p>ii) 主たる死因の成分が明示されていない場合は、死亡診断書の作成者（医師）から説明を求めるべきである。</p> <p>iii) そのような説明が得られない場合、アルコールと他の薬物との配合剤をコードする。その他の多くの薬剤が死因の場合、「その他」のコードを当てる。</p> <p>B) 最も危険な薬物の同定</p> <p>さまざまな薬剤による死亡について、最も有用な統計を出すために一番重要なのは、原死因に加えて最も危険な薬物の同定を行うことである。最も危険な薬物を選択したら、次の要領に従う。</p> <p>もし配合剤の成分が死因として推定されたら、その成分にコードする。もし単一成分を死因とすることができないときは、アルコールと薬物の配合剤の場合は、薬物にコードする。分類に配合剤の項目があれば、その薬物の配合剤にコードする。もし、配合剤の適切な分類項目がなければ、以下に示す優先順位に従って、コードをつける。分類中に、たとえば、抗てんかん薬の配合剤（T42.5）など、薬物の配合剤に対して、特定の分類項目が規定されている場合は、その項目にコードする。もし、適切な配合剤分類項目がない場合は、下記の優先順位に従って主たる損傷コードを選択する。</p> <p>1. オピオイド（T40.0-T40.2） T40.0-T40.2 の複数の 4 桁細分類項目に分類可能なオピオイドを含む配合剤: T40.2 にコードする。</p> <p>2. コカイン（T40.5）</p> <p>3. 乱用される可能性のある興奮薬（T43.6） 包含：アンフェタミンならびにその誘導体</p> <p>4. 合成麻薬ならびにその他の詳細不明の麻薬（T40.3-T40.4、T40.6） T40.3-T40.4 の複数の 4 桁細分類項目に分類可能な合成麻薬を含む配合剤: T40.4 にコードする。 T40.3-T40.4 の複数の 4 桁細分類項目に分類可能な合成麻薬、および T40.6 に分類可能なその他の詳細不明な麻薬を含む配合剤: T40.6 にコードする。</p> <p>5. 抗うつ薬（T43.0-T43.2） T43.0-T43.2 の複数の 4 桁細分類項目に分類可能な抗うつ薬を含む配合剤: T43.2 にコードする。</p>	<p>イン中毒のみと位置付け、他の物質は死因の一因となりうると記載することによって、死亡診断書の作成者（医師）はヘロインが死を引き起こした最重要物質と判断する。</p> <p>ii) 主たる死因の成分が明示されていない場合は、死亡診断書の作成者（医師）から説明を求めるべきである。</p> <p>iii) そのような説明が得られない場合、アルコールと他の薬物との配合剤をコードする。その他の多くの薬剤が死因の場合、「その他」のコードを当てる。</p> <p>iv) <u>F10-F19 と中毒が同じ死亡診断書に記載されている場合は、下記のように処理する：</u></p> <p><u>F10-F19 精神作用物質使用による精神および行動の障害</u></p> <p><u>下記の記載を伴うもの：</u>  <u>X40-X49 有害物質による不慮の中毒および有害物質への曝露、X40-X49 にコードする。</u>  <u>X60-X69 有害物質による中毒および曝露にもとづく自傷および自殺、X60-X69 にコードする。</u>  <u>X85-X90 有害物質による加害、X85-X90 にコードする。</u>  <u>Y10-Y19 薬物、化学物質および有害物質による中毒および曝露、Y10-Y19 にコードする。</u>  <u>4 桁細分類項目.0（急性中毒）、X40-X49、X60-X69、X85-X90 または Y10-Y19 にコードする。</u></p> <p><u>F10-F19 に分類される複数の病態が同じ死亡診断書に記載されている場合は、4.1.11 節参照。</u></p> <p>B) 最も危険な薬物の同定</p> <p>さまざまな薬剤による死亡について、最も有用な統計を出すために一番重要なのは、原死因に加えて最も危険な薬物の同定を行うことである。最も危険な薬物を選択したら、次の要領に従う。</p> <p>もし配合剤の成分が死因として推定されたら、その成分にコードする。もし単一成分を死因とすることができないときは、アルコールと薬物の配合剤の場合は、薬物にコードする。分類に配合剤の項目があれば、その薬物の配合剤にコードする。もし、配合剤の適切な分類項目がなければ、以下に示す優先順位に従って、コードをつける。分類中に、たとえば、抗てんかん薬の配合剤（T42.5）など、薬物の配合剤に対して、特定の分類項目が規定されている場合は、その項目にコードする。もし、適切な配合剤分類項目がない場合は、下記の優先順位に従って主たる損傷コードを選択する。</p> <p>1. オピオイド（T40.0-T40.2）</p>	<p><u>Y10-Y19 Poisoning by and exposure to drugs, chemicals and noxious substances, code Y10-Y19</u>  <u>Fourth character .0 (Acute intoxication), code X40-X49, X60-X69, X85-X90 or Y10-Y19</u>  <u>Refer to section 4.1.11 when multiple conditions classified to F10-F19 are reported on the same record.</u>  B) Identifying the most dangerous drug  To provide useful statistics on multiple drug deaths, it is of utmost importance that the most dangerous drug is identifiable in addition to the underlying cause (see also <i>Nature of injury</i>, pp 86-87). When selecting the code for the most dangerous drug, apply the following instructions.  If one component of the combination is specified as the cause of death, code to that component. If no single component is indicated as the cause of death, code combinations of alcohol with a drug to the drug. When the classification provides a specific category for a combination of drugs, e.g. mixed antiepileptics (T42.5), code to that category. If no appropriate combination category is available, select the main injury code in the following order of priority:  1. Opioids (T40.0-T40.2)  Combinations including opioids classifiable to more than one fourth-character subcategory in T40.0-T40.2: Code to T40.2  2. Cocaine (T40.5)  3. Psychostimulants with abuse potential (T43.6)  Includes: Amphetamine and derivatives  4. Synthetic narcotics and other and unspecified narcotics (T40.3-T40.4, T40.6)  Combinations including synthetic narcotics classifiable to more than one fourth-character subcategory in T40.3-T40.4: Code to T40.4  Combinations including synthetic narcotics classifiable to more than one fourth-character subcategory in T40.3-T40.4 with other and unspecified narcotics classifiable to T40.6: Code to T40.6  5. Antidepressants (T43.0-T43.2)  Combinations including antidepressants classifiable to more than one fourth-character subcategory in T43.0-T43.2: Code to T43.2  6. Non-opioid analgesics (T39.-)  Combinations including non-opioid analgesics classifiable to more than one fourth-character subcategory in T39.0-T39.4: Code to T39.8  7. Drugs and substances not listed above  If the death certificate reports more than one such drug, code to the first mentioned.  <u>If there is more than one drug in the same priority group, code to the first mentioned.</u></p>

No.	現行	改正案	WHO勧告 (原文)
	<p>6. 非オピオイド系鎮痛薬 (T39.-) T39.0-T39.4 の複数の 4 桁細分類項目に分類可能な非オピオイド系鎮痛薬を含む配合薬: T39.8 にコードする。</p> <p>7. 上記以外の薬物および製剤 もし、死亡診断書に複数のこのような薬剤が記載されている場合は、最初に記載されたものをコードする。</p>	<p>T40.0-T40.2 の複数の 4 桁細分類項目に分類可能なオピオイドを含む配合薬: T40.2 にコードする。</p> <p>2. コカイン (T40.5)</p> <p>3. 乱用される可能性のある興奮薬 (T43.6) 包含: アンフェタミンならびにその誘導体</p> <p>4. 合成麻薬ならびにその他の詳細不明の麻薬 (T40.3-T40.4、T40.6) T40.3-T40.4 の複数の 4 桁細分類項目に分類可能な合成麻薬を含む配合剤:T40.4 にコードする。 T40.3-T40.4 の複数の 4 桁細分類項目に分類可能な合成麻薬、および T40.6 に分類可能なその他の詳細不明な麻薬を含む配合薬:T40.6 にコードする。</p> <p>5. 抗うつ薬 (T43.0-T43.2) T43.0-T43.2 の複数の 4 桁細分類項目に分類可能な抗うつ薬を含む配合薬:T43.2 にコードする。</p> <p>6. 非オピオイド系鎮痛薬 (T39.-) T39.0-T39.4 の複数の 4 桁細分類項目に分類可能な非オピオイド系鎮痛薬を含む配合薬: T39.8 にコードする。</p> <p>7. 上記以外の薬物および製剤 もし、死亡診断書に複数のこのような薬剤が記載されている場合は、最初に記載されたものをコードする。</p> <p><u>死亡診断書に同じ優先順位に属する薬剤が複数記載されている場合は、最初に記載されたものをコードする。</u></p>	
85	<p><b>4.2.12 外因</b></p> <p>病態が第 XIX 章 (損傷、中毒およびその他の外因の影響) に分類される場合、そしてそのような場合のみ、外因のコード (V01-Y89) が、単一病態コーディングのための一次コードおよび原因の製表のための一次コードとして用いられる。</p> <p>病態が第 I 章から第 XVIII 章に分類される場合、病態それ自身は、原因としてコードされるべきであり、もし、望むならば、追加コードとして、外因に対する章からの分類項目を使用してもよい。</p>	<p><b>4.2.1213 外因</b></p> <p>病態が第 XIX 章 (損傷、中毒およびその他の外因の影響) に分類される場合、そしてそのような場合のみ、外因のコード (V01-Y89) が、単一病態コーディングのための一次コードおよび原因の製表のための一次コードとして用いられる。</p> <p>病態が第 I 章から第 XVIII 章に分類される場合、病態それ自身は、原因としてコードされるべきであり、もし、望むならば、追加コードとして、外因に対する章からの分類項目を使用してもよい。</p> <p><u>外因として一連の事象が記載されている場合、一般原則および選択ルールを通常の方法で適用して、死亡者に影響を及ぼした最初の事象を選ぶ。</u></p> <p>例: I (a) 低体温</p>	<p><b>4.2.12 External causes</b></p> <p>The codes for external causes (V01-Y89) should be used as the primary codes for single-condition coding and tabulation of the underlying cause when, and only when, the morbid condition is classifiable to Chapter XIX (Injury, poisoning and certain other consequences of external causes). When the morbid condition is classified to Chapters I-XVIII, the morbid condition itself should be coded as the underlying cause and categories from the chapter for external causes may be used, if desired, as supplementary codes. <u>When a sequence of external events is reported, apply the General Principle and the selection rules in the normal way, and select the first external event that affected the decedent.</u> <u>Example: I (a) Hypothermia</u> <u>(b) Exposure to cold</u> <u>(c) Driver of car, left road, rolled down embankment, trapped in car 3 days before discovery</u> <u>Code to driver of car injured in noncollision transport accident (V48.5)</u></p>



No.	現行	改正案	WHO勧告 (原文)
		<p>(b) 低温の作用 (c) 自動車運転者、道を逸れて土堤を転落、発見されるまで3日間、自動車に閉じ込められる。</p> <p>衝突以外の交通事故により受傷した乗用車運転者 (V48.5) にコードする。</p>	
86	<p><b>4.2.14 ヒト免疫不全ウイルス (HIV)</b></p> <p>何らかの病態 (たとえば血液疾患) に対し、治療として輸血された場合および感染した血液が供給され HIV に感染した場合、治療の対象とされた病態ではなく、HIVを原死因としてコードする。</p> <p>例 1: I (a) カポジ肉腫 1年 (b) HIV 3年 (c) 輸血 5年 (d) 血友病 出生後</p> <p>HIVにコードする。</p> <p>例 2: I (a) ニューモシスチス・カリニ6ヶ月 (b) HIV 5年 (c) 脾破裂 7年 (d) 暴行-素手の殴り合い 7年</p> <p>HIVにコードする。</p>	<p><b>4.2.1415 ヒト免疫不全ウイルス (HIV)</b></p> <p>何らかの病態 (たとえば血液疾患) に対し、治療として輸血された場合および感染した血液が供給され HIV に感染した場合、治療の対象とされた病態ではなく、HIVを原死因としてコードする。</p> <p>例 1: I (a) カポジ&lt;Kaposi&gt;肉腫 1年 (b) HIV 3年 (c) 輸血 5年 (d) 血友病 出生後</p> <p>HIVにコードする。</p> <p>例 2: I (a) ニューモシスチス・カリニ[jirovecii]6ヶ月 (b) HIV 5年 (c) 脾破裂 7年 (d) 暴行-素手の殴り合い 7年</p> <p>HIVにコードする。</p>	<p><b>4.2.14 Human Immunodeficiency Virus (HIV)</b> When a blood transfusion is given as treatment for any condition (e.g. a haematological disorder) and an infected blood supply results in a HIV infection, code the HIV as the underlying cause and not the treated condition.</p> <p>Example 1: I (a) Kaposi's sarcoma 1 year (b) HIV 3 years (c) Blood transfusion 5 years (d) Haemophilia since birth</p> <p>Code to HIV.</p> <p>Example 2: I (a) <i>Pneumocystis carinii</i>[<i>jirovecii</i>] 6 months (b) HIV 5 years (c) Ruptured spleen 7 years (d) Assault – fist fight 7 years</p> <p>Code to HIV.</p>
87		<p>4.2 死因記載の解釈についての注</p> <p>4.2.1 中間原因の仮定</p> <p>4.2.2 「因果関係がほとんどない」の解釈</p> <p>4.2.3 分類に対する期間の影響</p> <p>...</p> <p><b>4.2.16 妊産婦&lt;母体&gt;の(産科学的な)原因による死亡</b></p> <p>a) 特に間接的な産科的原因の症例では、妊産婦&lt;母体&gt;の死亡を確認することが困難なことが多い。死因が産科的なことであるということが疑わしい場合、例えば I 欄に記入された病態が産科的でなく、II 欄において妊娠または分娩の記載がある場合、死亡診断書作成者(医師)の確認を取るべきである。妊産婦&lt;母体&gt;死亡率が高い国々では、これは特に重要である。更なる情報が得られない場合、I 欄において妊娠および分娩の記載のある死亡は産科的と考えるべきであるが、II 欄においてのみ妊娠または分娩の記載のある死亡は産科的と考えるべきではない。</p> <p>b) 妊産婦&lt;母体&gt;死亡率を計算する場合、間接産科的原因について 4.2.16 節 a)に概説されている規定に適合するという前提で、第15章(Oコード)にコードされない一定の症例も妊産婦&lt;母体&gt;死亡率に含めるべきである。これらの症例は、第15章の冒頭の</p>	<p>4.2 Notes for interpretation of entries of causes of death</p> <p>4.2.1 Assumption of intervening cause</p> <p>4.2.2 Interpretation of “highly improbable”</p> <p>4.2.3 Effect of duration on classification</p> <p>...</p> <p>4.2.15 <b>Death due to maternal (obstetric) causes</b></p> <p>a) <u>It is often difficult to identify a maternal death, particularly in cases of indirect obstetric causes. If there is any doubt that the cause of death is obstetrical, for example if the conditions entered in Part I are not obstetrical but there is a mention of pregnancy or delivery in Part II, additional information should be sought from the certifier. This is particularly important in countries where maternal mortality rate is high. If no additional information can be found, deaths with a mention of pregnancy and delivery in Part I should be considered obstetrical, but not deaths where pregnancy or delivery is mentioned in Part II only.</u></p> <p>b) <u>Note that when calculating maternal mortality rates, certain cases not coded to Chapter XV (O codes) should be included, provided that they meet the specifications outlined in section 4.2.15 a) for indirect obstetric causes. These cases are listed in the “Exclusion Note” at the beginning of Chapter XV.</u></p> <p>c) <u>There are cases of death due to obstetric causes that are not included in the calculation of the maternal death rate. These are those cases in which death occurs more than 42 days after delivery (see definition</u></p>



No.	現行	改正案	WHO勧告 (原文)
		<p>「除外」に記載されている。  <u>c) 妊産婦&lt;母体&gt;死亡率の計算に組み入れられない産科的原因による死亡の症例がある。これらの症例は、死亡が分娩後 42 日以降に発生する症例である (5.8.1 節「妊産婦&lt;母体&gt;死亡の定義を参照)。</u></p>	<p>of “Maternal death” on page 134, Volume 2, ICD-10).</p>
88		<p><b>4.2.17 糖尿病の原因となり得る病態のリスト</b></p> <p>付表 10.2 は、糖尿病の原因となり得る病態のリストである。このリストは、糖尿病の他の疾患「による」ものとして認められる上下の因果関係を示すものである。</p>	<p><b>4.2.17 List of conditions that can cause diabetes</b></p> <p><u>In Appendix 7.2 is a list of the conditions that can cause diabetes. This list provides the acceptable sequences for diabetes “due to” other diseases.</u></p>
89	<p>4.4 疾病統計  4.4.4 章ごとの注釈</p> <p>第 VII 章：眼および付属器の疾患</p> <p>H54.- 盲&lt;失明&gt;および低視力  このコードは、もし原因が記載されてあったとしても、ケアのエピソードが主に盲&lt;失明&gt;自身に対するものでなければ、「主要病態」に対する優先コードとしては使用しない。原因のコーディングの場合には、H54.-を任意的追加コードとして使用することができる。</p>	<p>4.4 疾病統計  4.4.4 章ごとの注釈</p> <p>第 VII 章：眼および付属器の疾患</p> <p>H54.- 視機能障害および盲&lt;失明&gt;（両眼または単眼）盲&lt;失明&gt;および低視力  このコードは、もし原因が記載されてあったとしても、ケアのエピソードが主に盲&lt;失明&gt;自身に対するものでなければ、「主要病態」に対する優先コードとしては使用しない。原因のコーディングの場合には、H54.-を任意的追加コードとして使用することができる。</p>	<p><b>4.4 Morbidity</b></p> <p><b>4.4.4 Chapter-specific notes</b></p> <p><i>Chapter VII: Diseases of the eye and adnexa</i></p> <p><del>H54.- Blindness and low vision</del> <b>Visual impairment including blindness (binocular or monocular)</b>  This code is not to be used as the preferred code for the "main condition" if the cause is recorded, unless the episode of care was mainly for the blindness itself. When coding to the cause, H54.- may be used as an optional additional code.</p>
90	<p><b>5.8.1 定義</b>  妊産婦&lt;母体&gt;死亡 (Maternal death)  後発妊産婦&lt;母体&gt;死亡 (Late maternal death)</p> <p>妊娠関連死亡 (Pregnancy – related death)  妊娠関連死亡とは、死亡の原因いかににかかわらず、妊娠中または妊娠終了後満 42 日未満の女性の死亡をいう。</p>	<p><b>5.8.1 定義</b>  妊産婦&lt;母体&gt;死亡 (Maternal death)  後発妊産婦&lt;母体&gt;死亡 (Late maternal death)</p> <p><u>妊娠、分娩および産じょく&lt;褥&gt;の期間に生じる死亡妊娠関連死亡 (Death occurring during pregnancy, childbirth and puerperium)</u>  <del>Pregnancy – related death</del>  妊娠、分娩および産じょく&lt;褥&gt;の期間に生じる死亡妊娠関連死亡とは、死亡の原因 (産科またはそれ以外) いかににかかわらず、妊娠中または妊娠終了後満 42 日未満の女性の死亡をいう。</p>	<p><b>5.8.1 – Definitions</b>  <b>Maternal death ...</b>  <b>Late maternal death ...</b>  <del>Pregnancy-related death</del> <b>Death occurring during pregnancy, childbirth and puerperium</b>  A <del>pregnancy-related death occurring during pregnancy, childbirth and puerperium</del> is the death of a woman while pregnant or within 42 days of termination of pregnancy, irrespective of the cause of death (<b>obstetric and non obstetric</b>).</p>
91	<p><b>5.8.4 妊産婦&lt;母体&gt;死亡の分母</b></p> <p>妊娠関連死亡比 (Pregnancy-related mortality ratio)</p> $\frac{\text{妊娠関連死亡数} \times k}{\text{出生数}}$	<p><b>5.8.4 妊産婦&lt;母体&gt;死亡の分母</b></p> <p><u>妊娠、分娩および産じょく&lt;褥&gt;の期間に生じる死亡比 (Ratio for death occurring during pregnancy, childbirth and puerperium)</u>  <del>妊娠関連死亡比 (Pregnancy-related mortality ratio)</del></p> $\frac{\text{妊娠、分娩および産じょく<褥>の期間に生じる死亡妊娠関連死亡数} \times k}{\text{出生数}}$	<p><b>5.8.4 Denominators for maternal mortality</b></p> <p><del>Pregnancy-related mortality</del> <b>Ratio for death occurring during pregnancy, childbirth and puerperium</b></p> $\frac{\text{Pregnancy-related deaths occurring during pregnancy, childbirth and puerperium} \times k}{\text{Live birth}}$

No.	現行	改正案	WHO勧告 (原文)																																																																																										
92	<p><b>5.8.3 妊産婦&lt;母体&gt;死亡率の公表</b></p> <p>ヒト免疫不全ウイルス [HIV] 病 (B20-B24) および産科的破傷風 (A34) による妊産婦&lt;母体&gt;死亡は、第 I 章にコードされることに注意しなければならない。このような症例は、妊産婦&lt;母体&gt;死亡率に含めるように注意しなくてはならない。</p>	<p><b>5.8.3 妊産婦&lt;母体&gt;死亡率の公表</b></p> <p>妊産婦&lt;母体&gt;死亡率を計算する場合、第 15 章 (O コード) にコードされない症例を妊産婦&lt;母体&gt;死亡率に含めるように注意しなければならない。第 15 章の冒頭の「除外」に記載されている分類項目も、それが間接的産科原因について 4.2.16 節の a) に概説されている規定に適合していれば、含まれる。ヒト免疫不全ウイルス [HIV] 病 (B20-B24) および産科的破傷風 (A34) による妊産婦&lt;母体&gt;死亡は、第 I 章にコードされることに注意しなければならない。このような症例は、妊産婦&lt;母体&gt;死亡率に含めるように注意しなくてはならない。</p>	<p><b>5.8.3 Published maternal mortality rates</b></p> <p>It should be noted that maternal deaths from HIV disease (B20-B24) and obstetrical tetanus (A34) are coded to Chapter I. Care must be taken to include such cases in the maternal mortality rate. Note that when calculating maternal mortality rates, cases not coded to Chapter XV (O codes) should be included. These include those categories presented in the “Exclusion Note” at the beginning of Chapter XV, provided that they meet the specifications outlined in section 4.2.15 a) for indirect obstetric causes.</p>																																																																																										
93	<p><b>7. Appendices</b></p> <p><b>7.1 List of conditions unlikely to cause death (see 4.1.9, Rule B)</b></p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>Code</th> <th>Category or subcategory</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>...</td> <td></td> </tr> <tr> <td><a href="#">F69</a></td> <td>Unspecified disorder of adult personality and behaviour</td> </tr> <tr> <td><a href="#">F80-F89</a></td> <td>Disorders of psychological development</td> </tr> <tr> <td><a href="#">F95.0-F95.9</a></td> <td>Tic disorders</td> </tr> </tbody> </table>	Code	Category or subcategory	...		<a href="#">F69</a>	Unspecified disorder of adult personality and behaviour	<a href="#">F80-F89</a>	Disorders of psychological development	<a href="#">F95.0-F95.9</a>	Tic disorders	<p><b>10. 付録</b></p> <p><b>10.1 死亡を引き起こす可能性の低い病態のリスト (4.1.9 節ルール B 参照)</b></p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>コード</th> <th>分類項目または細分類項目</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>...</td> <td></td> </tr> <tr> <td><a href="#">F69</a></td> <td>詳細不明の成人の人格および行動の障害</td> </tr> <tr> <td><a href="#">F80-F89</a></td> <td>心理的発達障害</td> </tr> <tr> <td><a href="#">F95.0-F95.9</a></td> <td>チック障害</td> </tr> </tbody> </table>	コード	分類項目または細分類項目	...		<a href="#">F69</a>	詳細不明の成人の人格および行動の障害	<a href="#">F80-F89</a>	心理的発達障害	<a href="#">F95.0-F95.9</a>	チック障害	<p><b>10. 付録</b></p> <p><b>10.1 死亡を引き起こす可能性の低い病態のリスト</b></p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>コード</th> <th>分類項目または細分類項目</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>...</td> <td></td> </tr> <tr> <td><a href="#">F69</a></td> <td>詳細不明の成人の人格および行動の障害</td> </tr> <tr> <td><a href="#">F95.0-F95.9</a></td> <td>チック障害</td> </tr> </tbody> </table>	コード	分類項目または細分類項目	...		<a href="#">F69</a>	詳細不明の成人の人格および行動の障害	<a href="#">F95.0-F95.9</a>	チック障害																																																														
Code	Category or subcategory																																																																																												
...																																																																																													
<a href="#">F69</a>	Unspecified disorder of adult personality and behaviour																																																																																												
<a href="#">F80-F89</a>	Disorders of psychological development																																																																																												
<a href="#">F95.0-F95.9</a>	Tic disorders																																																																																												
コード	分類項目または細分類項目																																																																																												
...																																																																																													
<a href="#">F69</a>	詳細不明の成人の人格および行動の障害																																																																																												
<a href="#">F80-F89</a>	心理的発達障害																																																																																												
<a href="#">F95.0-F95.9</a>	チック障害																																																																																												
コード	分類項目または細分類項目																																																																																												
...																																																																																													
<a href="#">F69</a>	詳細不明の成人の人格および行動の障害																																																																																												
<a href="#">F95.0-F95.9</a>	チック障害																																																																																												
94		<p><b>付録 10.2</b></p> <p><b>10.2 糖尿病の原因となり得る病態のリスト</b></p> <p>糖尿病の他の疾患「による」ものとして受け入れられる因果関係</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>選ばれた原因</th> <th>引き起こされた病態</th> </tr> </thead> <tbody> <tr><td>M35.9</td><td>E10、E14</td></tr> <tr><td>E40-E46</td><td>E12、E14</td></tr> <tr><td>B25.2</td><td>E13-E14</td></tr> <tr><td>B26.3</td><td>E13-E14</td></tr> <tr><td>C25</td><td>E13-E14</td></tr> <tr><td>D13.6-D13.7</td><td>E13-E14</td></tr> <tr><td>D35.0</td><td>E13-E14</td></tr> <tr><td>E05-E06</td><td>E13-E14</td></tr> <tr><td>E22.0</td><td>E13-E14</td></tr> <tr><td>E24</td><td>E13-E14</td></tr> <tr><td>E80.0-E80.2</td><td>E13-E14</td></tr> <tr><td>E83.1</td><td>E13-E14</td></tr> <tr><td>E84</td><td>E13-E14</td></tr> <tr><td>E89.1</td><td>E13-E14</td></tr> <tr><td>F10.1-F10.2</td><td>E13-E14</td></tr> <tr><td>G10</td><td>E13-E14</td></tr> <tr><td>G11.1</td><td>E13-E14</td></tr> <tr><td>G25.8</td><td>E13-E14</td></tr> </tbody> </table>	選ばれた原因	引き起こされた病態	M35.9	E10、E14	E40-E46	E12、E14	B25.2	E13-E14	B26.3	E13-E14	C25	E13-E14	D13.6-D13.7	E13-E14	D35.0	E13-E14	E05-E06	E13-E14	E22.0	E13-E14	E24	E13-E14	E80.0-E80.2	E13-E14	E83.1	E13-E14	E84	E13-E14	E89.1	E13-E14	F10.1-F10.2	E13-E14	G10	E13-E14	G11.1	E13-E14	G25.8	E13-E14	<p><b>List of conditions that can cause diabetes</b></p> <p><b>List of the conditions that can cause diabetes</b></p> <p><b>Acceptable sequences for diabetes “due to” other diseases</b></p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>Selected cause</th> <th>As cause of</th> </tr> </thead> <tbody> <tr><td>M35.9</td><td>E10, E14</td></tr> <tr><td>E40-E46</td><td>E12, E14</td></tr> <tr><td>B25.2</td><td>E13-E14</td></tr> <tr><td>B26.3</td><td>E13-E14</td></tr> <tr><td>C25</td><td>E13-E14</td></tr> <tr><td>D13.6-D13.7</td><td>E13-E14</td></tr> <tr><td>D35.0</td><td>E13-E14</td></tr> <tr><td>E05-E06</td><td>E13-E14</td></tr> <tr><td>E22.0</td><td>E13-E14</td></tr> <tr><td>E24</td><td>E13-E14</td></tr> <tr><td>E80.0-E80.2</td><td>E13-E14</td></tr> <tr><td>E83.1</td><td>E13-E14</td></tr> <tr><td>E84</td><td>E13-E14</td></tr> <tr><td>E89.1</td><td>E13-E14</td></tr> <tr><td>F10.1-F10.2</td><td>E13-E14</td></tr> <tr><td>G10</td><td>E13-E14</td></tr> <tr><td>G11.1</td><td>E13-E14</td></tr> <tr><td>G25.8</td><td>E13-E14</td></tr> <tr><td>G71.1</td><td>E13-E14</td></tr> <tr><td>K85</td><td>E13-E14</td></tr> <tr><td>K86.0-K86.1</td><td>E13-E14</td></tr> <tr><td>K86.8-K86.9</td><td>E13-E14</td></tr> <tr><td>M35.9</td><td>E13-E14</td></tr> <tr><td>O24.4</td><td>E13-E14</td></tr> <tr><td>P35.0</td><td>E13-E14</td></tr> </tbody> </table>	Selected cause	As cause of	M35.9	E10, E14	E40-E46	E12, E14	B25.2	E13-E14	B26.3	E13-E14	C25	E13-E14	D13.6-D13.7	E13-E14	D35.0	E13-E14	E05-E06	E13-E14	E22.0	E13-E14	E24	E13-E14	E80.0-E80.2	E13-E14	E83.1	E13-E14	E84	E13-E14	E89.1	E13-E14	F10.1-F10.2	E13-E14	G10	E13-E14	G11.1	E13-E14	G25.8	E13-E14	G71.1	E13-E14	K85	E13-E14	K86.0-K86.1	E13-E14	K86.8-K86.9	E13-E14	M35.9	E13-E14	O24.4	E13-E14	P35.0	E13-E14
選ばれた原因	引き起こされた病態																																																																																												
M35.9	E10、E14																																																																																												
E40-E46	E12、E14																																																																																												
B25.2	E13-E14																																																																																												
B26.3	E13-E14																																																																																												
C25	E13-E14																																																																																												
D13.6-D13.7	E13-E14																																																																																												
D35.0	E13-E14																																																																																												
E05-E06	E13-E14																																																																																												
E22.0	E13-E14																																																																																												
E24	E13-E14																																																																																												
E80.0-E80.2	E13-E14																																																																																												
E83.1	E13-E14																																																																																												
E84	E13-E14																																																																																												
E89.1	E13-E14																																																																																												
F10.1-F10.2	E13-E14																																																																																												
G10	E13-E14																																																																																												
G11.1	E13-E14																																																																																												
G25.8	E13-E14																																																																																												
Selected cause	As cause of																																																																																												
M35.9	E10, E14																																																																																												
E40-E46	E12, E14																																																																																												
B25.2	E13-E14																																																																																												
B26.3	E13-E14																																																																																												
C25	E13-E14																																																																																												
D13.6-D13.7	E13-E14																																																																																												
D35.0	E13-E14																																																																																												
E05-E06	E13-E14																																																																																												
E22.0	E13-E14																																																																																												
E24	E13-E14																																																																																												
E80.0-E80.2	E13-E14																																																																																												
E83.1	E13-E14																																																																																												
E84	E13-E14																																																																																												
E89.1	E13-E14																																																																																												
F10.1-F10.2	E13-E14																																																																																												
G10	E13-E14																																																																																												
G11.1	E13-E14																																																																																												
G25.8	E13-E14																																																																																												
G71.1	E13-E14																																																																																												
K85	E13-E14																																																																																												
K86.0-K86.1	E13-E14																																																																																												
K86.8-K86.9	E13-E14																																																																																												
M35.9	E13-E14																																																																																												
O24.4	E13-E14																																																																																												
P35.0	E13-E14																																																																																												

No.	現行	改正案		WHO勧告 (原文)	
		G71.1	E13-E14	Q87.1	E13-E14
		K85	E13-E14	Q90	E13-E14
		K86.0- K86.1	E13-E14	Q96	E13-E14
		K86.8- K86.9	E13-E14	Q98	E13-E14
		M35.9	E13-E14	Q99.8	E13-E14
		O24.4	E13-E14	S36.2	E13-E14
		P35.0	E13-E14	T37.3	E13-E14
		Q87.1	E13-E14	T37.5	E13-E14
		Q90	E13-E14	T38.0- T38.1	E13-E14
		Q96	E13-E14	T42.0	E13-E14
		Q98	E13-E14	T46.5	E13-E14
		Q99.8	E13-E14	T46.7	E13-E14
		S36.2	E13-E14	T50.2	E13-E14
		T37.3	E13-E14	X41	E13-E14
		T37.5	E13-E14	X44	E13-E14
		T38.0- T38.1	E13-E14	X61	E13-E14
		T42.0	E13-E14	X64	E13-E14
		T46.5	E13-E14	Y11	E13-E14
		T46.7	E13-E14	Y14	E13-E14
		T50.2	E13-E14	Y41.3	E13-E14
		X41	E13-E14	Y41.5	E13-E14
		X44	E13-E14	Y42.0- Y42.1	E13-E14
		X61	E13-E14	Y46.2	E13-E14
		X64	E13-E14	Y52.5	E13-E14
		Y11	E13-E14	Y52.7	E13-E14
		Y14	E13-E14	Y54.3	E13-E14
		Y41.3	E13-E14		
		Y41.5	E13-E14		
		Y42.0- Y42.1	E13-E14		
		Y46.2	E13-E14		
		Y52.5	E13-E14		
		Y52.7	E13-E14		
		Y54.3	E13-E14		